

平成30年度 自己点検・評価
報告書

平成31年3月

自己点検・評価委員会

まえがき

この自己点検・評価報告書は、自己点検・評価委員会の業務として、機関別認証評価の基準に基づき本校の自己点検・評価を行った結果を示すもので、今年度は基準6、基準7および基準9を対象としている。

なお、この自己点検・評価は平成29年度までを対象としているが、点検資料の関係上平成30年度のものも含まれている。

平成31年3月29日

自己点検・評価委員会 委員長 大槻典行

目次

基準 6

- (1) 観点ごとの分析 - 1 -
- (2) 優れた点及び改善を要する点 - 36 -
- (3) 基準 6 の自己評価の概要 - 36 -

基準 7

- (1) 観点ごとの分析 - 38 -
- (2) 優れた点及び改善を要する点 - 118 -
- (3) 基準 7 の自己評価の概要 - 118 -

基準 9

- (1) 観点ごとの分析 - 120 -
- (2) 優れた点及び改善を要する点 - 181 -
- (3) 基準 9 の自己評価の概要 - 181 -

基準6 教育の成果

(1) 観点ごとの分析

観点6-1-①： 高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点到係る状況）

（準学士課程）科目ごとに成績評価基準がシラバスに定められ（資料6-1-①-1）、2018年よりwebシラバスに変わり、評価にルーブリックが取り入れられた。シラバス記載内容チェックシートにより相互チェックが行われている（資料6-1-①-2）。各科目の評価を基に、卒業・修了認定会議において成績一覧表から達成状況の把握・評価を行い、卒業認定基準に沿って認定を行っている（資料6-1-①-3, 5）。

学生自身による達成度評価が毎年行われており、集計結果は教務委員会に報告され、学校として把握している（資料6-1-①-6, 7, 8）。

また、年度ごとの進級・原級・退学・除籍など学生の達成状況の集計（資料6-1-①-9）は教務委員会において分析・評価され教育方法改善や学生支援の取組に活用されている。

（専攻科課程）科目ごとにシラバスに定められた成績評価方法に基づいて成績一覧表を作成し、教務委員会において達成状況の把握し、修了要件を検証した上で、全教員による卒業・修了認定会議において修了認定を行っている（資料6-1-①-4, 10, 11）。

修了生が複合型専攻の目的を満たすために、毎年度の入学生向けに科目分類表を作成し、他高専からの入学があった場合も、その学生用の科目分類表を作成している。さらに出身学科ごとに選択科目の条件を一覧にした選択条件表を学生にも閲覧させており慎重を期している（資料6-1-①-12, 13）。

学生自身による達成度評価が毎年行われており、集計結果は教務委員会に報告され、審議している（資料6-1-①-7, 8）。

「シラバス記入要領（2018年度版）」

科目情報・到達目標

教科名	確率統計		
科目基礎情報			
科目番号	17	科目区分	必修
授業の形式	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	情報工学科（情報工学分野）	対象学生	4
開講期	通年	週時限数	2
教科書/教材 担当者	※旧「テキスト・参考書」		
到達目標			
※旧「到達目標」をルーブリック形式で			

評価（ルーブリック）

評価（ルーブリック）	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)
評価項目1	※旧「到達目標」をルーブリック形式で		
評価項目2			
評価項目3			

学科の到達目標項目との関係

学科の到達目標項目との関係 評価方法等	※旧教科書・分野の教育要領または履修規定などの地方自治体前に表示されます。「創設高等学習目標」を
履修	※旧「授業の目標と概要」 ※「創設高等学習目標」や「JABEE教育目標」の対応%を表示する欄がありまはAなので、100%未満の場合はここに記載
履修の場など授業内容・方法	※旧「履修上の注意」「成績評価方法」「フリップ」 「到達科目」
注意事項	※その他の特記事項

資料6-1-①-1 (続き)

授業計画

授業計画			
	週	授業内容・方法	到達目標
前期	1週		
	2週		
	(中略) ※「前期中間試験を実施する/しない」を8週へ記載		
	15週		
	16週	※「前期期末試験を実施する/しない」をここに記載	
後期	1週		
	2週		
	(中略) ※「後期中間試験を実施する/しない」を8週へ記載		
	16週	※「後期期末試験を実施する/しない」をここに記載	

評価割合

試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○

(出典 シラバス記入要領 (2018年度版))

資料6-1-①-2

「シラバス記載内容 チェックシート」

シラバス記載内容 チェックシート Web シラバス導入後版

	提出	年	月	日
科目名	担当教員名	チェック番号		

1. 以下の項目について、正しく記入されているか。
- 学科、 科目名、 学年、 担当教員名、 単位数・期間
適当りの開講時限数、 必修・選択の別、 履修単位・学修単位の別（学修単位の種類）

指摘事項：.....

2. 授業の目標と概要
- 釧路高専目標が記入されているか。
複数の目標にまたがる場合、割合が記入されているか。
J A B E E目標が記入されているか。
目標のキーワードあるいはそれに関連する内容が記述されているか。
科目の関連が記載されているか。

指摘事項：.....

3. 履修上の注意
- 準備する用具を明記しているか。
前提となる知識を明記しているか。
自学自習を促す内容を明記しているか。（演習 レポート 小テスト回数 その他）

指摘事項：.....

4. 到達目標
- 目標のキーワードに関連する到達目標になっているか。
「～できる」という言い切りの文末になっているか。
到達度を簡潔で明確に判定できる記述になっているか。

指摘事項：.....

資料6-1-①-2 (続き)

5. 成績評価方法

- 合否判定方法が明確に記述されているか。
- 成績評価方法が明確に記述されているか。
- 再試験の判定方法が明確に記述されているか。
- 成績評価方法に関するガイドラインを逸脱していないか。

指摘事項：

.....

6. テキスト・参考書

- 使用するテキストを明記しているか。
- 参考書（あるいは、それに代わるもの）を例示しているか。
- 参考書を3種類以上示しているか。

指摘事項：

.....

7. メッセージ

- 履修にあたっての留意事項を記述しているか。

指摘事項：

.....

8. 授業の内容

- 週ごとの履修項目を記載しているか。
- 定期試験の有無を明示しているか。
- 週ごとの到達目標を記載しているか。
- 到達目標は学生が自己評価しやすいように簡潔に記述しているか。

指摘事項：

.....

9. ルーブリックと評価割合

- 「評価(ルーブリック)」欄の「未到達レベルの目安(不可)」の否定+ a = 「標準的な到達レベルの目安(良)」となる様に記述しているか。
- 「評価割合」欄について、原則として、一般科目は「基礎的能力」、専門科目は「専門的能力」に割り振っているか。

指摘事項：

.....

(出典 シラバス記載内容チェックシート)

資料6-1-①-3

「本科生の成績一覧表」

(㊟別資料参照)

資料6-1-①-4

「教員会議（卒業・修了認定）議事録」

平成29年度2月21日教員会議議事録

日 時： 平成30年2月21日（水） 16時40分～16時55分
場 所： 会議室
出席者： 56名 欠席者： 21名

議題

【報告事項等】

略

【審議事項】

1. 専攻科修了認定について

草刈専攻科長から資料2に基づき説明があり、審議の結果、建設生産システム専攻3名、電子情報システム専攻21名、合計24名の専攻科修了が認められた。

以下略

平成29年度3月5日教員会議議事録

日 時： 平成30年3月5日（月） 14時30分～14時54分
場 所： 会議室
出席者： 69名 欠席者： 8名

議題

【報告事項等】

略

【審議事項】

1. 平成29年度卒業認定について

修学支援係長から、成績一覧表に基づき、成績評価の訂正について説明があった後、校長から、その他の成績評価の訂正の有無について確認があり、一部成績の訂正がなされた。引き続き教務主事から、資料1に基づき、機械工学科13名、電気工学科34名、電子工学科35名、情報工学科36名、建築学科36名の合計154名が卒業要件を満たしている旨の説明があった後、校長から154名について卒業を認定したい旨の提案があ

以下略

資料6-1-①-4 (続き)

平成29年度3月14日教員会議議事録

日 時： 平成30年3月14日(木) 15時00分～16時15分
 場 所： 会議室
 出席者： 72名 欠席者： 5名

冒頭、校長から、平成29年度末の教職員の退職者及び異動者の紹介があり、それぞれ挨拶が行われた。

議題

【報告事項等】

略

【審議事項】

1. 平成29年度進級認定について

議事に先立ち、修学支援係長から資料の確認があり、併せて本日の各資料は、教務事務システム入力期限の3月13日(火)午前までに提出された成績評価を基に作成している旨、説明があった。

引き続き校長から、本科成績一覧表のうち、評価訂正がある場合には、この席上で報告するよう出席教員に対し確認の発言があり、別紙成績一覧表のとおり席上での評価訂正報告があった。

(1) 未修得科目の認定について

教務主事から、資料1に基づき説明及び未修得科目が不合格となった者の確認があり、審議の結果、了承された。

(2) 再試験非該当者について

教務主事から、資料2に基づき、退学願を提出済みの者を除き原級とする旨の提案があり、審議了承された。

なお、修了退学を希望している学生については、審議事項4の「修了退学について」において審議する旨の説明があった。

(3) 再試験結果欠点者について

修学支援係長から、成績一覧表で席上訂正を行った者の確認があった後、教務主事から、第1学年～第4学年について学級相対より学生1名ごとに「未修得准路」、「直路」及び「退学」の意向について発言願いたい旨説明があり、学生ごと個別に確認が行われ、審議の結果、別紙(資料3)のとおり了承された。

(4) 修了退学について

教務主事から、資料4に基づき、掲載されている学生全員が修了退学の要件を満たしている旨の説明があった(資料訂正あり。[]は欠点科目2。数学(1年未修得)は欠点科目から削除)。これを受け、本案をもって修了退学の認定をしたい旨の説明があり、審議了承された。続いて修学支援係長より、資料4について再度読み上げ確認が行われた。

資料6-1-①-4 (続き)

(5) 復学・退学・休学について

修学支援係長から、資料5について読み上げ確認が行われ、学級担任から1名他校受験しないことになった旨の訂正があった。審議の結果、別紙(資料5)のとおり了承された。

(6) 専攻科1学年の単位認定について

専攻科長から、3月臨時専攻科委員会で確認された専攻科1年成績一覧表について説明があった。これを受け校長から、本案をもって単位認定としたい旨の説明があり、審議了承された。なお、成績一覧表は学生課に保管しているので、必要に応じて確認いただき、変更があった場合は周知する旨補足があった。

(7) その他

校長から、原級者のいる現担任に対して、以下について学生に十分な指導をしていただきたい旨発言があった。

- ・学業の継続についての指導。
- ・4月に入ってからの退学するというようなことがないように指導する。
- ・新担任への引継ぎを十分に行うこと。

また、今年度退学者は47名と、他高等では減少傾向にある中、昨年度より3名増加する結果となり誠に残念であること、また、入学者も定員を満たしておらず厳しい状況にあることについて、少しでも改善していけるよう、以下について依頼したい旨発言があった。

- ・現在の未修得進級制度では、授業や再試験なしで定期試験に合格しなければならず、学生の負担になっている。そこで、未修得科目を5月末までに認定し、現学年の勉強に専念できるよう、制度改正を検討願いたい。
- ・退学者が特定のクラスで多くなっていることには、構造的な問題がある可能性がある。要因と改善策について各分野で検討し、レポートを出していただきたい。

以下略

(出典 平成29年度教員会議議事録)

資料6-1-①-5

「学業成績の試験・評価及び進級並びに卒業の認定に関する内規」 (抜粋)

(前略)

第4章 進級及び卒業の認定

第8条 当該学年課程の修了及び卒業の認定は、原則として教員会議の議を経て、校長が行う。

2 当該学年課程の修了及び卒業の認定にあたっては、次の各号の条件が全て満たされていないなければならない。ただし、校長が特別の事情があると認めた場合は、この限りでない。

一 各科目の学年成績の評点が、60点以上である者

二 原則として年間出席すべき日数の5分の4以上出席した者

三 原則として各科目の年間授業時数の5分の4以上出席した者

3 不合格科目がある者に係る進級の取扱いについては、別に定める

4 原学年にとどめられた者の再履修において、別表第2に掲げる科目については、修得した単位を有効とし、再履修を免除するものとする。

(後略)

(出典 釧路高専規程)

「学習達成度評価アンケート様式」

達成度評価アンケート実施要項

目的： 実践的・創造的技術者になるために、本校の学習目標（准学士過程）の達成状況について、学生自ら評価し、将来に向けての指標とする。

実施時期： 授業評価アンケートに併せて実施する。

対象： 本科4・5学年学生

実施内容： 本校の学習目標（A-G）について、それぞれ4段階（4：十分に到達できた、3：到達できた、2：若干到達できた、1：到達できなかった。）で評価し、最も到達できたと思う学年を選ぶ。詳細は別紙、アンケート参照。

実施方法： 以下のURLにアクセスし、IDとパスワードでログインし、指示に従って入力する。

・URL <http://157.114.16.98:3001/>

・ID p+学籍番号

・Pass 学生が日常使用している本校のMailやWebのアクセスに利用しているパスワード

(出典 平成30年度1月教務委員会資料)

資料 6 - 1 - ① - 6 (続き)

「学習達成度評価アンケート様式」

第 4 学年向け

あなたは、本校の学習目標達成にあたって、どの程度到達できましたか、目標ごとに以下の表に記入して答えてください。

- ① 到達度：4段階で答えてください。 4：十分に到達できた。 3：到達できた。 2：若干到達できた。 1：到達できていない。
- ② 1年～4年：上記の質問で2から4と答えた場合、4年間の教育課程のどの部分で到達できたと思いますが、最も到達できたと思う学年に◎、到達できたと
思う学年に○を記入してください。◎はひとつだけ、○はふたつまで記入してください。
- ③ 自由記述：感じたことを記入してください。(例えば、目標に対応して到達できた代表的な科目名、到達できていない理由など。)

学科 [M E D J A] ○で囲んでください。

学習目標 (実践的・創造的技術者)	到達度	1年	2年	3年	4年	自由記述
A (技術者として社会に貢献するために) 人類の歴史的な背景、文化や価値観の多様性を理解し、地球規模で社会問題や環境問題を考える基礎能力、および技術が社会や環境に与える影響を認識し、技術者が社会に対して負っている責任を理解する基礎能力を身につける。						
B (地域・社会に貢献するために) 地域の産業や社会の抱える課題に対処できる基礎能力を身につける。						
C (技術的課題を解決できるように) 工学の幅広い基礎知識 (数学、自然科学、情報技術、基礎工学) を修得し、それらに応用する能力を身につける。						
D 技術者として自己の基礎となる専門分野の知識を修得し、それに応用する能力を身につける。						
E 技術的課題を分析・総合し、解決するための計画をたて、その計画を実行して課題を解決する基礎能力を身につける。さらに、チームワークで仕事をすすめる基礎能力を身につける。						
F 文章、口頭、図表や視覚的な方法によって、効果的にコミュニケーションができる基礎能力を身につける。すなわち、日本語で論理的に記述し討論する能力、および簡単な論理的文章を英語で記述し、基本的な英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識を身につける。						
G (技術の進展や社会の変化に対応できるように) 継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につける。						

第 5 学年向け

あなたは、本校の学習目標達成にあたって、どの程度到達できましたか、目標ごとに以下の表に記入して答えてください。

- ① 到達度：4段階で答えてください。 4：十分に到達できた。 3：到達できた。 2：若干到達できた。 1：到達できなかった。
- ② 1年～5年：上記の質問で2から4と答えた場合、5年間の教育課程のどの部分で到達できたと思いますが、最も到達できたと思う学年に◎、到達できたと
思う学年に○を記入してください。◎はひとつだけ、○はふたつまで記入してください。
- ③ 自由記述：感じたことを記入してください。(例えば、目標に対応して到達できた代表的な科目名、到達できなかった理由など。)

学科 [M E D J A] ○で囲んでください。

学習目標 (実践的・創造的技術者)	到達度	1年	2年	3年	4年	5年	自由記述
A (技術者として社会に貢献するために) 人類の歴史的な背景、文化や価値観の多様性を理解し、地球規模で社会問題や環境問題を考える基礎能力、および技術が社会や環境に与える影響を認識し、技術者が社会に対して負っている責任を理解する基礎能力を身につける。							
B (地域・社会に貢献するために) 地域の産業や社会の抱える課題に対処できる基礎能力を身につける。							
C (技術的課題を解決できるように) 工学の幅広い基礎知識 (数学、自然科学、情報技術、基礎工学) を修得し、それらに応用する能力を身につける。							
D 技術者として自己の基礎となる専門分野の知識を修得し、それに応用する能力を身につける。							
E 技術的課題を分析・総合し、解決するための計画をたて、その計画を実行して課題を解決する基礎能力を身につける。さらに、チームワークで仕事をすすめる基礎能力を身につける。							
F 文章、口頭、図表や視覚的な方法によって、効果的にコミュニケーションができる基礎能力を身につける。すなわち、日本語で論理的に記述し討論する能力、および簡単な論理的文章を英語で記述し、基本的な英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識を身につける。							
G (技術の進展や社会の変化に対応できるように) 継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につける。							

(出典 平成30年度 1 月教務委員会資料)

「授業評価アンケート様式」

平成30年度授業評価アンケート実施要項

1. 目的
授業内容・方法及び学生自身の授業への取り組み等について学生に意見を求めるとともに、教員自身も自己分析することで授業の質的向上を図る。
2. 対象学生
本科、専攻科全学生
3. 実施対象科目
通年科目及び内後期開講科目
4. アンケートの実施方法
各クラスの担任が引率・指導により、パソコンの設置されている教室にてweb画面から入力する。
5. アンケートの実施時期
後期末試験最終日及び答案返却期間中にアンケート記入期間を設ける。
各クラスの実施時間は修学支援係から、各担任へ通知する。(専攻科学生においては、ポータルサイトにて通知する。)
6. アンケート項目

番号	内 容	項目分類
1.	授業は、シラバスに記載された授業項目や到達目標等に沿って行われた。	シラバスと授業の 整合性
2.	成績評価は、シラバスに記載された方法で行われた。	
3.	授業は、教員の熱意が感じられるものだった。	教員の授業に対する 姿勢
4.	授業では、教員の話し方や声の大きさが明確で聞き取りやすいものだった。	
5.	授業では、教員は私語、居眠りなどを行っている学生に対して適切に注意指導を行った。	
6.	授業は、学生を参加させるなど、興味関心を引き出すような工夫がなされていた。	教員の授業技術
7.	授業は、教員の説明や教材の利用が適切で、授業内容を理解しやすかった。	
8.	自分は、この授業に意欲的に受講していた。	学生の授業に対する 姿勢
9.	自分は、課題・レポート等の提出、小テストに対する事前学習、授業の予習などを適切に行った。	
10.	この授業のレベルや進度は、自分にとって適切であった。	学生と授業内容の マッチング
11.	テストや演習、課題の難易度は、自分にとって適切であった。	
12.	この授業を受けることで、この教科や分野に関する興味関心が増した。	

7. ステップアップ提案書の作成
教員は、学生の授業評価アンケートを受け、授業の質向上のため、ステップアップ提案書を作成し、学生課修学支援係へ提出する。
なお、ステップアップ提案書の作成要領については、別に定める。
8. 公表方法
学生の授業評価アンケート及びステップアップ提案書を学内webにて公開する。

(出典 平成30年度1月教務委員会資料)

学習達成度評価アンケート結果例



(出典 学生課資料)

資料6-1-①-9

「未修得進級・原級・休学・退学・除籍者一覽」

未修得進級・原級・休学・退学・除籍者一覽

異動事項	学 科	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度	
		1年	2~5年								
未修得進級	機械工学科	5	4	4	2	1	13		2		2
	電気工学科	3	3	5	9	2	0		4		5
	電子工学科	4	0	8	2	0	4	9	1	5	1
	情報工学科	0	5	2	3	1	5		5		5
	建築学科	3	5	4	5	3	8		1		4
	計	15	17	23	21	7	30	9	13	5	17
原級	機械工学科	2	24	2	9	2	11		12		7
	電気工学科	2	21	1	12	0	15		6		6
	電子工学科	0	9	0	6	1	6	10	4	2	6
	情報工学科	0	10	0	6	1	7		9		2
	建築学科	1	13	2	7	0	5		6		7
	計	5	77	5	40	4	44	10	37	2	28
休学	機械工学科	0	0	1	0	1	0		2		0
	電気工学科	0	0	0	0	0	2		0		0
	電子工学科	0	0	0	1	0	2	2	1	3	3
	情報工学科	0	0	0	1	1	1		0		0
	建築学科	0	0	0	0	0	2		0		3
	計	0	0	1	2	2	7	2	3	3	6
退学	機械工学科	6	13	3	11	1	5		13		12
	電気工学科	0	7	3	12	0	14		7		8
	電子工学科	1	1	2	7	0	8	4	6	8	5
	情報工学科	2	15	2	8	1	9		6		5
	建築学科	2	12	1	11	0	7		8		10
	計	11	48	11	49	2	43	4	40	8	40
除籍	機械工学科	0	0	0	0	0	0		0		0
	電気工学科	0	0	0	0	0	0		0		0
	電子工学科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	情報工学科	0	0	0	0	0	0		0		0
	建築学科	0	0	0	0	0	0		0		0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計 (未修得進級者除く)	機械工学科	8	37	6	20	4	16		27		19
	電気工学科	2	28	4	24	0	31		13		14
	電子工学科	1	10	2	14	1	16	16	11	13	14
	情報工学科	2	25	2	15	3	17		15		7
	建築学科	3	25	3	18	0	14		14		20
	合計	16	125	17	91	8	94	16	80	13	74

(出典 平成30年度4月教務委員会資料)

資料 6 - 1 - ① - 10

「専攻科成績一覧」

(㊟別資料参照)

資料 6 - 1 - ① - 11

「釧路工業高等専門学校学則」 (抜粋)

「前略」

第 5 7 条 専攻科に 2 年以上在学し、所定の授業科目を履修し、62 単位以上を修得した者については、修了を認定する。

2 校長は、修了認定した者に対し、所定の修了証書を授与する。

3 第 1 項に規定する単位の修得については、別に定める。

「以下略」

(出典 釧路高専規程)

資料 6 - 1 - ① - 12

「科目分類表」

科目分類表(平成23年度本科入学・平成26年度専攻科入学用)

分類	全科目														
	必修科目				選択科目				専攻科科目						
	種別	科目名	単位数	種別	科目名	単位数	修得基準	種別	科目名	単位数	修得基準				
教養系 (A)	全		4	教養Ⅱ	2			全		1	必修Ⅰ	2	2単位以上修得		
			4	教養Ⅱ	1					1	必修Ⅱ	2			
	DE	4	応用数学A	4	2	工業数学	1		1	応用数学	2				
					2	応用数学Ⅱ	1		1	卒業論文	2				
	E	4	応用数学A	4	2	応用数学Ⅱ	1								
		4	応用数学Ⅱ	2	2	応用数学Ⅲ	4								
	D	4	応用数学A	4	2	応用数学Ⅱ	1								
					2	応用数学Ⅲ	4								
	J	4	応用数学A	4	2	応用数学Ⅱ	1								
					2	応用数学Ⅲ	4								
A	2	海峽環境計画Ⅰa	2	4	応用数学C	2									
	2	海峽環境計画Ⅰb	1	2	応用数学Ⅱ	1									
	4	応用数学A	2	2	応用数学Ⅲ	2									
情報技術系 (B-1)	DE	4	3次元ソフトウェアⅡ	2				全			1	ソフトウェア開発実習Ⅰ	2		
		4	CAD/CAM	1											
		4	最新CAD	2											
	E	4	情報技術Ⅱ	2											
	D	4	プログラミングⅡ	1											
			4	情報技術Ⅱ	2										
	J	2	プログラミングⅡ	2											
		4	ソフトウェア開発	2											
	A	2	情報技術Ⅰ	2											
4		情報技術Ⅱ	2												
専攻科 教養系 (A)	全	2	応用数学	2	4	情報Ⅱ	1				2	情報学特論	2		
	A	2	海峽環境計画Ⅰ	1							1	卒業論文	2		
	4	海峽環境計画Ⅱ	2								1	卒業システムⅠ	2		
人文系 社会系 (A,B)	全	4	コミュニケーション演習	2	2	日本文化	2		全	1	卒業論文特論	2	1	卒業論文特論Ⅱ	2
	4	英語	2	2	国際文化Ⅰ	2		2	法律学特論	2					
	4	体育	2	2	国際文化Ⅱ	2									
				2	国際文化Ⅲ	2									
				2	哲学	2									
				2	心理学	2									
外国語系 (B)	全	4	英語	2,1	4	英語実習	2		全	1	総合英語Ⅰ	2	1	総合英語Ⅱ	2
	2	英語と社会	2	2	英語コミュニケーション	2									
	2	英語と社会A	2	2,4	英会話	2									

※…単位制科目

(出典 平成 30 年度学生課作成)

資料 6 - 1 - ① - 12 (続き)

分類	必修科目							選択科目																						
	名称		単位数		履修			名称		単位数		履修																		
	学号	科目名	履修済	履修中	履修済	履修中	取得基準	学号	科目名	履修済	履修中	取得基準																		
材料・システム系 (6-1)								1	システム工学	2			1	材料工学特論	2			1	材料工学特論	2			1	材料工学特論	2					
	D	4	材料工学Ⅰ	1	5	システム工学	1						1	材料工学特論	2															
		4	材料工学Ⅱ	1	5	材料工学	1																							
		4	電子工学Ⅰ	1	5																									
		4	材料工学Ⅲ	1	5																									
		5	材料工学Ⅳ	1	5																									
		5	材料工学Ⅴ	1	5																									
	A	2	材料工学Ⅵ	1	5																									
		2	材料工学Ⅶ	1	5																									
	E	5	電子工学Ⅱ	1	5	電子工学Ⅰ	2							2	材料工学特論	2														
		4	電子工学Ⅲ	1	5																									
		5	電子工学Ⅳ	1	5																									
	D	4	電子工学Ⅴ	1	5	プログラミング実習Ⅰ	2																							
		4	電子工学Ⅵ	1	5																									
		4	電子工学Ⅶ	1	5																									
J	4	電子工学Ⅷ	1	5																										
	4	電子工学Ⅸ	1	5																										
	5	材料工学特論	2	5																										
情報・電気系 (6-1)														1	情報工学特論	2														
														1	プログラミング実習Ⅱ	2														
														1	情報工学特論	2														
														1	プログラミング実習Ⅲ	2														
														1	プログラミング実習Ⅳ	2														
D	4	情報工学Ⅰ	1	5																										
	5	情報工学Ⅱ	1	5																										
J	2	情報工学Ⅲ	1	4	情報工学Ⅰ	2																								
	5	データベース	2	5	情報工学Ⅱ	2																								
	5	情報工学Ⅳ	2	5	情報工学Ⅲ	2																								
	5	情報工学Ⅴ	2	5	情報工学Ⅳ	2																								
材料・メカ系 (6-1)	D	4	材料材料Ⅰ	1	5									1	材料システム工学	2														
		4	材料材料Ⅱ	1	5	材料工学	1							1	材料材料Ⅰ	2														
	A	4	材料材料Ⅲ	1	5										1	材料材料Ⅱ	2													
	E	5	材料材料Ⅳ	1	5										1	材料材料Ⅲ	2													
	D	4	電子材料Ⅰ	1	5	電子材料Ⅰ	2							2	材料材料Ⅳ	2														
		4	金属材料Ⅰ	1	5									1	材料材料Ⅴ	2														
	化学系 (6-1)	D	4	化学Ⅰ	1	5	熱力学Ⅰ	1							1	化学Ⅰ	2													
			5	化学Ⅱ	1	5									1	化学Ⅱ	2													
			4	化学Ⅲ	1	5									1	化学Ⅲ	2													
		A	4	物理化学Ⅰ	1	5	物理化学Ⅰ	1								1	物理化学Ⅰ	2												
		5	物理化学Ⅱ	1	5										1	物理化学Ⅱ	2													
E		4	電気化学Ⅰ	1	5										1	電気化学Ⅰ	2													
		5	電気化学Ⅱ	1	5										1	電気化学Ⅱ	2													
		5	電気化学Ⅲ	1	5										1	電気化学Ⅲ	2													
		5	電気化学Ⅳ	1	5										1	電気化学Ⅳ	2													
		5	電気化学Ⅴ	1	5										1	電気化学Ⅴ	2													
社会経済系 (6-1)														2	環境マネジメント	2														
	D	4	社会工学Ⅰ	1	5																									
	A	5	社会工学Ⅱ	1	5	社会工学Ⅰ	1																							
	E	4	社会工学Ⅲ	1	5																									
	D	5	社会工学Ⅳ	1	5																									
J	2	社会工学Ⅴ	1	4																										

(出典 平成 30 年学生課作成資料)

「各科目の履修選択条件」

別紙：各科目の選択条件（平成30年度入学生）

区分	履修科目名	単位数	選択条件						
			B	A	E	D	J		
前期課程	総合基礎Ⅰ 総合基礎Ⅱ 応用前科学 物理科学特論 小社	2 2 2 2 1							
	応用前科学 物理科学特論 小社	2 2 1							
	応用前科学 物理科学特論 小社	2 2 1							
	応用前科学 物理科学特論 小社	2 2 1							
	応用前科学 物理科学特論 小社	2 2 1							
	応用前科学 物理科学特論 小社	2 2 1							
	応用前科学 物理科学特論 小社	2 2 1							
	応用前科学 物理科学特論 小社	2 2 1							
	応用前科学 物理科学特論 小社	2 2 1							
	応用前科学 物理科学特論 小社	2 2 1							
後期課程	応用前科学 物理科学特論 小社	2 2 1							
	応用前科学 物理科学特論 小社	2 2 1							
	応用前科学 物理科学特論 小社	2 2 1							
	応用前科学 物理科学特論 小社	2 2 1							
	応用前科学 物理科学特論 小社	2 2 1							
	応用前科学 物理科学特論 小社	2 2 1							
	応用前科学 物理科学特論 小社	2 2 1							
	応用前科学 物理科学特論 小社	2 2 1							
	応用前科学 物理科学特論 小社	2 2 1							
	応用前科学 物理科学特論 小社	2 2 1							

(出典 平成30年学生課作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程については、科目ごとに成績評価基準がシラバスに定められている。学生自身による達成度評価が毎年行われており、集計結果は教務委員会に報告され、審議している。

専攻科課程については、教務委員会において達成状況の把握を行い、専攻科修了要件を検証している。いずれの課程についても卒業・修了認定会議で卒業・修了認定を行っている。

これらのことから、高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われている。

観点6-1-②： 各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、学校としてその達成状況を評価した結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

本校における準学士課程の教育の成果は観点6-1-①で述べたように、卒業認定会議において学生の達成状況を評価することで担保している。原級留置者数、退学者数は、ここ数年減少傾向にあるものの高い比率で推移している(資料6-1-①-9)。平成27年度より低学年において学習遅滞者を対象に特別指導をおこなっていて、これからの成果が期待されている。以上の様に卒業要件を満たす学生の卒業を厳しく認定する状況において、本校の教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

英語によるコミュニケーション能力育成のために、本校では第2学年において、受験料を援助して英検準2級を全学生に受験させており、多くの学生が2学年段階で英検準2級に合格し、高学年においても英語への興味を継続し、資格取得に挑戦する学生が出ている(資料6-1-②-1)。

実践的技術者育成のための重要な科目である卒業研究においては、卒業生全員が研究成果を卒業論文としてまとめ、一般公開により学科ごとに卒業研究発表会を開催している(資料6-1-②-2)。関係学会に規約の無い電子工学系を除き、機械、電気、情報、建築の各学科では優秀な卒業研究に対して学会賞が授与され、卒業式当日に伝達式が行われている(資料6-1-②-3)。

専攻科課程においては、2専攻ともに独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より特例認定を受けている。認定された教員が総まとめ科目である「特別研究Ⅱ」を担当することで、これまで必要とされてきた学位授与試験を受ける必要がなくなった。教育の効果や成果は十分に上がっていると判断する。特別研究においては、例年多数の学会発表件あり(資料6-1-②-4)、教育の成果や効果が上がっている。

全国規模で開催されている「デザコン」および「プロコン」には毎年エントリーし予選を通過している。「デザコン」は建築学科および機械工学科(平成21年度から開催されている

「3次元デジタル設計造形コンテスト」は「デザコン」に吸収された)が「プロコン」は電気、電子、情報工学科が授業で得た知識と技術を発揮するものであり予選を通過するなど教育の成果や効果が上がっている(資料6-1-②-5, 6)。

専攻科における英語教育をそれまでの英検重視から平成21年度にTOEIC重視に切り替えたことにより、多くの学生はTOEICに挑戦している。本校はフィンランド・トゥルク応用科学大学(TUAS)、タイ・キングモンクット工科大学(KMITL)およびタイ・泰日工業大学(TNI)学生や教職員の交流を柱とした学術交流協定を締結している。交流協定による毎年短期留学生を受け入れ、本校の学生と交流している(資料6-1-②-7)。また、本校の学生も留学を行っている。

資料6-1-②-1

「英検準2級合格者数(学年別)」

英検合格者数の推移

2017年度

	1年	2年	3年	4年	5年	専
準2級	2名	58名	47名	35名	59名	16名
2級	0名	2名	1名	2名	3名	0名

2016年度

	1年	2年	3年	4年	5年	専
準2級	2名	44名	33名	65名	32名	24名
2級	1名	1名	3名	4名	1名	0名

2015年度

	1年	2年	3年	4年	5年	専
準2級	0名	32名	70名	33名	51名	25名
2級	1名	2名	2名	1名	1名	1名

(出典 平成30年英語科作成資料)

資料6-1-②-2

「卒業研究発表会の開催」

平成31年1月11日

釧路高専地域振興協力会会員 各位

釧路工業高等専門学校長
小林 幸夫
(公印省略)

卒業研究発表会の開催について【ご案内】

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
日頃から本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。
さて、本校では例年、5年間の高専生活で培った技術・知識の集大成となる卒業研究発表会を、保護者の皆様をはじめ市民や企業の方にご覧いただき、高専の教育研究活動に対するご理解を深めていただくことを目的として学外に公開しております。
本校の学生にとって多くの方の前で発表することは、実践的技術者として成長していく上で大変有意義なことと考えており、特に企業人である皆様には、嬉しい目で本発表をご覧いただきたいと思っております。
本校といたしましても、地域貢献を大きな使命のひとつとしており、本発表会において御社の参考となることがあれば幸いに存じます。
については、ご多忙とは存じますが、下記日程において開催いたしますので、是非ご来校くださるようお願い申し上げます。
なお、卒業研究テーマ及び発表順等については、本校ホームページにも掲載いたします。
【本校ホームページアドレス <http://www.kushiro-ct.ac.jp/>】

敬 具

記

1. 発表年月日・開始時間及び発表場所

機械工学科：1月31日(木)	9:00～	大講義室
電気工学科：2月 5日(火)	9:00～	大講義室
電子工学科：1月29日(火)	9:00～	大講義室と会議室
情報工学科：1月28日(月)	9:00～	図書館大ゼミ
建築学科：1月30日(水)	10:45～	大講義室

2. 発表内容
卒業研究テーマ及び発表順等一部変更になる場合がありますので、後日、最新版を本校ホームページにも掲載いたします。
・本校ホームページアドレス
<http://www.kushiro-ct.ac.jp/>

担当：学生課修学支援係
TEL 0154-57-7222
FAX 0154-57-6256
E-mail kyoumug@office.kushiro-ct.ac.jp

(出典 平成30年度卒業研究発表会開催案内(地域振興協力会会員宛))

資料 6 - 1 - ② - 3

「学会賞受賞の状況」

学会賞

賞名	対象学科・分野	人数
機械学会 畠山賞	機械工学	1
電気学会 北海道支部長賞	電気工学	1
情報処理学会 北海道支部長賞	情報工学	1
日本建築学会 北海道支部長賞	建築学	2

(出典 平成 30 年学生課作成資料)

資料 6 - 1 - ② - 4

「学生の学会発表に対する補助」

学生の学会参加（後援会から補助を受けたもの）

年度	参加学会	開催地	専攻科生	本科生	引率教員
平成27	第54回日本生体医工学会大会	愛知県名古屋市	1		1
	EM-NANO 2015	新潟県新潟市	1		1
	日本建築学会 第88回北海道支部研究発表会	札幌市	1		1
	第74回応用物理学会秋季学術講演会	愛知県名古屋市	2		1
	FIT2015 第14回情報科学技術フォーラム	愛媛県松山市	2		2
	日本機械学会 山梨講演会2015	山梨県山梨市	1		1
	第30回リハ工学カンファレンスinおきなわ	沖縄県那覇市		1	1
	日本機械学会北海道学生会 第45回学生員卒業研究発表講演会	函館市	3	5	1
	言語処理学会第22回年次大会	宮城県仙台市		1	1
	情報処理学会 第78回全国大会	神奈川県横浜市	1		1
	日本建築学会北海道支部 環境工学系卒業論文発表会 EGGs'15	札幌市		5	1
	計		12	12	12
平成28	音楽シンポジウム2016 (第111回音楽情報科学研究会)	東京都港区	2		1
	第11回核融合エネルギー連合講演会	福岡県福岡市	1		1
	2016年度精密工学会北海道支部 学術講演会	旭川市		1	1
	第86回福祉情報工学会	佐賀県唐津市	1		1
	日本機械学会北海道支部第46回学生員卒業研究発表講演会	室蘭市		1	1
	平成28年度 電気 情報関係学会北海道支部連合大会	札幌市	3	2	2
	平成28年度 応用物理学会 多元系化合物・太陽電池研究会 1 年末講演会	福島県郡山市		2	1
	日本機械学会北海道支部 第54回講演会	苫小牧市	1		1
	日本建築学会北海道支部 環境工学系卒業論文発表会 EGGs'16	札幌市		6	1
	言語処理学会第23回年次大会	茨城県つくば市	1	1	1
	2017年電子情報通信学会総合大会	愛知県名古屋市	1		1
	計		10	13	11
平成29	第90回日本建築学会北海道支部研究発表会	室蘭市	1		1
	平成29年 電気学会 電子・情報・システム部門大会	香川県高松市	1		1
	日本機械学会北海道学生会 第47回学生員卒業研究発表	札幌市		3	1
	第45回知能システムシンポジウム	大阪府豊中市	1		1
	日本建築学会北海道支部 第12回環境工学系・卒業論文発表会 EGGs'17	札幌市		8	1
	2017年度 電気 情報関係学会北海道支部連合大会	千歳市		3	2
	言語処理学会第24回年次大会	岡山県岡山市		2	1
	2018年電子情報通信学会総合大会	東京都足立区	1		1
	平成29年度 電気 情報関係学会北海道支部連合大会	函館市		1	1
		計		4	17

(出典 平成 30 年学生課作成資料)

資料6-1-②-5

「デザコン2018（平成30年11月13日開催）審査結果」

デザコン2018 in 北海道 空間デザイン部門 本選通過作品一覧

作品番号	学校名	作品名・氏名・
13	明石高専	もちむぎふれあい郷-通学路で中で食と農にふれあう ○ (5年)
43	明石高専	魚住こども園-こども園と地域を結び付ける"道草コミュ ○ (3年) (3年)
59	石川高専	時差ボケ ゆうびんきょく ○ (5年) (4年)
61	石川高専	他所の市 此処の市 ○ (5年) (4年)
66	小山高専	ヤマサ-煙突の煙が幸せのかけらを報せる- ○ (5年) (4年)
72	釧路高専	おせっかい市場 ○ (S1年) (S1年)
74	熊本高専 (八代)	これからも、宮地んこどもの百貨店

(出典 デザコン2018HP より)

資料6-1-②-6

全国高等専門学校 第29回プログラミングコンテスト予選通過テーマ
課題部門(プレゼンテーションの発表順に記載しています)

発表順	登録番号	タイトル	高専名	指導教員	
1	10002	FoodConnector -おすそ分けと食材有効利用システム-	豊田		山
2	10038	MOSAIQ -ワンタイムQRコードによるモバイルスタンプラリー-	東京		佐
3	10057	Snip Memories -来る・見る・学ぶを切り取る図鑑-	福島		石
4	10046	TechHunt -ICTを活用した異情報管理・活用システム-	木更津		望
5	10019	Star Gallery -素敵な星空を見に行こう-	阿南		狩
6	10009	リユニオン -観光地域づくりを支えるデジタルサイネージシステム-	一関		高
7	10003	スマートコンシェルジュ -民泊のためのグローバルシステム-	明石		前
8	10045	PHOTOS TO HINT -写真を用いた街中観光支援システム-	八戸		田
9	10001	ローカルコネク -町内会向けウェブアプリケーション-	豊田		南
10	10048	すごろーかる -地域すごろく作成・運営支援システム-	徳山		関
11	10032	AKAMOKU -水中カメラとドローンによるアカモクの資源管理-	鳥羽商船		齊
12	10017	ACMM -AI Can Make Movie-	岐阜		中
13	10047	StampSho t	仙台(広瀬)		酒
14	10014	NeXcury -情報のバリアフリー化を目指して-	津山		末
15	10053	SCOSCOPE -地域を再発見する望遠鏡システム-	徳山		黒
16	10029	サバ×サバ -サバで時代を生き延びる-	福井		水
17	10050	TABLETLAY -海鮮丼と醤油が乗るトレイ型デバイス-	釧路		寺
18	10021	SafetyPlus -外国人観光客安全運転サポートシステム-	沖縄		外
19	10018	やまおくのほそみち -見張り灯籠で安心安全-	阿南		松
20	10025	WellCing -ICTと「歩く」運動促進システム-	舞鶴		出

(出典 プロコン2018HP より)

資料6-1-②-7

「フィンランド・トゥルク応用科学大学 (TUAS)、タイ・キングモンクット工科大学 (KMITL) およびタイ・泰日工業大学 (TNI) への派遣および受入の状況」

「TUAS, KMITL, TNI派遣および受入の状況」

年度	派遣・受入学生	派遣・受入期間	備考
平29	釧路工業高等専門学校専攻科	2017. 8. 14 ~ 2017. 9. 12	KMITL
			KMITL
			KMITL
	電子工学分野	2017. 8. 14 ~ 2017. 8. 19	KMITL
	建築学分野		KMITL
	電気工学科		KMITL
	TUAS	2017. 4. 26 ~ 2017. 7. 23	機械工学科
			情報工学科
			電子工学科
	KMITL	2017. 6. 1 ~ 2017. 6. 30	情報工学科
			機械工学科
			電気工学科
平30	釧路工業高等専門学校専攻科	2018. 8. 24 ~ 2018. 9. 8	TUAS
			KMITL
	機械工学科		KMITL
	建築学科	2018. 8. 13 ~ 2018. 9. 8	KMITL
	電気工学科		TNI
			TNI
	情報工学科		TNI
	電気工学分野		TNI
		2018. 8. 22 ~ 2018. 9. 4	KMITL
	電子工学分野		KMITL
	TUAS	2018. 4. 16 ~ 2018. 7. 12	電子工学分野
			情報工学分野
	電気工学分野		
KMITL	2018. 6. 1 ~ 2018. 6. 30	情報工学分野	

(出典 学生課作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校における準学士課程の教育の成果は卒業認定会議において学生の達成状況を評価することで担保している。年度ごとの教育の状況あるいは学生の達成の状況は年度当初に前年度の教務報告を行い審議している。卒業要件を満たす学生の卒業を認定する状況において、本校の教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

専攻科課程においては、国の評価機関である独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より特例認定されたことで、指導者の能力基準が厳しく評価され、教育の効果や成果は十分に上がっていると判断する。

これらのことから、各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、学校としてその達成状況を評価した結果から判断して、教育の成果や効果が上がっている。

観点6-1-③： 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

本校の平成29年度卒業（修了）生の就職状況を資料6-1-③-1に示す。準学士課程、専攻科課程ともに就職率（就職者数／就職希望者数）は極めて高く、就職先も製造業や電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、専門・技術サービス業関連、建設業関連などの当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。求人企業数から見ても、本校の卒業（修了）生に対する企業の評価が高いことは明らかである。また、過去3年間の卒業（修了）生の進学先一覧を資料6-1-③-2に示す。いずれも進学先は、国立大学工学部がほとんどであり、出身学科に関連する学科に進学している。準学士課程、専攻科課程それぞれの教育を受け、さらにより高い教育を希望する多くの学生の存在は、本校の教育の成果や効果の表れと判断できる。

卒業後の進路は就職および進学ともに希望した進路に100%の学生が進んでおり、本校の教育の成果や効果の表れと判断できる（6-1-③-3）。

資料 6 - 1 - ③ - 1

「平成 30 年 3 月 釧路高専卒業生及び修了者の就職状況」

平成 29 年度 釧路高専卒業生及び修了者の就職状況

<本科卒業生>

就職者		87人
求人数	求人会社数	2,255社
	求人倍率	25.9倍 (2,255社÷就職希望者数87人)
就職率		100% 道内40人 道外47人
主な就職先 (順不同敬称略)	機械工学科	株式会社釧路製作所、フアナック株式会社、村田機械株式会社、 雪印メグミルク株式会社、フジテック株式会社 就職率 100%
	電気工学科	中部電力株式会社、北海道電力株式会社、ユニチカ株式会社、日本原燃株式会社、 三菱電機ビルテクノサービス株式会社、北海道電気保安協会、株式会社大塚製薬工場、 三ツ輪運輸株式会社、北海道旅客鉄道株式会社 等 就職率 100%
	電子工学科	村田機械株式会社、ハナソニック株式会社、コニカミノルタジャパン株式会社、 北海道エア・ウォーター株式会社、株式会社電制、 株式会社ハナソニックスイッチングテクノロジー、株式会社ヒダン 等 就職率 100%
	情報工学科	株式会社フォレストック、帯広ガス株式会社、富士通アプリケーションズ株式会社、 日本IBMソリューションサービス株式会社、OTCシステムマネジメント株式会社、 三菱電機ビルテクノサービス株式会社、富士電機株式会社 等 就職率 100%
	建築学科	北海道セキスイハイム株式会社、釧路市役所、北海道ガス株式会社、 戸田建設株式会社、佐藤工業株式会社、株式会社NTTファシリティーズ北海道、 岩倉建設株式会社、イワクラホーム株式会社、株式会社竹中工務店 等 就職率 100%

<専攻科修了生>

就職者		20人
求人数	求人会社数	490社
	求人倍率	24.5倍 (490社÷就職希望者数20人)
就職率		100% 道内6人 道外14人
主な就職先	建設・生産 システム工学専攻	トランスコスモス株式会社、株式会社NTTファシリティーズ北海道 就職率 100%
	電子情報 システム工学専攻	釧路市役所、ANAベースメンテナンステクノクス株式会社、キャンオン株式会社、 日本電子株式会社、キヤノンメディカルシステムズ株式会社、メタウォーター株式会社、 三菱電機システムサービス株式会社、株式会社NTTファシリティーズ北海道、 株式会社ポータス、株式会社日立ハイテクフィールドイング、 プリヂストンソフトウェア株式会社 等 就職率 100%

(出典 釧路高専についての参考資料 平成 30 年 5 月)

資料6-1-③-2

「卒業生・修了者の進学状況」

卒業生・修了者の進学状況
過去10年間の大学編入者、専攻科進学者及び大学院進学者数

大学名	進学年度			10年間 21-30年度
	28年度	29年度	30年度	
北海道大学	2		5	20
室蘭工業大学	4	3	7	49
北見工業大学	1		2	12
北海道教育大学釧路校		1		2
弘前大学		1		2
東北大学		1	1	4
秋田大学				1
筑波大学	1	1	2	9
群馬大学				1
千葉大学	2	2		12
横浜国立大学				2
東京農工大学				5
東京工業大学				1
電気通信大学	1			5
新潟大学				1
金沢大学				1
信州大学	1	1	1	3
福井大学				1
山梨大学				1
宇都宮大学			1	3
大阪大学				1
神戸大学				1
京都工芸繊維大学		1		3
徳島大学				2
広島大学			1	1
山口大学				1
熊本大学				1
高崎大学				1
大分大学				1
九州工業大学		1		2
釧路高専専攻科	24	18	21	220
長岡技術科学大学	8	7	4	55
豊橋技術科学大学	12	2	14	102
その他公私立大学	1	4	3	24
他高専専攻科				1
合計	57	43	62	551
北海道大学大学院	1		2	14
室蘭工業大学大学院				5
北見工業大学大学院		1		2
東北大学大学院				4
筑波大学大学院	1			4
東京大学大学院	1			2
東京工業大学大学院	1			3
電気通信大学大学院				1
茨城大学大学院		1		1
名古屋大学大学院			1	1
九州大学大学院				1
九州工業大学大学院		1		1
北陸先端科学技術大学院大学	1	1		7
長岡技術科学大学大学院		1		4
豊橋技術科学大学大学院				5
早稲田大学大学院	1			1
合計	6	5	3	56

(出典 釧路高専についての参考資料 平成30年5月作成)

資料6-1-③-3

資料1
キャリア教育支援委員会
H30.3.20

平成29年度卒業・修了予定者の進路内定状況

平成30年3月20日現在

()は女子で内数

	本 科						専 攻 科					計
	機 械	電 気	電 子	情 報	建 築	計	建設・生産		電子情報			
							M	A	E	D	J	
卒業予定者	(3) 13	34	(3) 35	(3) 36	(15) 36	(24) 154	3		(1) 22			(1) 25
進学希望者	(1) 6	1	(1) 21	(1) 21	(6) 13	(9) 62	0		3			3
進学合格者	(1) 6	1	(1) 21	(1) 21	(6) 13	(9) 62	0		3			3
内 訳	大学編入学	4	1	8	(1) 17	(6) 11						0
	釧路高専専攻科	2		(1) 13	4	2						0
	他高専専攻科						0		0			0
	大学院						0		0	3		3
進学予定者						0	0		0		0	
求人会社数 (前年度)	519 (409)	528 (426)	444 (492)	382 (310)	382 (382)	2255 (2019)	256 (178)		248 (177)			490 (355)
企業就職希望者	(2) 6	33	(2) 13	(2) 14	(9) 21	(15) 87	2		17			19
企業就職内定者	(2) 6	33	(2) 13	(2) 14	(9) 21	(15) 87	2		17			19
内 訳	道内企業	1	13	(1) 5	5	(6) 16	1		4			5
	道外企業	(2) 5	20	(1) 8	(2) 9	(3) 5	(8) 47	1	13			14
就職予定者						0	0		0		0	
企業就職率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%			100.0%
公務員希望者					1	1			(1) 1			(1) 1
公務員就職内定者					1	1			(1) 1			(1) 1
公務員予定者						0						0
そ の 他	大学・各種学校 ・大学校入学	1		1	1	1						0
	その他の者						0	1	1			2

注1. 進学者とは、本科は高専専攻科入学及び大学編入者を、専攻科は大学院入学者をあらわす。
2. 公務員とは、公務員及び独立行政法人職員をあらわす。
3. その他の者とは、自家就業者及び無業者等をあらわす。

(出典 釧路高専についての参考資料 平成30年3月)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程，専攻科課程ともに就職率（就職者数／就職希望者数）は極めて高く，就職先も当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。さらに，卒業（修了）生の進学先は，いずれも国立大学工学部であり，出身学科に関連する学科に進学している。

これらのことから，教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について，就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して，教育の成果や効果が上がっている。

観点6-1-④： 学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点到に係る状況)

本校では，準学士課程の卒業時及び専攻科課程の修了時に本校の学習目標ごとに到達度を自己評価する学習達成度評価アンケートを実施している(資料6-1-①-7)。アンケート結果は，学科ごと・専攻ごとの集計及び本科，専攻科で集計され，教務委員会を経て，全教員に周知されている(資料6-1-①-8)。

集計結果から判断すると，準学士課程卒業生全体では，4段階の達成度評価で，すべての項目で，3（到達できた）以上の評価となっており，教育の成果や効果が上がっていると判断できる。また，目標に到達できた学年を見ると，ほとんどが4・5学年に集中している。これは，高専におけるくさび形教育の成果と捉えられるが，低学年における動機づけに改善の余地があると考えている。学生の回答は，学習目標AやBでは低学年からの積み上げの成果，学習目標C，D，Eの項目では高学年での達成が主となっており，本校における教育の成果や効果が学生自身にも自覚されていると判断できる。

専攻科修了生においても，準学士課程卒業生と同様な分析ができ，本校における教育の成果や効果が上がっていると判断できる。目標Gについて低い自己評価結果となった。目標Gは英語の能力に関するものであり，自主学習を促すなどの工夫をしているが，学生の自己評価として英語に関する能力の不足があることが明らかとなり，専攻科における英語教育をより高度化させなければならないと考えている。

アンケート結果全体を俯瞰すると，目標Gを除き，総じて専攻科修了生が高い自己評価をしている。準学士課程を基礎としてより精深な程度に教育を行う専攻科課程の教育の成果と判断できる。

(分析結果とその根拠理由)

本校では，卒業・修了時に本校の学習目標ごとに到達度を自己評価する学習達成度評価アンケートを実施している。アンケートの集計結果から，本校における教育の成果や効果が学生自身にも自覚されていると判断できる。

アンケート結果全体を俯瞰すると、総じて専攻科修了生が高い自己評価をしている。準学士課程を基礎としてより精深な程度に教育を行う専攻科課程の教育の成果と判断できる。

これらのことから、学生が行う学習達成度評価等、学生からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっている。

観点6-1-⑤： 卒業（修了）生や進路先等の関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や、卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点到係る状況）

平成29年度に実施した企業アンケートの集計結果を資料6-1-⑤-1に示す。本校の学習目標について卒業（修了）生が達成できているかどうかを問うため、学習目標A～Gを「知識・能力」という表現として達成の程度を聞いている。この結果から、ほぼすべての項目について「普通」～「優れている」という評価を受けており、本校の教育の成果や効果が上がっていると判断できる。資料の中の「②人文・社会科学に関する知識」、「⑤英語によるコミュニケーションの基礎能力」、「⑥経済、安全、環境などの社会・自然に及ぼす影響等について、問題点を認識できる能力」、「⑨自主的に課題を見つけ、継続的に学習できる能力」において低い評価がみられ、特に英語の能力に関しては、観点6-1-④において述べたように専攻科修了生自身の自己評価でも同様の結果となっていることから、本校の英語教育の改善の必要性を認識している。

「企業アンケート集計結果」

2017年度(平成29年度)企業アンケート集計結果

質問1 貴社の企業名をご記入ください。
89社から回答あり

質問2 貴社の従業員数を教えてください。

50人未満	3
50～99人	11
100～499人	16
500～999人	8
1000人以上	50
未回答	1
	89

質問3 最近5年間の高専全体の本科卒業生及び専攻科修了生の採用実績(人数)を教えてください。

①本科卒業生

なし	4
5人未満	29
5～9人	13
10～49人	27
50人以上	11
分からない	3
未回答	1
無効(複数に○印)	1
	89

②専攻科修了生

なし	27
5人未満	26
5～9人	10
10人以上	10
分からない	8
未回答	8
	89

質問4 釧路高専の本科卒業生及び専攻科修了生に対する最近5年間の採用実績(人数、主たる職種)を教えてください。

本科生

①採用人数

なし	11
5人未満	60
5～9人	14
10人以上	2
分からない	1
無効(複数に○印)	1
	89

②主たる採用業種(複数回答)

農・林・漁業・食品技術者	0
機械・電気技術者(機械、電気、その他)	48
情報処理技術者	20
その他技術者	18
管理的技術者	9
事務従事者	1
販売従事者	1
サービス職業	5
運輸・通信	3
生産工程・労務作業員	8
上記以外	3

(出典 平成30年学生課作成資料)

資料6-1-⑤-1 (続き)

専攻科生	
①採用人数	
なし	50
5人未満	29
5~9人	2
10人以上	0
分からない	5
未回答	3
	<hr/>
	89
②主たる採用業種(複数回答)	
農・林・漁業・	0
食品技術者	
機械・電気技術者	
(機械、電気、その	21
他)	
情報処理技術者	11
その他技術者	8
管理的技術者	4
事務従事者	1
販売従事者	1
サービス職業	2
運輸・通信	2
生産工程・	
労務作業員	6
上記以外	1

(出典 平成30年学生課作成資料)

資料6-1-⑤-1 (続き)

質問5 質問4の本校の本科卒業生及び専攻科修了生についてお尋ねします。貴社から見た本校の教育成果を5段階で評価してください。(数値を本科生、専攻科生欄に記入してください)
(優れている…5、やや優れている…4、普通…3、やや劣る…2、劣る…1)

	本科					専攻科									
	5	4	3	2	1	不明・未回答	計	5	4	3	2	1	不明・未回答	計	
①日本語による論理的記述、口頭発表、討議能力	14	30	28	1			16	89	10	15	11			53	89
②人文・社会科学に関する知識	3	17	51	1			17	89	1	12	23			53	89
③数学・自然科学に関する知識	11	38	22	0			18	89	10	18	8			53	89
④情報技術に関する知識と活用能力	12	43	17	1			16	89	10	21	5			53	89
⑤英語によるコミュニケーション能力	1	12	47	8	2		19	89	0	12	22	2		53	89
⑥経済、安全、環境などの社会・自然に及ぼす影響等について、問題点を認識できる能力	5	27	38	2			17	89	2	16	18			53	89
⑦専門分野に関する知識・態度・処理能力	23	46	5	0			15	89	18	16	2			53	89
⑧種々の知識・処理能力を統合し、ものシステムづくり等に应用できる能力	20	42	10	0			17	89	15	18	3			53	89
⑨自主的に課題を見つけ、継続的に学習できる能力	19	39	16	0			15	89	12	18	6			53	89
⑩与えられた課題に対して、計画的に物事を進め、まとめる能力	17	40	16	0			16	89	10	20	6			53	89
⑪積極性	16	32	23	3			15	89	10	17	8	1		53	89
⑫協調性	24	36	15	0			14	89	11	19	6			53	89
⑬礼儀正しさ、誠実さ	33	32	8	2			14	89	16	16	3	1		53	89
計	198	434	296	18	2		209	1157	125	218	121	4	0	689	1157

(出典 平成30年学生課作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

平成29年度に実施した企業アンケートの結果から、ほぼすべての項目について良い評価を受けており、本校の教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

これらのことから、卒業(修了)生や進路先等の関係者から、卒業(修了)生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や、卒業(修了)後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施している。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

卒業および修了生の進路は就職および進学ともに希望した進路に100%の学生が進んでおり、本校の教育の成果や効果の表れと判断できる。

(改善を要する点)

企業アンケートの結果と専攻科修了生自身の自己評価から、本校の英語教育の改善の必要性を認識している。

(3) 基準6の自己評価の概要

準学士課程、専攻科課程ともに、卒業・修了時において学生に身に付けさせる学力や資質・能力、養成する人材像について、科目ごとに成績評価基準がシラバスに定められ、全教員による卒業・修了認定会議において成績一覧表から達成状況の把握・評価を行い、卒業認定基準に沿って認定を行っている。学生自身による達成度評価が毎年行われており、集計結果は教務委員会に報告され、審議している。専攻科課程においては、この3年間に於いて学位授与試験全員合格を果たしており、教育の効果や成果は十分に上がっていると判断する。

準学士課程、専攻科課程ともに就職率(就職者数/就職希望者数)は極めて高く、就職先も製造業や電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、専門・技術サービス業関連、建設業関連などの当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。さらに、卒業(修了)生の進学先は、いずれも国立大学工学部であり、出身学科に関連する学科に進学している。

特別研究においては、徐々に学会発表件数が増えており、教育の成果や効果が上がっている。全国規模で開催されている「デザコン」および「プロコン」には毎年エントリーし、ともに予選を通過しており授業で得た知識と技術を発揮しているなど教育の成果や効果が上がっている。

トゥルク応用科学大学(フィンランド)との交流協定による短期留学に学生が積極的に参加している。

平成 29 年度に実施した企業アンケートの結果から、ほぼすべての項目について「普通」～「優れている」という評価を受けており、本校の教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

基準 7 学生支援等

(1) 観点ごとの分析

観点 7-1-①： 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

本校では、年度当初の約 1 週間は特別時間割を組んでおり、新入生に対して種々の導入教育が行われる(資料 7-1-①-1)。新入生オリエンテーション(資料 7-1-①-2)は、本校における学校生活や学習に関する諸注意等を含む重要な行事であり、教務ガイダンスでは教務主事から本校で学習を進める上での諸注意が説明される。他にも、学生主事による学生生活に関するガイダンス、学生相談室ガイダンス等が行われる。

専攻科課程の新入生および第 2 学年に対しても、年度当初にガイダンスを開催し、専攻科における学修上の注意、学士取得要件、JABEE プログラム修了要件等について説明している(資料 7-1-①-3, 4)。

準学士課程 2～5 学年においては、年度当初にホームルームにおいて担任からガイダンスが行われた後、始業式における校長講話、教務主事訓話において 1 年間の心構えを説く(資料 7-1-①-5, 6)。また、第 2 学年は、本校の 2 段階学科選択制度を経て新たな学科(クラス)編成となっているため、資料 7-1-①-1 に示した特別時間割の初日の 1・2 時限を「学科オリエンテーション」とし、クラス担任と各学科の協力により、それぞれの学科における学習等について説明している。

年度当初の教務委員会においては、第 1 回目の授業において、シラバスを配布し、シラバスに基づいて科目学習に必要な内容を説明するよう指示している(資料 7-1-①-7)。

学生の自主学習に対する相談・助言体制として、時間割上で統一してオフィスアワーを定めている(資料 7-1-①-8)。オフィスアワーに限らず、本校では教員室前のユーティリティスペースにテーブルと椅子が置かれ、学生はいつでも教員室を訪ねて質問・相談し、教員室前で自主学習する環境を整えている。

さらに、本校の学生相談室は、学習相談を業務の一つとしており、相談室のホームページにおいても、学習関連の悩みを相談項目として明記している(資料 7-1-①-9)。

資料7-1-①-1 (続き)

「専攻科授業内容説明に関する特別時間割」

H30.4.3専攻科委員会指導事項修正済

平成30年度 4月特別時間割

		4月6日(金)								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9
		8:00~	8:50~	10:45~	11:35~	13:10~	14:00~	14:50~	15:40~	16:30~
1学年	K									
	S									
2学年	K		ガイダンス		11:35~11:45 特別:11:07 高木	13:10~13:20 高木	14:00~14:10 高木	14:50~		
	S			11:55~12:05 加藤	13:20~13:30 加藤	14:00~14:10 加藤	14:50~			

		4月9日(月)								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9
		8:00~	8:50~	10:45~	11:35~	13:10~	14:00~	14:50~	15:40~	16:30~
1学年	K		ネットワーク ガイダンス 専攻科 計算機演習室	ガイダンス	13:10~13:20 総計学 原	14:00~14:10 神谷	14:50~		15:40~15:50 総計学	
	S				13:20~13:30 情報数学特講 大根	13:40~13:50 山口	14:00~14:10 山口	14:50~	15:40~16:00 山口	16:00~16:10 山口
2学年	K									
	S							14:30~14:40 山口	15:25~15:35 山口	16:20~16:40 山口

		4月11日(水)								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9
		8:00~	8:50~	10:45~	11:35~	13:10~	14:00~	14:50~	15:40~	16:30~
1学年	K									
	S									
2学年	K									
	S									

C201
C202
S203

(大講義室・自動車工学希望学生)

(出典 web サイト 内部ホームページ)

資料 7-1-①-2

「新入生オリエンテーション」 (抜粋)

新入生オリエンテーション

1. 目的

- i. クラスを立ち上げるに際し、新しい人間関係が円滑に構築されるよう支援する
- ii. 学校生活を営むにあたって必要となるルール（特に SNS の利用マナー）を周知する
- iii. 進級のために必要となる教務関係の手続（遅刻や欠席の取扱い）を周知し、卒業・進学に向けて円滑に学習が進められるようサポートする

2. 実施期日 平成 30 年 4 月 9 日（月）～ 11 日（水）
 ※学生生活ガイダンスは 4 月 7 日（土）に実施する

3. 実施場所 本校各ホームルーム教室、大講義室、体育館

4. 参加者 第 1 学年学生全員、関係教職員
 1 組 38 名、2 組 37 名、3 組 38 名、4 組 37 名 計 150 名

5. 携行品 しおり、筆記用具、学生便覧、上靴

6. 注意事項

- ・ 服装は、健康診断が実施される日は、学校指定ジャージとする。（学校指定ジャージが無い場合は、私服のジャージで構わない）
- ・ 教務ガイダンスは学生便覧を持参すること
- ・ 11 日（火）は上靴を持参すること

7. 内容

① 学生生活ガイダンス	(7 日 11:30～12:40)	学生主事
② LHR	(9 日 1・2 時限)	学級担任
③ 教務ガイダンス	(9 日 3～4 時限)	教務主事
④ 健康診断(内科他)・HR	(9 日 5～7 時限)	学級担任
⑤ 健康診断(歯科)・校内探訪・図書館オリエンテーション・緊急時行動ガイダンス	(10 日 1～4 時限)	学級担任・学生課
⑥ 学生相談室ガイダンス	(10 日 5～6 時限)	学生相談室
⑦ LHR	(10 日 7 時限)	学級担任
⑧ 学内試験	(11 日 1～3 時限)	学級担任
⑨ 対面式	(11 日 5～6 時限)	学級担任・学生会

(出典 平成 30 年度 4 月 学生員会資料 5)

資料 7-1-①-3

「専攻科ガイダンスに関する資料」 (抜粋)

平成 30 年度専攻科(第 1 学年)ガイダンス日程

実施日：平成 30 年 4 月 9 日 (月)

場所：S203 教室・専攻科計算機演習室

時 間	事 項
9:50～	<ul style="list-style-type: none"> ○ネットワークガイダンス (林、小清水) ○ガイダンス終了後 S203 教室へ
10:45～	<ul style="list-style-type: none"> ○専攻科長挨拶 ○両専攻長挨拶
10:55～	<ul style="list-style-type: none"> ○留学案内 (国際交流室教員より)
11:15～	<ul style="list-style-type: none"> ○健康診断案内 (看護師より)
11:25～	<ul style="list-style-type: none"> ○配付資料確認 (学生課) ※別紙参照 ○専攻科の概要 <ul style="list-style-type: none"> (1) 教育課程・修了要件 (2) 単位制、選択制 (3) 在籍期間 (4) 試験 (60 点合格) (5) 学位取得 (6) e-ラーニング ○履修について <ul style="list-style-type: none"> (1) 学位取得に係る単位 (2) 開設科目の説明 (必修・選択) (3) 履修計画 ○その他 <ul style="list-style-type: none"> (1) 学内の施設利用 ・ 専攻科棟 (2) 学生生活関係 ・ 掲示 (専攻科 HP)、学生相談室、喫煙 (3) JABEE ガイダンス (4) TA ガイダンス (5) その他 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書購入 ・ 広報に関わる個人情報の扱いについて ・ TOEIC、英語検定の資格取得
12:20	終了予定

資料 7-1-①-4

平成 29 年度専攻科(第 2 学年)ガイダンス日程

実施日：平成 30 年 4 月 6 日（金）

場所：S203 教室

時 間	事 項
9:00～	<ul style="list-style-type: none"> ○専攻科長挨拶 ○両専攻長挨拶
9:10～	○留学案内（国際交流室教員より）
9:30～	○健康診断案内（看護師より）
	専攻科長より、おもに次の事項について説明
	<ul style="list-style-type: none"> ○学位取得関係 ○JABEE 関係（達成度評価） ○e ラーニング関係 ○その他
10:40	終了

（出典 平成 30 年度 4 月専攻科委員会議事録 資料 6）

資料 7 - 1 - ① - 5

「年度当初の日程」 (抜粋)

平成30年度 年度当初の日程(案)

月	日	曜	行	事	等
	1	日			
	2	月	☆教務委員会(13:30)	☆寮務委員会(13:30)	☆学生委員会(15:00)
	3	火	☆専攻科委員会(10:00) ☆教員会議(13:15)(挨拶, 入学式の話, 新2年生の配属結果の話, 新年度の方針の話等) ☆学級担任会議(14:15) ☆1学年担任会議(15:45)		
	4	水			
	5	木	学生名票・教務手帳用紙配付(非常勤講師室) (2~5年開寮日)		
	6	金	始業日 2~5学年 1時間 HR(学級担任) 2時間 始業式(第2体育館) 校長講話, 教務・学生・寮務主事・相談室長の話 出席優良者表彰, 新任教員紹介 3~6時間 2~3学年数学共通テスト・健康診断・教科書販売(第1体育館) 4学年JABEEガイダンス 入学式・編入学式準備(13:00)		

(出典 平成 30 年 4 月教務委員会資料 7)

資料 7-1-①-6

資料 7-1-①-6

始 業 式 実 施 要 項

日時 平成30年4月6日(金) 2時限
場所 第2体育館
進行 山田教務主事補

9時45分 整列, 点呼
9時50分 開始

1. 開式の辞
2. 校長講話
3. 教務主事訓話
4. 学生主事訓話
5. 寮務主事訓話
6. 学生相談室長から
7. 新任教員紹介(校長)

(出典 平成30年度4月教務委員会資料8-1)

資料 7-1-①-7

「年度当初のシラバス配布の関わる指示文書」(抜粋)

3. その他

(1) 授業開始時のシラバス配付について

委員長から、最初の授業においてシラバスを印刷配布し説明を行うよう、分野内で周知して欲しい旨依頼があった。また、1年生のシラバスについては入学式に配布する旨補足説明があった。

(出典 平成30年度4月定例教務委員会議事録)

資料 7-1-①-8

「授業時間割 (オフィスアワーの時間帯に関する資料)」

学年	学期	1 時				2 時	3 時				4 時	5 時			
		1	2	3	4		1	2	3	4					
1 学年	I	数学A	物理A	基礎化学	45	OFFICE	英語	数学B	英語	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30		
	2	化学	数学A	英語	45		英語	英語	英語					英語	
	3	物理A	数学B	英語	45		英語	英語	英語					英語	
	4	基礎化学	英語	英語	45		英語	英語	英語					英語	
2 学年	3Q1 (1) 前期	英語	数学B	英語	45	OFFICE	英語	数学B	英語	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30		
	3Q2 (2) 前期	英語	化学	英語	45		英語	英語	英語					英語	
	3Q3 (3) 前期	英語	物理	英語	45		英語	英語	英語					英語	
	I	英語	数学B	英語	45		英語	英語	英語					英語	
	M	英語	物理	英語	45		英語	英語	英語					英語	
	D	英語	化学	英語	45		英語	英語	英語					英語	
3 学年	3Q1 (1) 前期	英語	数学B	英語	45	OFFICE	英語	数学B	英語	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30		
	3Q2 (2) 前期	英語	化学	英語	45		英語	英語	英語					英語	
	3Q3 (3) 前期	英語	物理	英語	45		英語	英語	英語					英語	
	I	英語	数学B	英語	45		英語	英語	英語					英語	
	M	英語	物理	英語	45		英語	英語	英語					英語	
	D	英語	化学	英語	45		英語	英語	英語					英語	
4 学年	3Q1 (1) 前期	英語	数学B	英語	45	OFFICE	英語	数学B	英語	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30		
	3Q2 (2) 前期	英語	化学	英語	45		英語	英語	英語					英語	
	3Q3 (3) 前期	英語	物理	英語	45		英語	英語	英語					英語	
	I	英語	数学B	英語	45		英語	英語	英語					英語	
	M	英語	物理	英語	45		英語	英語	英語					英語	
	D	英語	化学	英語	45		英語	英語	英語					英語	
5 学年	M	英語	数学B	英語	45	OFFICE	英語	数学B	英語	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30		
	E	英語	物理	英語	45		英語	英語	英語					英語	
	D	英語	化学	英語	45		英語	英語	英語					英語	
	I	英語	数学B	英語	45		英語	英語	英語					英語	
	M	英語	物理	英語	45		英語	英語	英語					英語	
	A	英語	化学	英語	45		英語	英語	英語					英語	
1 学年	M	英語	数学B	英語	45	OFFICE	英語	数学B	英語	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30		
	S	英語	物理	英語	45		英語	英語	英語					英語	
2 学年	N	英語	数学B	英語	45	OFFICE	英語	数学B	英語	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30	10:00-10:30 11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-15:30 16:00-16:30 17:00-17:30		
	S	英語	物理	英語	45		英語	英語	英語					英語	

(出典 web サイト 内部向けホームページ)

「学生相談室規程」 (抜粋)

○釧路工業高等専門学校学生相談室規程
(昭和62年9月17日 釧高専達第5号)

改正 平成18.3.27 釧高専達第19号 平成25.3.28 釧高専達第16号

(設置)

第1条 釧路工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、学生相談室(以下「相談室」という。)を置く。

(目的)

第2条 相談室は、学生の全人的成長・発達に関する問題や悩みの解決に必要な助言・援助を行うことを目的とする。

(職員)

第3条 相談室に、次の職員を置く。

- 一 相談室長
- 二 相談員 若干名
- 三 学生支援コーディネーター 若干名

2 相談員は、本校教職員の中から校長が任命する。

3 相談員のうち1名を相談室長(以下「室長」という。)とし、校長が選任する。

4 学生支援コーディネーターは、本校教員の中から校長が任命する。

5 相談員及び学生支援コーディネーターの任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠による相談員及び学生支援コーディネーターの任期は、前任者の残任期間とする。

6 校長は、必要に応じて本校職員以外の者を相談員として委嘱することができる。

(業務)

第4条 室長は、相談室を総括する。

2 相談室は、次の業務を行う。

- 一 学生の個人的諸問題に関する相談活動及び助言・援助
- 二 学生の精神衛生上の問題に関する相談活動及び助言・援助
- 三 前2号に係る、学級担任・学科・委員会等を含む本校関係者及び関わりの深い個人・機関・団体との連携による、解決に向けたコンサルテーション(作戦会議)の実施
- 四 学生相談の活動に必要な研究及び調査
- 五 前各号の業務に必要な資料の収集及び保存
- 六 その他学生相談に関し、必要な事項

3 学生支援コーディネーターは、発達障害学生(発達障害者支援法第2条に定義する者。)にかかわる次の業務を行う。

- 一 教職員に対する発達障害学生への支援に関する理解と普及
- 二 当該学生との接触及び保護者との連絡調整
- 三 当該学生の学級担任、授業担当教員及び所属学科等との情報交換並びに必要に応じて関係教員を招集してのミーティング
- 四 必要に応じて各委員会へ出席して状況の説明・助言
- 五 医療機関及び出身中学校等との連携

(秘密の厳守)

第5条 第3条第1項の職員は、業務上知り得た事項を秘密にし、それを厳守しなければならない。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、年度当初の約1週間は特別時間割を組んでおり、準学士課程、専攻科課程新入生を中心として、種々のオリエンテーションやガイダンスを実施している。

学生の普段の自主学習に対する相談・助言体制として、時間割上で統一してオフィスアワーを定めている。本校では教員室前のユーティリティスペースにテーブルと椅子が置かれており、オフィスアワーに限らず学生はいつでも教員室を訪ねて質問・相談し、教員室前で自主的に学習する環境を整えている。

本校の学生相談室は、学生からの学習相談を業務としている。

これらのことから、学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施され、また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能している。

観点 7-1-②： 自主的学習環境及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されているか。

(観点に係る状況)

教員室前にユーティリティスペースがあり、机と椅子が置かれ、学生の自主学習や各種資料提供に利用している(資料7-1-②-1)。ホームルーム教室の放課後利用は制限しておらず、定期試験前など、学生の自主学習に利用されている。専攻科棟3階には専攻科学生ルームがあり机と椅子、パソコンを設置しており、講義の合間や放課後に学生が利用している(資料7-1-②-2)。これらの施設についての利用統計は取っていないが、多くの学生が利用している。また、本校施設の休日使用については、使用規則が定められ(資料7-1-②-3)、教員の指導の下で利用することができる。

本校の図書館開館時間は平日は20:00まで、土曜日は17:00までとし、試験期間中は日曜日も開館している。なお、長期休業期間中は平日17:00までの開館としている(資料7-1-②-4)。

実習工場や情報処理演習室についても、それぞれ利用規定を定め(資料7-1-②-5, 6)、放課後の利用に便宜を図っている。

福利厚生施設として鶴峰会館があり、学生食堂、売店が置かれている(資料7-1-②-7)。1階および2階に合宿用の宿泊設備を用意している(資料7-1-②-8)。また、部室として課外活動に利用されている。

コミュニケーションスペースとして、本校では校内の廊下の各所や学生ホール、鶴峰会館にソファやベンチを設置しており(資料7-1-②-9)、休み時間や放課後の学生たちの歓談の場として提供している。

資料 7-1-②-1

「ユーティリティスペースの利用状況」



(出典 総務課作成資料)

資料7-1-②-2

「専攻科学生ルーム」



Copyright © 2014 Nishikubo

資料 7-1-②-3

「教室などの学校設備の放課後及び休日利用についての規程」 (抜粋)

(略)

第10章 施設・設備の使用

(施設・設備の使用)

第30条 学生及びその団体が、本校の施設・設備を使用しようとする場合には、その目的、施設・設備の名称

- 30 -

等を記載した施設・設備使用許可願(第16号様式)を校長に提出し、その許可を受けなければならない。ただし、日常その使用を認められた施設・設備についてはこの限りでない。

(略)

(出典 平成 30 年度学生便覧 p. 30~31)

資料 7-1-②-4

「図書館の利用規定」 (抜粋)

(略)

2 開館時間は、次のとおりとする。

一 月曜日～金曜日 8:30～20:00

二 土曜日、定期試験の直前及び試験期間中の日曜日・祝日 8:30～17:00

三 春季、夏季、冬季及び学年末休業期間の平日 8:30～17:00

(略)

(出典 平成 30 年度学生便覧 p. 66)

資料 7 - 1 - ② - 5

「実習工場の利用規定」 (抜粋)

実習工場使用について(学内向け)

実習工場で作業する学生及び教職員は、作業前に下記注意事項をよく読み、機器の操作および安全に対して細心の注意を払うこと。

安全に使用するために《各工作機械の注意事項はこちら(pdfファイル)》

実習工場内の工作機械や設備は、その取り扱いを間違えるとケガや取り返しのつかない事故につながります。使用する前に下記事項をよく読み、安全に十分注意して作業すること。

作業の前に

・実習工場を使用する時は「[実習工場工作機械等使用願](#)」に必要事項を記入し、担当教員の署名をもらい工場へ提出し許可をもらうこと。

(中略)

その他

- ・休日の使用は原則として禁止する。
- ・教職員は、学生の模範となるよう行動すること。
- ・その他不明な点は、工場担当職員の指示に従うこと。

(出典 web サイト内部向けホームページ)

資料 7 - 1 - ② - 6

「情報処理演習室の利用について」 (抜粋)

演習室の放課後の開放について

今年度も例年通り、第1演習室のほうは昼休み・放課後の開放を行っておりますが、H24年度から校舎4号棟1階第2演習室のほうも放課後の開放を行います。学生の皆さんは、自学自習にお使いください。

決まりを守り、適切に使用してください。

基本的な使い方について

- 1 何かトラブルがあった場合は、情報処理センター 小清水 へ連絡してください。
- 2 他のクラスが授業をしている間は入室してはいけません。
- 3 演習室のパソコンを使用してゲームをしてはいけません。
- 4 演習室内での飲食は禁止。
- 5 落書きは止めましょう。
- 6 消しゴムのかす・ホチキスの針は廊下のゴミ箱に捨てましょう。特に、ホチキスの針はカーペットの上に着ると、踏む可能性があり危険です。必ず、廊下のゴミ箱に捨てましょう。
- 7 靴は必ず下駄箱に入れてください。
- 8 演習室にゴミ箱はありません、自分のゴミはすべて持ち帰り、廊下のゴミ箱等に捨ててください。
- 9 勝手にソフトウェアやアプリケーションをインストールしてはいけません。
- 10 無駄な印刷は禁止です。必ず両面印刷をしてください。
- 11 USBメモリの忘れ物が大変多いです。使用するUSBメモリには、氏名と学籍番号を記入して使用してください。
- 12 17:00以降演習室を利用したい場合は、事前に[時間外利用申請書](#)を提出してください。
- 13 その他、他の人の迷惑になる行為はしないでください。

(出典 内部向けホームページ)

資料 7-1-②-7

「鶴峰会館の学生食堂，売店などの設備の状況」



(出典 総務課作成資料)

資料 7-1-②-8

「鶴峰会館の利用規定」 (抜粋)

(略)

第2条 会館を使用できる者は、本校の学生及び教職員とする。ただし、校長が特に必要と認めた場合は、その他の者に使用を許可することがある。

(開館時間等)

第3条 開館・閉館及び使用を認める時間(以下「開館時間等」という。)は、別表1及び別表2の定めるところによる。ただし、校長が特に認めた場合は、この限りでない。

(休館日)

第4条 休館日は、次のとおりとする。ただし、校長が特に必要と認めた場合は、この限りでない。

- 一 土曜日及び日曜日
- 二 国民の祝日に関する法律(昭和23年 法律第178号)に規定する休日
- 三 年末年始の特別休暇の日
- 四 その他校長が特に指定した日

(使用手続)

第5条 会館の課外活動共用室、暗室・前室及び和室(以下「共用室等」という。)を使用しようとする者は、あらかじめ施設・設備使用許可願(学生準則第16号様式)を校長に提出し、許可を得なければならない。

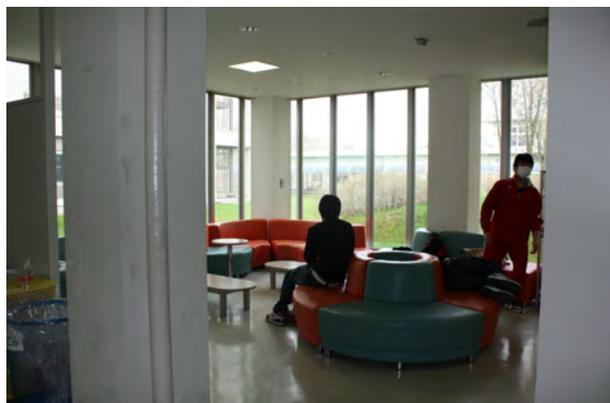
2 共用室等の使用については、同一団体等で引き続き使用し、専用することはできない。ただし、校長が特に必要と認めた場合は、この限りでない。

(略)

(出典 平成30年度学生便覧 p.85～86)

資料 7 - 1 - ② - 9

「休憩用ソファの利用状況」



(出典 総務課作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校では教員室前にユーティリティスペースがあり、机と椅子が置かれ、学生の自主学習や各種資料提供に利用している。専攻科棟 3 階には専攻科学生ルームがあり講義の合間や放課後に学生が利用している。

本校の図書館開館時間は平日は20:00まで、土曜日は17:00までとし、試験期間中は日曜日でも開館している。実習工場や情報処理演習室についても、それぞれ利用規定を定め、放課後の利用に便宜を図っている。

福利厚生施設として鶴峰会館があり、学生食堂、売店が置かれている。合宿用の宿泊設備や部室として課外活動に利用されている。

コミュニケーションスペースとして、本校では校内の廊下の各所や学生ホール、鶴峰会館にソファやベンチを設置しており、学生たちの歓談の場として提供している。

これらのことから、自主的学習環境及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されている。

観点 7-1-③： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されているか。また、資格試験や検定試験の受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

「校長が学生の声を聞く会」を開催し、校長が学生の意見や要望を直接聞く機会を設けている(資料 7-1-③-1)。学生ホールには学生意見箱を置き(資料 7-1-③-2)、学生の意見・希望の収集に努めている。学生意見箱への投書は担当部署の回答を集約して掲示板への貼り出しにより回答している(資料 7-1-③-3)。

資格試験や検定試験は、英語検定や漢字検定のように全学生に共通な場合と、それぞれの専門分野に対応し学科独自の場合がある。本校では、第 2 学年において英検準 2 級試験を、受験料を補助して全学生に受験させている。専門分野の資格試験等は各学科が指導・実施している。資格試験、検定試験の一部は単位認定(資料 7-1-③-4)することで学生に資格取得への動機づけを行っている。教務委員会の審議を経て単位認定される。

平成 23 年度にフィンランドのトゥルク応用科学大学(TUAS)との包括協定を締結し、平成 28 年度に更新し(資料 7-1-③-5)、本校からの留学生派遣および TUAS からの留学生受け入れ態勢を整備した。また平成 25 年にはタイ王国のキングモンクット工科大学ラカバン校(KMITL)と、さらに平成 30 年には同じくタイ王国の泰日工業大学(TNI)とも包括協定を締結した(資料 7-1-③-6, 7)。毎年、本科および専攻科の複数の学生が派遣されている(資料 7-1-③-8)。

資料7-1-③-1

学級担任・専攻長 各位
教務主事

10月の教員会議でお知らせしました通り、校長と学生との懇談を実施します。つきましては、懇談に出席する学生を各クラス・専攻から1名選出し、11月19日(月)までに学生氏名を教務主事補・山田(yam@electro.kushiro-ct.ac.jp)あてお知らせください。出席学生は学級代表でも、そうでなくても構いません。なお、実施日時は以下の通りです。

日時:
11/28(水)16:30~17:30 1~3年
12/12(水)16:30~17:30 4,5年,専攻科(※)

場所:会議室(2回とも)

出席予定者:校長,教務主事,学生主事,寮務主事,学生課長

※専攻長におかれましては、1K,2K,1S,2Sから各1名を選出お願いします。

よろしくお願ひ致します。

--

釧路工業高等専門学校 創造工学科
エレクトロニクスコース 電子工学分野

(出典「校長と学生の懇談にかかる学生選出のお願い」依頼メール)

資料 7 - 1 - ③ - 2

「意見箱の写真」 (抜粋)



(出典 総務課作成資料)

資料 7 - 1 - ③ - 3

「学生意見箱の意見への回答」 (抜粋)

	意 見	回 答
1	意見箱の回収について毎月10日回収って・・・毎週回収しましょう。それをさぼるのはどうかと思います。	ご意見ありがとうございます。意見箱の回収については、回収の頻度を高め、いただいたご意見に早くお答えできるように努めていきます。
2	吹奏楽部員です。女子寮生の合宿を許可して下さい。卒業式前の合宿で女子寮生がいないと演奏が雑なものになってしまいます。吹奏楽部としては卒業生を送るときはカンペキな演奏をしたいと思っているので、どうかお願いします。	ご意見ありがとうございます。女子学生の合宿に関しては以前からご意見をいただいております。宿泊費の一部を補助できないか検討していきたいと考えています。詳しくは掲示している「意見箱へ寄せられた意見への回答(意見箱開封 2月7日)」をご覧ください。

(出典 平成 29 年度 4 月 学生委員会 資料 3)

資料 7-1-③-4

「資格試験、検定試験の単位認定」 (抜粋)

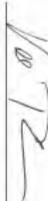
別表第1 特別学修

検 定 試 験	級	科 目 名	単位数	認定学年	該 当 学 科
文部科学省認定 实用英語技能検定試験	2級 以上	英語コミュニケーション (選択)	2	5 学年	一般科目 (各学科共通)
文部科学省認定 工業英語能力検定試験					
文部科学省認定 ラジオ・音響技能検定試験	2級	通 信 工 学 (選択)	2	5 学年	電気工学科
		電 子 機 器 (選択)	2	5 学年	電子工学科
		電 気 応 用 (選択)	2	5 学年	情報工学科
文部科学省認定 デジタル技術検定試験	2級 情報	メカトロニクス (選択)	2	5 学年	電子工学科
	2級 制御				

(出典 平成 30 年度学生便覧 p. 41)

資料 7 - 1 - ③ - 5

「トゥルク応用科学大学 (TUAS) との包括連携協定書」

 <p style="text-align: center;">TURKU AMK TURKU UNIVERSITY OF APPLIED SCIENCES</p> <p style="text-align: center;">MEMORANDUM OF UNDERSTANDING ON STUDENT EXCHANGE</p> <p>Each institution will accept under this agreement maximum of four students per year. The number need not to be equal within each year but it should be generally equal in principle.</p> <p>Each Institution will decide and communicate the outgoing students to participate in the exchange program up to four months before the new academic year of host institution. Faculty of Business, ICT and Chemical Engineering will coordinate the exchange within TUAS. This MoU is concentrated in fields of Information Technology, Environmental engineering, Architecture and Civil-engineering, Electronics, Mechanical engineering and Chemical Engineering.</p> <p>The period of enrollment of the students at the host institution is recommended to be three months in accordance with the receiving institution's calendar.</p> <p>The students must have been enrolled in the home institution as regular students and will be exempt from application, matriculation and tuition fees at the host institution. The students will continue as students of their degree programs at their home institutions and will not be candidates for degrees at the host institutions.</p> <p>The host institution's courses will determine the content available for the exchange student. The host institution will appoint qualified supervisors when needed.</p> <p>Students minimum language skills recommendation is equivalent to IELTS score academic level 6 or TOEFL score 530 paper-based test / 213 computer-based / 79 internet based test, in order to assure that the student has the minimum requirements to carry out his/her studies successfully. In addition to this Turku University of Applied Sciences will require their outgoing students to have adequate awareness of the Japanese culture and language.</p> <p>The sending institution will provide necessary background information of each exchange student prior to the exchange. The study plan of each exchange student will be mutually agreed between receiving and sending institutions. The host institution will provide a transcript of records after the exchange period.</p> <p>The host institution will be responsible for assisting students to find adequate accommodation. The host institution will be exempt from this responsibility if the student declines the recommended accommodation. Host institution will provide assistance with visa arrangements and other essential documents.</p> <p>Exchange students are subjected to all rules and regulations of the host institution. The host institution will not be liable for travel, living, healthcare, insurance or other expenses incurred by the students.</p>	<p>These terms shall be subject to revision, renewal or cancellation by mutual consent, and become effective upon the signature of each party.</p> <p>This MoU is written in English in two copies, one to each party.</p> <p>Date: <u>Apr. 16, 2016</u> Date: <u>16.9.2016</u></p> <p> </p> <p>Norimitsu Kishi Vesa Taatila President Rector, President National Institute of Technology, Kusshiro College Turku University of Applied Sciences</p>
--	---

(出典 総務課作成資料)

資料 7-1-③-6

「キングモンクット工科大学ラカバン校 (KMITL) との包括連携協定書」



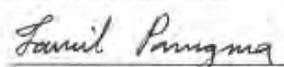
Implementation of Student Exchange/Internship Program
Between
King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang (KMITL)
And
Kushiro National College of Technology (KNCT)



In accordance with the Agreement for Academic Exchange between King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang (KMITL), Thailand and Institute of National Colleges of Technology (INCT), Japan, KMITL and Kushiro National College of Technology (KNCT) have agreed to set up the following procedures for the Student Exchange/Internship program.

1. Each party shall accept the selected undergraduate students for the Exchange or Internship Program at each institution in the specific fields.
2. The number of Exchange/Internship students that both parties can accept shall depend on mutual discussion yearly.
3. The period of training should be at least 1 month or other in according to mutual discussion and negotiation. The tentative period for KMITL students to KNCT is during April, May and June of each year. And the tentative period for KNCT to KMITL is during August, September and October. However, the training period can be change in according to mutual agreement.
4. Each party may assign a few teachers or staff for escorting the students and supervising their activities for 3 to 7 days at the beginning of the training period, in case if it is necessary.
5. Each party shall provide free accommodation in the student dormitory for exchange/internship students.
6. Each party who sends students and/or staff shall be responsible for
 - the costs of round-trip transportation between countries (Japan and Thailand),
 - the necessary costs on daily basis including food
 - the travel insurances
7. Each party shall make an effort to provide transportation between nearest airport and accommodation on both the arrival day and departure day for exchange/internship students.
8. A review shall be initiated under the mutual consensus between KMITL and KNCT in case this Implementation needs to be revised.
9. Two copies of this note shall be made and one of the copies shall be kept by each institution.

Date: August 28th, 2013



Prof. Dr. Tawil PAENGMA
 President
 King Mongkut's Institute of Technology
 Ladkrabang



Prof. Dr. Norimitsu KISHI
 President
 Kushiro National College of Technology

(出典 総務課作成資料)

資料 7-1-③-7

「泰日工業大学 (TNI) との包括連携協定書」




**MEMORANDUM FOR ACADEMIC COOPERATION BETWEEN
NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY, KASHIWA COLLEGE
AND
THAI-NICHI INSTITUTE OF TECHNOLOGY**

In accordance with clause (a) and (b) of the Agreement of Academic Cooperation between Thai-Nichi Institute of Technology (TNI), Thailand and National Institute of Technology (NIT), Japan, The National Institute of Technology, TNI and National Institute of Technology, Kashiwa College (NITKC) hereby agree to promote exchange of faculty, staff members and students.

- 1. Period of stay**
The maximum period of stay for exchange faculty, staff members and students in the host institution shall not exceed one academic year. The extension of this period shall be required the approval from both institutions.
- 2. Number of Exchange Faculty, Staff members and Students**
The number of exchange faculty, staff members and students shall be fixed by annual consultation between the two institutions.
- 3. Selection of Exchange Faculty, Staff members and Students**
Each institution shall be responsible for the nomination of qualified candidates for the exchange program. Each institution will select its own exchange students giving particular consideration to the language of the host institution.
- 4. Status of Exchange Students**
Exchange students already enrolled in regular or advanced course at NITKC or undergraduate course at TNI shall be admitted as exchange students (non-degree students) in the respective host institution for the period of exchange.
- 5. Field of Study for Exchange Students**
The field of study for exchange students must be one for which the host institution can appoint a qualified supervisor for the students.
- 6. Study Program and Evaluation**
The study program at the host institution will be determined for exchange students in consultation with the academic advisors of both the host and home institutions.
- 7. Academic Record and Accreditation**
Each host institution agrees to provide to the home institution the academic record obtained by exchange students, which will be recorded according to the rules of the home institution.
- 8. Tuition**
Exchange students shall pay normal tuition to the home institution, and there shall be no requirement for payment of tuition, screening fees, non-admission fees to the host institution.

Neither institution will impose additional fees for tuition nor academic services.

- 9. Accommodation**
The host institution shall make its best efforts to assist exchange faculty, staff members and students in finding accommodation at a reasonable cost.
- 10. Financial Responsibility**
The exchange faculty, staff members and students shall be responsible for their own expenses including travel expenses, living expenses, accommodation costs, medical expenses, and personal expenses and shall be covered by personal health and liability insurance.
- 11. Discipline**
The exchange students shall receive the full rights of students in the host institution and be obliged to observe the rules and regulations of the host institution.
- 12. Intellectual Property**
It is understood under this Memorandum that any inventions and/or discoveries made solely by either party, the other thereof shall belong only to that party. In case of joint inventions and/or discoveries made jointly or wholly by both parties, the titles thereof shall belong jointly to both parties.
- 13. Dispute Resolution**
Any dispute concerning the interpretation of this Memorandum shall be settled by negotiations and/or consultations in the spirit of trust and understanding in consonance with the friendship and cooperation that exist between the two institutions.
- 14. Language used**
The text of this memorandum is established in English.
- 15. Others**
Other matters necessary for the exchange students shall be mutually determined as specific cases require. This memorandum shall become effective when authorized representatives of the two institutions affix their signatures to the memorandum.

National Institute of Technology,
Kashiwa College

Yoshio Kobayashi
Dr. Yoshio Kobayashi
President
Date: Oct. 26, 2018

Thai-Nichi Institute of Technology

Assoc. Prof. Dr. Binodit Ratanayomont
Assoc. Prof. Dr. Binodit Ratanayomont
President
Date: Nov 7, 2018

(出典 総務課作成資料)

資料 7 - 1 - ③ - 8

第 4 回 国際交流室
H29. 10. 19
資料 B-5

国際交流事業（学生派遣）

作成 学生課秋田

1. 学生派遣

- (1) フィンランド トゥルク応用科学大学（TUAS）への派遣学生は 0 名
- (2) タイ キングモンクット工科大学（KMITL）

派遣期間 : (7 日間プログラム) 平成 29 年 8 月 14 日 (土) ~19 日 (土)
 (30 日間プログラム) 平成 29 年 8 月 14 日 (土) ~9 月 12 日 (火)

派遣学生指名 : (7 日間) 電子工学科 2 年 []
 建築学科 2 年 []
 電気工学科 3 年 []
 ” []
 (30 日間) 電子情報システム工学専攻 1 年 []
 ” []
 ” []

引率教員 : 機械工学分野 関根先生

(出典 H29 年度 第 4 回国際交流室議事録)

第4回 国際交流室
H30.10.22
資料 B-4

国際交流事業（学生派遣）

作成 学生課 秋田

1. 学生派遣

(1) フィンランド トゥルク応用科学大学 (TUAS)

- ・派遣期間：平成30年8月25日（土）～平成30年11月21日（水）
- ・派遣学生：建設・生産システム工学専攻1年 

(2) タイ キングモンクット工科大学 (KMITL)

- ・派遣期間：平成30年8月14日（火）～平成30年9月7日（金）
- ・派遣学生：電子情報システム工学専攻1年 
機械工学科5年
〃
建築学科4年

(3) タイ 泰日工業大学 (TNI)

- ・派遣期間：平成30年8月14日（火）～平成30年9月7日（金）
- ・派遣学生：電気工学科4年 
〃
情報工学科4年
創造工学科電気工学分野3年

(4) タイ 泰日工業大学 (TNI) スマートレーニング

- ・参加期間：平成30年8月23日（木）～平成30年9月3日（月）
- ・参加学生：創造工学科電気工学分野2年 
〃 電子工学分野2年

2. 教員派遣

- ・引率教員：電気工学分野 鈴木先生（タイのみ）
- ・引率期間：平成30年8月14日（火）～17日（金）

（出典 H30年度 第4回国際交流室議事録）

(分析結果とその根拠理由)

「校長が学生の声を聞く会」，学生意見箱等により，学生のニーズ把握に努めている。

本校では，第2学年において受験料を補助して英検準2級試験を全学生に受験させ，専門分野の資格試験等は各学科が指導・実施している。資格試験，検定試験の一部は単位認定することで学生に資格取得への動機づけを行っている。

平成23年度にフィンランドのトゥルク応用科学大学 (TUAS) との包括協定を締結し (平成28年度に更新)，平成25年にはタイのキングモンクット工科大学ラカバン校 (KMITL) と，さらに平成30年には同じくタイの泰日工業大学 (TNI) と包括協定を締結した。この協定に基づき毎年、本科および専攻科の複数の学生が派遣されている

これらのことから，学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されている。また，資格試験や検定試験の受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能している。

観点 7-1-④： 特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されているか。また，必要に応じて学習支援が行われているか。

(観点に係る状況)

留学生については，担任が留学生指導教員となる (資料 7-1-④-1) とともに，チュータを置いて支援している。チュータには支援内容を指導し，毎月の活動報告を義務付けている。編入学初年度である第3学年においては，留学生特別時間割を作成し，個々の留学生に応じた教育を行っている。

4年次編入学生については，特に高校との学習内容が異なる数学について教育課程を組み替え，卒業までに必要な数学力を育成できるよう工夫している。

障害のある学生への支援として，本校は障害学生支援委員会を置いている (資料 7-1-④-2)。本校では，準学士課程について合格者確定後に中学校訪問を行い，中学校に本校入学予定者に関する指導情報の共有を依頼している (資料 7-1-④-3)。これを基に障害学生支援委員会，保健室，学生相談室は連携し，場合によっては中学校や保護者と連絡を取りながら「配慮を要する学生」についての情報を取りまとめる (資料 7-1-④-4)。これらの情報は新1年生のクラス編成にも反映させるとともに，新年度の教員会議において報告し，全教員の間で特別な支援を要する学生についての情報共有を図っている (資料 7-1-④-5)。

資料 7-1-④-1

「留学生指導教員」 (抜粋)

◎副校長、主事、センター長等、
学科長等、室長、主事補

副校長(教務担当)/教務主事	川村 淳浩
副校長(学生担当)/学生主事	三森 敏司
副校長(寮務担当)/寮務主事	池田 盛一
副校長(校務担当)/校務主事	小田島 本有
副校長(専攻科・研究担当)/専攻科長	草薙 敏夫
図書館長	館下 徹志
地域共同テクノセンター長	浦家 淳博
副センター長	佐川 正人
情報処理センター長	林 裕樹
副センター長	高橋 晃
学習支援センター長	浅水 仁
副センター長	小久保 慶一
教育研究支援センター長	川村 淳浩
実習工場長	高橋 剛
創造工学科長	川村 淳浩
一般教育部門長兼一般教育科長	片岡 務
スマートメカニクスコース長	天元 宏
エレクトロニクスコース長	高木 敏幸
建築デザインコース長	佐藤 彰治
情報工学分野長兼情報工学科長	天元 宏
機械工学分野長兼機械工学科長	高橋 剛
電気工学分野長兼電気工学科長	高木 敏幸
電子工学分野長兼電子工学科長	高 義礼
建築学分野長兼建築学科長	佐藤 彰治
一般教育部門兼一般教育科文系長	片岡 務
一般教育部門兼一般教育科理系長	浦家 淳博
専攻長(建設・生産)	高橋 剛
専攻長(電子情報)	高 義礼
副専攻長(建設・生産)	佐藤 彰治
副専攻長(電子情報)	高木 敏幸
副専攻長(電子情報)	天元 宏
学生相談室長	松崎 俊明
入試企画室長	小田島 本有
認証評価・IABEE対策室長	草薙 敏夫
男女共同参画推進室長	高 義礼
エンジュニアクラブ企画室長	浦家 淳博
国際交流室長	関根 孝次
教務主事補	山田 昌尚
教務主事補	村上 公一
教務主事補	栗原 浩平
学生主事補	梅津 裕志
学生主事補	山形 文啓
学生主事補	鈴木 未央
寮務主事補	柳川 和徳
寮務主事補	赤堀 匡俊
寮務主事補	本田 匠
寮務主事補	宮毛 明子
校務主事補	林 幸利
校務主事補	鈴木 俊哉

◎学級担任及び学年主任

1年	1 組	加藤 岳人
	2 組	林 幸利
	3 組	○ 三島 利紀
	4 組	滝岡 正樹
2年	情報工学分野	中島 陽子
	機械工学分野	滝邊 聖司
	電気工学分野	千田 和範
	電子工学分野	○ 松本 和健
	建築学分野	大槻 香子
3年	情報工学分野	本間 宏利
	機械工学分野	前田 貴章
	電気工学分野	佐藤 英樹
	電子工学分野	渡邊 駿
	建築学分野	○ 加藤 雅也
4年	機械工学科	関根 孝次
	電気工学科	鈴木 俊哉
	電子工学科	戸谷 伸之
	情報工学科	○ 高橋 晃
	建築学科	西澤 岳夫
5年	機械工学科	小杉 淳
	電気工学科	佐川 正人
	電子工学科	坂口 直志
	情報工学科	林 裕樹
	建築学科	○ 千葉 忠弘

○印は学年主任

◎学級副担任

1年	1 組	佐藤 潤
	2 組	浅水 仁
	3 組	土江田 織枝
	4 組	鈴木 邦康
2年	情報工学分野	谷 堯尚
	機械工学分野	樋口 泉
	電気工学分野	小谷 泰介
	電子工学分野	細見 佳子
	建築学分野	村上 公一
3年	情報工学分野	大槻 典行
	機械工学分野	グエンタン ソン
	電気工学分野	佐々木 敦
	電子工学分野	山田 昌尚
	建築学分野	松林 道雄

◎留学生指導教員

日本語担当教員	加藤 岳人
3年情報工学分野	本間 宏利
3年機械工学分野	前田 貴章
3年電気工学分野	佐藤 英樹
4年機械工学科	関根 孝次
4年電気工学科	鈴木 俊哉
4年情報工学科	高橋 晃
4年建築学科	西澤 岳夫
5年機械工学科	小杉 淳
5年電気工学科	佐川 正人
5年電子工学科	坂口 直志
5年情報工学科	林 裕樹
5年建築学科	千葉 忠弘

(出典 web サイト 内部向けホームページ)

資料 7-1-④-2

「障害学生支援委員会」 (抜粋)

○釧路工業高等専門学校障害学生支援委員会規則

(平成 28 年 2 月 25 日釧高専達第 11 号)

改正 平成 29 年 3 月 23 日釧高専達第 10 号 平成 29 年 7 月 31 日釧高専達第 2 号

(設置)

第 1 条 釧路工業高等専門学校に、校長の諮問機関として障害学生支援委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(目的)

第 2 条 委員会は、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(平成 25 年法律第 65 号。)及び障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本方針(平成 27 年 2 月 24 日閣議決定。)に基づき、心身の機能に障害のある学生(以下「障害学生」という。)の為に、関係委員会及び関係教職員と連携し、障害学生の修学支援を行うことを目的とする。

(審議事項)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議するほか、支援に必要な業務を行う。

- 一 支援対象学生の決定及び支援方針等に関すること。
- 二 サポートチームの設置及び構成員に関すること。
- 三 サポートチームの業務執行状況の確認に関すること。
- 四 障害学生の支援にかかる研修に関すること。
- 五 その他障害学生の支援に関して必要と認められること。

(組織)

第 4 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 副校長(教務担当)
- 二 副校長(学生担当)
- 三 副校長(寮務担当)
- 四 学生相談室長
- 五 学生支援コーディネーター
- 六 学生課長
- 七 看護師
- 八 その他校長が必要と認めた者

(委員長)

第 5 条 委員会に委員長を置き、副校長(学生担当)をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長は、支援対象学生ごとにサポートチーム構成員を指名する。
- 4 委員長が不在のときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第 6 条 委員会は、委員の 3 分の 2 以上が出席しなければ、議事を開くことができない。

- 2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決する

(出典 平成 30 年度第 5 回障害学生支援委員会 資料 3-3)

資料 7-1-④-3

「合格者の中学校訪問」 (抜粋)

(4) 入学前の中学校訪問について

修学支援係主任から、資料 4 に基づき、例年どおり新入生の出身中学校へ引き継ぎのため中学校訪問を実施し、釧路地域（中山コーディネータ及び新 1 学年主任 1 名）、札幌市（横澤コーディネータ）、帯広市（佐久間コーディネータ）で実施したい旨説明があり、審議の結果了承された。

(出典 平成 30 年度第 10 回入学試験委員会議事録)

資料 7-1-④-4

「初めにお読み下さい」 (抜粋)

1. 取扱注意

- (1) ここには配慮を要する学生の情報が 있습니다。担任、授業担当者、その学生に関わる可能性がある教職員は内容を確認してください。
- (2) 見終わったらパソコン上のファイルは必ず削除して下さい。
* 個人情報 は本人の同意が無ければ他者に伝えることは出来ません。この情報を知ることが出来ない者がいるところでは、決して話すことは出来ません。

2. ファイルについて

- (1) 「2018-学生一覧」に対象学生の一覧があります。個人ファイルはクラス毎になっています。
- (2) 学生により、ファイルが 1 つの場合と 2 つの場合があります。
・「個別の配慮が必要な学生について」は全員あります。「授業等におけるお願い」を実施して下さい。
・「学生支援報告書」が付随している学生は「次年度の方針」を実施して下さい。
・保護者が書いたより詳しい依頼内容のページを追加している場合があります。
- (3) 「平成 30 年度健康管理調査(1 年生)」は 1 年生のアレルギー等の情報です。

3. その他

- (1) 配慮を要する学生についての相談窓口はサポートルーム（保健室の隣）です。山方さんが常駐しています。不在の場合な保健室・宮崎さんにお知らせください。
- (2) 担任の先生には後日、内容を確認したこと、2 (2) の実施状況の報告、4 月からの学生の様子、を提出して頂きます。時期が来たら連絡します。

(出典 web サイト 内部向けホームページ)

資料 7-1-④-5

「個別に配慮を必要とする学生について」

(略)

3. 個別に配慮を必要とする学生について

澤柳学生相談室副室長から、資料 3 に基づき資料取り扱いの注意事項等について説明があった。

引き続き、松崎学生相談室長から個別な配慮が必要な学生に関する説明があった。

(略)

(出典 平成 30 年度 4 月教員会議議事録)

(分析結果とその根拠理由)

留学生については、担任が留学生指導教員となるとともに、チュータを置いて支援している。編入学初年度である第 3 学年においては、留学生特別時間割を作成し、個々の留学生に応じた教育を行っている。

4 年次編入学生については、特に高校との学習内容が異なる数学について教育課程を組み替え、卒業までに必要な数学力を育成できるよう工夫している。

障害のある学生への支援として、本校は障害学生支援委員会を置き、保健室、学生相談室と連携しながら対応している。

これらのことから、特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されている。また、必要に応じて学習支援が行われている。

観点 7-1-⑤： 学生の部活動，サークル活動，自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され，適切な責任体制の下に機能しているか。

(観点に係る状況)

本校では、部（および同好会）活動、学生会活動等の課外活動に対する支援は学生委員会が中心となって行っている。部活動に対する学校の支援は、「原則として全教員が部活顧問となる」と規則に定め、校長の命令により、部活顧問を配置している（資料 7-1-⑤-1, 2）。年に数回のクラブ顧問会議が開催され、部活動に関する種々の問題について議論している（資料 7-1-⑤-3）。宿泊を伴う大会参加には後援会規則に基づく遠征費補助があり、施設使用料に対しても援助している（資料 7-1-⑤-4）。

学生会活動は学生主事補が指導の中心となって学生主事の下で活動することとしている（資料 7-1-⑤-5）。校内に学生会室を用意し、学生会役員が中心となって活動して

いる（資料 7-1-⑤-6）。高専祭，校内体育大会などの学生会行事は，学生会予算により行われている。平成 23 年度からは，部活動予算に関するヒアリングを学生会が実施し，予算配分を決定している（資料 7-1-⑤-7）。

資料 7-1-⑤-1

「課外活動指導に関する申し合わせ事項」(抜粋)

課外活動指導に関する申し合わせ事項

昭和55年3月19日 教官会議了承
 平成4年6月22日 教官会議一部改正
 平成11年12月2日 学生委員会一部改正
 平成13年3月5日 学生委員会一部改正
 平成17年6月7日 学生委員会一部改正
 平成19年1月10日 学生委員会一部改正
 平成23年1月27日 学生委員会一部改正
 平成26年2月6日 学生委員会一部改正
 平成26年3月5日 学生委員会一部改正
 平成29年3月2日 学生委員会一部改正

I. 課外活動に関する基本的考え方

課外活動は究極として自己の人間形成に資すべきもの、またそうでなければならない。

異なる環境に育ち異なる考え方を持つ者同士が、同じ目標に向かって活動する中で心身は鍛錬され集団意識は涵養され、正課教育では求められない人間形成の場が開けていく。以上の基本的認識から課外活動も重要な教育活動の一環と考えるが、これは、正課教育に支障のない範囲にとどめるべきであり、そのための十分な配慮・指導が必要である。

実施に際しては、学生の自主的、自発的活動を主体に学校が指導、援助する。

II. クラブ顧問の指導体制

1. 顧問の選任について

- (1) クラブの顧問は60歳未満の全教員で当たることとする(60歳以上の教員が自ら望んだ場合はその限りではない。)
- (2) 各クラブの顧問には原則として3名程度の教員が付き、互選により代表顧問を決める。
- (3) 顧問の任期は原則として3年間とし、3年ごとに全体の見直しをかける。
- (4) 顧問の決定については、あらかじめ全教員に第1～第3までの希望調査を行うとともに、学生からの要望を勘案し、それらに基づいて学生主事が調整する。
- (5) 顧問の任命は、学生主事の上申した最終調整案に対する校長の決裁によりなされる。顧問名簿一覧表は、3月教員会議に提示される。
- (6) 新たに設立した同好会については、学生主事が調整する。
- (7) 新規採用の教員については、その都度学生主事が調整する。

2. 指導内容、範囲について

- (1) 顧問は、クラブ活動のスケジュールの把握、事故防止などについての一般的な指導を行う。
 - (2) 随時の見回り指導。
 - (3) 対外試合における引率。
- ※ 技術指導を義務づけるものではない。

(出典 学生委員会申し合わせ類集 平成29年3月編集 p.17)

資料 7-1-⑤-2

「平成 30 年度 クラブ顧問名簿」

平成 30 年度 学生会・クラブ顧問名簿

平成 31 年 2 月 25 日現在

◎ 学生会関係

委員会・クラブ名	顧問
評議委員会	梅津裕志 山形文彦 鈴木未火
執行委員会	
監査委員会	
選挙管理委員会	
行事委員会	
会計委員会	* (小田島本有)
新聞委員会 (活動休止)	

◎ 文化系クラブ

アマチュア音楽部	* 佐川正人
科学ボランティア部	* 渡辺博博 * 小久保慶一
軽音楽部	* 坂口直志 * 中島陽子
茶道部	* 大槻香子 C (濱田聖子) C (鈴木清典)
写真部	* 片岡務
吹奏楽部	* 松田悠一 * 鈴木未火 * 山田真哉
美術部	* 西澤岳夫 C (斎藤義信)

◎ 同好会

総合デザイン研究会	* 西澤岳夫 * 千葉忠弘
プログラミング研究会	* 天元 宏 * 千田和範
ロボット研究会	* 渡辺 聡 * 谷 貴哉 電気工学分野新任教員
アコースティックギター同好会	* 松崎俊明
宇宙科学技術研究会	* 小松正明 * 佐川正人
園芸同好会	* 海原博文
小倉百人一首愛好会	* 小田島本有
基礎スキー同好会	* 坂口直志
弓道同好会	* 片岡務
ゲーム開発研究会	* 渡辺 聡
社交ダンス同好会	* 天元 宏
将棋同好会	* 斎藤 勇
ジョギング同好会	* 戸谷伸之
書道同好会	* 松下直志 * 大槻香子
ダンス同好会	* 宮毛明子
D T M 同好会	* (大前浩斗)
ドイツ語研究会	* 木村雄明 * 藤本一可 * 細見佳子
T O E I C 同好会	* 山田真哉
文芸同好会	* 小田島本有
ポディービルディング同好会	* 梅津裕志
レゴブロック創造研究会	* 渡辺 聡
数学研究会	* 小谷孝介
トランポリン同好会	* 大槻 行
軟道同好会	* 小杉 博
ロケットランチャープロジェクト同好会	* 斎藤 剛 * 小杉 博
スポーツ同好会	* 谷 貴哉
水泳同好会	* 加藤 裕人
クイズ同好会	* 中島陽子

◎ 体育系クラブ

委員会・クラブ名	顧問
上 部	* 林 幸和 * 梅津裕志 * 戸谷伸之 * 中島陽子
	* 大槻 行 * 小久保慶一 (大前浩斗) C (斎藤 剛)
	* 斎藤 剛 * 松崎俊明 * 宮毛明子 C (長崎 野)
男子バスケットボール部	* 三島 利紀 * 加藤 裕人 * 本田 正
女子バスケットボール部	* 三島 利紀 * 大槻 香子 * 関根 幸次
男子バレーボール部	* 渡辺博博 * 加藤 雄也 * 斎藤 勇 * 村上公一
女子バレーボール部	* 小杉 博 * 斎藤 剛 * 坂口 直志 * 橋口 康
卓 球 部	* 鈴木 俊哉 * 沼田 教 * 渡邊 聡可
柔 道 部	* 山形文彦 * 佐藤 博 * 山崎 博
剣 道 部	* 藤岡 王樹 * 小谷 孝介 * 千葉 忠弘 * 渡辺 匡俊 * 藤下 裕志 * グエンタンソン
バドミントン部	* 佐藤 英樹
ア ー テ ュ リ ー 部	* 佐川 正人 * 佐々木 教
テニス部	* 松本和輝 * 佐藤 彰治 * 松林 道輝
フットボール部	* 三島 聡可 * 川村 博希 * 坂口 直志 * 藤田 貴孝
ハンドボール部	* 鈴木 邦康 * 片岡 務 * 本間 宏利 * 斎藤 聡
空 手 道 部	* 渡水 仁 * 柳川 和徳
アイスホッケー部	* 本間 宏利 * 東原 裕平 * 藤田 貴孝
自 転 車 部	* 林 裕樹 * 上江田 誠枝 * 大貫 和永

*印は、代表顧問
Cは、外郭コーチ (課外活動指導員)

(出典 学生支援係 内部向けホームページ)

資料 7 - 1 - ⑤ - 3

「クラブ顧問会議 開催通知」

差出人 学生支援係★

件名 [Tstaff:22314] 第2回クラブ顧問会議の開催について

宛先 '教員メーリングリスト' <tstaff@gcc.kushiro-ct.ac.jp>★

Cc 学生支援係★

クラブ顧問各位

学生主事

第2回クラブ顧問会議を下記のとおり開催します。

各クラブ1名以上は出席いただけますよう、

よろしくお願いいたします。

記

日時：平成31年2月26日（火）16時40分から

場所：会議室

（出典 学生主事からの教員メーリングリストへの投稿）

資料 7-1-⑤-4

「遠征費・学会参加費請求書」(抜粋)

遠 征 費 ・ 学 会 参 加 費 請 求 書

平成 年 月 日

釧路工業高等専門学校後援会長 殿

請求者氏名(指導教員) _____ 印

遠征(学会参加)を下記のとおり実施します(しました)ので請求いたします。(概算・精算)

日 程	遠征先(市町村)	遠 征 内 容(大会名等)	参加人数
月 日() ~ 月 日()			学生 人 教員 人

* 1人分の遠征費・学会参加費(裏面に内訳を記入してください。)

1. 交 通 費	2. 宿 泊 費	3. 食 費	合 計
円	円	円	円

* 補 助 (A)

<input type="checkbox"/> 道 内	合計金額	円 × 0.3 ×	人 =	円
<input type="checkbox"/> 道 外	合計金額	円 × 0.4 ×	人 =	円

概算請求の場合には必ず補助額の精算を行ってください。

* 精算方法(遠征費・学会参加費請求書は写しを取っておき、精算結果を記載する。なお、金額に変更があった場合は内訳(裏面)を朱書き訂正で示すこと。)

1. 交 通 費	2. 宿 泊 費	3. 食 費	合 計

* 補 助 (B)

<input type="checkbox"/> 道 内	合計金額	円 × 0.3 ×	人 =	円
<input type="checkbox"/> 道 外	合計金額	円 × 0.4 ×	人 =	円

精算額(差額(A)-(B))	(A)	円 - (B)	円 =	円
----------------	-----	---------	-----	---

平成 年 月 日 上記のとおり精算します。

精算報告者(指導教員) _____ 印

- ※提出先 学生支援係
- ※支給予定 請求書提出の1週間後
- ※添付書類 航空機の請求書(領収書及び搭乗半券)、宿泊費の請求書(領収書)、借上げバスの請求書(領収書)等
- ※支給方法 請求者の銀行口座へ入金

〈裏面に内訳の記入欄があります。〉

(出典 web サイト 内部向けホームページ)

資料 7-1-⑤-5

「学生主事補の業務分担」 (抜粋)

平成 30 年度 の 活 動 方 針

快適な環境下で学生生活を送ることができるように注意を払い指導する。

1. いじめの撲滅

SNS を介したネットいじめの発生がないかなど、いじめに関するアンケート調査を継続実施し、指導にあたる。

2. ネットトラブルの予防

SNS の利用マナーの向上によって LINE、twitter 等への不適切な投稿を予防する。

3. 校内美化の向上

教室内の清掃及び整理整頓を行うことによって学習環境を整える。

例) 黒板の清掃、机の中の整理整頓、ロッカーの上部をスッキリさせるなど
学生が主体的かつ自主的に取り組めるよう学級担任を中心にご指導いただきたい。

4. 校内の防犯意識の向上

教室内への貴重品の放置防止等の啓発活動を継続する。

5. 学生のモラル向上

公共道徳心を身に付けるなど、高専生の品格を向上させる。

例) 公共交通機関の利用マナー、様々な弱者への配慮など

学生主事補の主たる業務分担

山形 …… 集会指導、自転車・自動車指導、校内の巡回、合宿指導
高校教育研究会生徒指導部会との連携

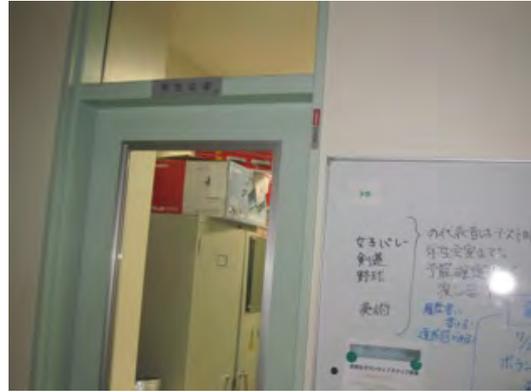
梅津 …… 学生会会計

鈴木末 …… 学生会行事

(出典 平成 30 年度 4 月学生委員会資料 1)

資料7-1-⑤-6

「学生会室 写真」



(出典 総務課作成資料)

資料 7-1-⑤-7

「学生会予算 ヒアリング事前調査」

釧路高専学生会 予算ヒアリング調査(1)

クラブ活動 ヒアリング事前調査票

クラブ名 _____

代表学生 _____ 学年 _____ 学科・組 _____

学生氏名 _____

電話番号 _____ - _____ - _____

● ヒアリング希望日

第1希望 _____月_____日_____時_____分～

第2希望 _____月_____日_____時_____分～

第3希望 _____月_____日_____時_____分～

日程は4月25日(月), 26日(火), 27日(水), 28日(木)の4日間の中から, 時間帯は①16:40, ②16:55, ③17:10, ④17:25, ⑤17:40, ⑥17:55のいずれかをお選びください。

● クラブ活動状況について(実状調査)

※ 部費の徴収額 _____円(年額)

※ 活動中の部員数 _____人

(うち, 5年_____人, 4年_____人, 3年_____人, 2年_____人)

* 年間の練習試合 釧路市内_____回, 釧路市外_____回

* 大会への参加 _____回(昨年度の実績)

(出典 学生会作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、部活動、学生会活動等の課外活動に対する支援は学生委員会が中心となって行っている。部活動に対する学校の支援は、「原則として全教員が部活顧問となる」と規則に定め、校長の命令により、部活顧問を配置している。

学生会活動は学生主事補が指導の中心となって活動することとしている。校内に学生会室を用意し、学生会役員が中心となって活動している。高専祭、校内体育大会などの学生会行事は、学生会予算により行われている。

これらのことから、学生の部活動、サークル活動、自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制の下に機能している。

観点 7-2-①： 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

準学士課程の学生に対しては、クラス担任(3学年まではさらに副担任)が配置され、学生の指導・相談・助言体制をとっている(資料7-2-①-1)。3学年までのクラス担任は、朝のSHRにおいて学生の登校状況・健康状態等を確認し、またLHRを通じてクラス運営を行っている(資料7-2-①-2)。年間数回の個人面談を行い、学生の状況把握、必要に応じての相談・指導を行っている(資料7-2-①-3)。専攻科課程の学生については、専攻科長、専攻長、および指導教員が分担して学生の指導・相談・助言にあたる(資料7-2-①-4)。学生課学生支援係は奨学金、授業料免除などの相談を受け付ける。担任を通じて連絡するほか、各教室に掲示して制度や申込期限について学生に周知している(資料7-2-①-5, 6)。学生課修学支援係は履修等の相談にあたる。学生寮においては、寮務主事・主事補、寮務委員会が中心となって、寮生活全般に関する指導・相談・助言を行う体制がある(資料7-2-①-7)。また、当直教員も学習・生活面での相談に応じる体制となっている(資料7-2-①-8)。

心身の健康についての相談体制として保健室および学生相談室がある。保健室わきにはサポートルームを備え、他の来室者から離れて相談できる環境がある(資料7-2-①-9)。学生相談室では「相談室のしおり」の配布、新入生へのガイダンスなどで学生にPRし、来室者にわかりやすいよう看板を設置している(資料7-2-①-10~12)。また、外部カウンセラーも配置し、より適切な対応を可能とする体制をとっている(資料7-2-①-13, 14)。

各種ハラスメントに対しては相談委員会が相談を受け、問題に対処できる体制を整えている(資料7-2-①-15)。

資料 7 - 2 - ① - 1

「平成 30 年度校務分掌」 (抜粋)

◎学級担任及び学年主任

1年	1 組	加藤 岳人
	2 組	林 幸利
	3 組	○ 三島 利紀
	4 組	笹岡 正樹
2年	情報工学分野	中島 陽子
	機械工学分野	渡邊 聖司
	電気工学分野	千田 和範
	電子工学分野	○ 松本 和健
	建築学分野	大槻 香子
3年	情報工学分野	本間 宏利
	機械工学分野	前田 貴章
	電気工学分野	佐藤英樹
	電子工学分野	渡邊 駿
	建築学分野	○ 加藤 雅也
4年	機械工学科	関根 孝次
	電気工学科	鈴木 俊哉
	電子工学科	戸谷 伸之
	情報工学科	○ 高橋 晃
	建築学科	西澤 岳夫
5年	機械工学科	小杉 淳
	電気工学科	佐川 正人
	電子工学科	坂口 直志
	情報工学科	林 裕樹
	建築学科	○ 千葉 忠弘

○印は学年主任

◎学級副担任

1年	1 組	佐藤 潤
	2 組	浅水 仁
	3 組	土江田 織枝
	4 組	鈴木 邦康
2年	情報工学分野	谷 堯尚
	機械工学分野	樋口 泉
	電気工学分野	小谷 泰介
	電子工学分野	細見 佳子
	建築学分野	村上 公一
3年	情報工学分野	大槻 典行
	機械工学分野	グエン タン ソン
	電気工学分野	佐々木 敦
	電子工学分野	山田 昌尚
	建築学分野	松林 道雄

(出典 本校校務分掌)

資料 7 - 2 - ① - 2

「平成 30 年度 前期時間割」 (抜粋)

		月								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9
1 学 年	1	物理		現代社会B	現代社会A		数学A		HR	オフィスアワー (8hのみ) 特進数学補習 岡 ラボE
		松崎		山内	細見		山崎		加藤岳	
	2	現代社会B	現代社会A		国語		化学		HR	
		山内	細見		館下		新人		林幸	
	3	現代社会A	現代社会B		英語		数学A		HR	
		細見	山内		林幸		村上		三島	
	4	倫理社会			数学B		情報リテラシー		HR	
							プログラミング演習室2			
		藤本			小谷		林裕・鈴木未・谷		館岡	

時限表

SHR	8:50	—	9:00
1	9:00	—	9:45
2	9:50	—	10:35
3	10:45	—	11:30
4	11:35	—	12:20
昼休み	12:20	—	13:10
5	13:10	—	13:55
6	14:00	—	14:45
7	14:50	—	15:35
8	15:40	—	16:25
9	16:30	—	17:15

(出典 学生課作成資料)

「クラス担任による個人面談」 (抜粋)

2 日常の指導

クラスの日常の指導は、学級担任の一番大事な役割と言える。高専の場合、中学・高校と違い、日常の学生把握、学生理解が得にくい状況にあると思われるが、SHR等を活用して日常出来るだけ学生に接し、理解を深め、早期に指導していくことは大事なことである。

2.1 学生理解

(1) 資料によるもの

- ・ プライバシーに配慮して取扱いには十分注意する。

(a) 学生カード (写) ・ ・ ・ 入学時に記入のもの

住所、家族構成など

(b) 指導要録 ・ ・ ・ ・ ・ 4月に新担任へ配布する。

過去の素行、病歴、前年度までの担任所見など

(3月末日までに記入の上修学支援係へ提出)

(c) 中学校の調査書 ・ ・ ・ 新入生の場合(1年学級担任のみ)

(2) 個人面談によるもの

(a) 面談の方法

① 全員を対象とするもの

実施の回数と時期:

- ・ 年2~3回実施する例が多い。
- ・ 時期は定期試験の前後 (1学年は分野選択関係)、保護者懇談会の前等
- ・ LHRの後半を個人面談に利用する例も多い。

確認事項:

- A. 家庭状況の異動について(家族や氏名など)
- B. 健康状態(欠課に関係するので注意)
- C. 交友関係(学級内のグループ、校外、いじめ等の把握)
- D. 部活動
- E. 生活状況(起床、就寝、趣味、余暇の利用法等)
- F. 学習状況(得意・不得意科目、学習法の助言)
- G. 進路、分野選択関係 (1学年)
- H. その他気になる点

② 特定の学生を対象とするもの

問題行動があったり、なんとなく気になる場合、早めの対処が必要。問題行動として、遅刻・欠課過多、授業態度不良、異常な言動など。

(b) 個人面談実施上の留意点

① 緊張感を持たせて実施するのか、ざっくばらんに話をするのか意識しておきたい。

(生の声を聞くためには大切)

② 全員を対象とする場合、かなりの時間と労力を必要とするので余裕をもって実施したい。

③ 実施直後に個人ファイルを作っておくと、保護者懇談会、成績通知書・指導要録の記入の際に便利である。

(出典 学級担任の手引き 平成 30 年 4 月)

資料 7 - 2 - ① - 4

「平成 24 年度専攻科学生名簿及び指導教員一覧」 (抜粋)

平成30年度 専攻科学生名簿及び指導教員一覧

(第1学年)				(第2学年)			
学生番号	専攻	氏 名	指導教員名	学生番号	専攻	氏 名	指導教員名
1806	K		加藤雅	1706	K		栗原
1806	K		大槻香・栗原	1706	K		千葉
1806	K		樋口	1707	S		高
1806	K		前田	1707	S		本間
1806	K		千葉	1707	S		大前
1807	S		高	1707	S		高
1807	S		松本	1707	S		大前
1807	S		山形	1707	S		高
1807	S		坂口・大前	1707	S		天元・鈴木(未)
1807	S		戸谷	1707	S		渡邊(駿)
1807	S		天元	1707	S		坂口・松本
1807	S		中村	1707	S		松本
1807	S		渡邊	1707	S		中村
1807	S		林	1707	S		渡邊(駿)
1807	S		山田	1707	S		渡邊(駿)
1807	S		天元・鈴木(未)	1707	S		中村
1807	S		大前	1707	S		高
1807	S		浅水	1707	S		松本
1807	S		高	1407	S		松本
1807	S		天元				
1807	S		高木				
1807	S		山形				
1807	S		中村				

(出典 学生課作成資料)

資料 7 - 2 - ① - 5

「平成 30 年度後期授業料免除についての掲示」 (抜粋)

平成 30 年 9 月

学生 各位

校 長

平成 30 年度後期授業料免除等について

このことについて、下記対象者に授業料免除等を実施しますので、希望者は学生課学生支援係で手続きを行ってください。

記

後期授業料免除

1. 対象者

◆本校に在学する 4 年生以上（専攻科含む）の学生で以下に該当する者。

- ①経済的理由により納付が困難であり、かつ学業優秀【前期末成績がクラスの上位 2 / 3 以上】と認められる者。
- ②授業料納期前 6 月以内に学資負担者が死亡し、又は学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付が著しく困難であると認められる場合。
- ③その他やむを得ない事情があると認められる場合。

◆本校に在学する 1 ～ 3 年生の学生で以下に該当する者。

- ①「高等学校等就学支援金」制度で授業料の全額が支援されない者で、授業料納期前 6 月以内において、学資負担者が死亡し、又は学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた者。
- ②「高等学校等就学支援金」制度の 3 6 月の支給上限期間を超えたため、当該制度では就学支援されない 3 年生以下の学生で、経済的理由により納付が困難であり、かつ学業優秀【前期末成績がクラスの上位 2 / 3 以上】で、授業料免除の基準を満たす者。

◆学資負担者が、経済状況の悪化を原因として、経営又は勤務する会社の倒産、勤務先からの解雇等により失職し、その後も再就職していない者。

2. 申請書類提出期限 **平成 30 年 9 月 21 日（金）**

※前・後期分一括で前期に申請した場合は、後期の申請書類の提出は不要。

3. 免除額 平成 30 年度後期分授業料の全額又は半額。

月割分納

1. 対象者

本校に在学する 4 年生以上（専攻科含む）の学生及び「高等学校等就学支援金」制度の 3 6 月の支給上限期間を超えたため、当該制度では就学支援されない 3 年生以下の学生で以下に該当し、月割分納を希望する者。

- ①経済的理由により一括納付が困難であると認められる者。
- ②授業料納期前 6 月以内に学資負担者が死亡し、又は学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付が著しく困難であると認められる場合。
- ③その他やむを得ない事情があると認められる場合。

2. 分納回数

【後期申請】 1 0 月分・1 1 月分、1 2 月分、1 月分、2 ・3 月分 の 4 回分納となる。

3. 申請書類提出期限 **平成 30 年 9 月 21 日（金）**

※前・後期分一括で前期に申請した場合は、後期の申請書類の提出は不要。

申請書類請求先及び提出先

学生課学生支援係

提出期限は必ず守ってください。

(出典 学生課作成資料)

資料 7 - 2 - ① - 6

「平成 30 年度日本学生支援機構奨学金の揭示」 (抜粋)

日本学生支援機構奨学金の募集について

以下のとおり日本学生支援機構奨学金を募集しますので、希望者は学生課学生支援係まで申し出てください。

1. 奨学金の種類

- (1) 第 1 種 無利息で貸与します。
卒業後、最長 20 年間をかけて返済してもらいます。

学年	貸与月額 (自宅通学生)	貸与月額 (自宅外通学生)
1～3 学年	10,000 円 又は 21,000 円 から選択	10,000 円 又は 22,500 円 から選択
4～5 学年及び 専攻科生	20,000 円 , 30,000 円 , 45,000 円 から選択	20,000 円 , 30,000 円 , 40,000 円 , 51,000 円 から選択

- (2) 第 2 種 返還時に上限年 3.0%の利息が付きます。
卒業後、最長 20 年間をかけて返済してもらいます。
対象学年：第 4 学年以上
貸与月額：30,000 円・50,000 円・80,000 円・100,000 円・120,000 円
から選択することができます。

- (3) 緊急採用 (第 1 種)、応急採用 (第 2 種)
1 年以内に家計が急変した者を対象とします。(最長 2 年度)
詳細については、学生支援係にお問い合わせください。

2. 受付期間 (パンフレットを配布できる期間)

第 1～5 学年・専攻科生 平成 30 年 4 月 13 日 (金) まで

3. 申請書類提出期限

第 1～5 学年・専攻科生 平成 30 年 4 月 20 日 (金) まで

4. 採用条件

家計基準：日本学生支援機構の定める家計基準に合致すること。
学力基準 (第 1 種)：第 1 学年は中学校最終学年の成績評定平均値が 3.5 以上
第 2 学年以上は前学年末試験のクラス順位が上位 3 分の 2 以内
(第 2 種も 1 種に準じます。)
編入学生及び専攻科生は前学校での成績評定平均値が 3.5 以上
(第 2 種は 3.2 以上)

5. 手続き場所

学生課学生支援係 TEL:0154-57-7224

(出典 学生課作成資料)

資料 7 - 2 - ① - 7

「釧路工業高等専門学校寮務委員会規則」 (抜粋)

(審議事項)

第 2 条 委員会において審議する事項は、次のとおりとする。

- 一 寮生の補導に関する事項
- 二 寮生の福利厚生に関する事項
- 三 その他学寮に関する重要事項

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 寮務主事及び寮務主事補
- 二 学生主事
- 三 学級担任から各学年毎に 1 名
- 四 一般教育部門文系教員及び理系教員から各 1 名 (ただし、前号の規定により選出された者の所属する系を除く。)
- 五 分野から各 1 名 (ただし、第三号の規定により選出された者の所属する分野を除く。)
- 六 学生課長
- 七 校長が必要と認めた者若干名

(出典 釧路高専規則)

資料 7 - 2 - ① - 8

「釧路工業高等専門学校学生寮教員宿日直規則」 (抜粋)

(職務内容)

第 5 条 学生寮における宿日直の職務内容は、教員規則第 3 条第 1 項に定めるほか、次のとおりとする。

一 寮生の生活指導に関すること。

ア 「寄宿舍管理規則」、「寮生心得」及び「日課表」に基づく指導、助言

イ 個人的相談に対する助言

二 寮生の健康管理に関すること。

ア 医薬品の管理

イ 急患の処置

三 寮生の学習その他の相談に関すること。

四 寮生の保護、安全に関すること。

ア 秩序の維持

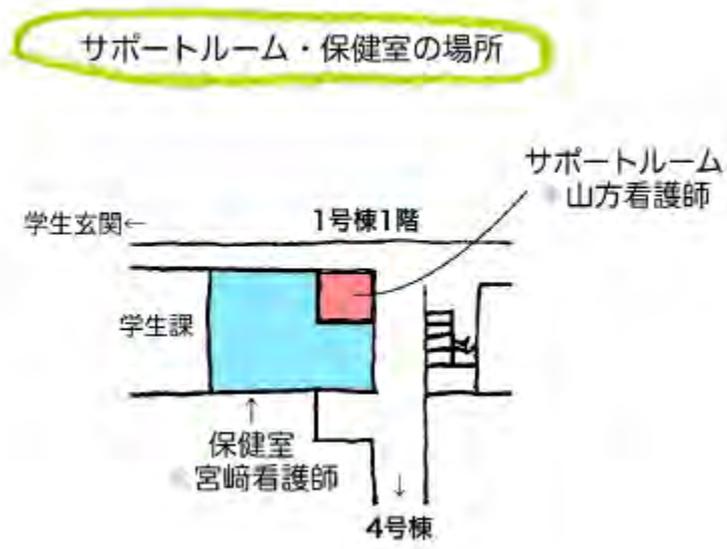
イ 戸締まり、火気取扱いについての指導

ウ 災害時の処置

(出典 釧路高専規則)

資料7-2-①-9

「保健室横のサポートルーム」 (抜粋)



(出典 学生相談室のしおり 2018)

資料 7 - 2 - ① - 1 0

「学生相談室のしおり 2018」 (抜粋)

学生相談室のしおり 2018



★ 釧路工業高等専門学校
National Institute of Technology, Kushiro College
学生相談室

<https://www.kushiro-ct.ac.jp/soudan/>

(出典 学生相談室のしおり 2018)

資料 7 - 2 - ① - 1 1

「学生相談室ガイダンス 配布資料」 (抜粋)



(出典 学生相談室ガイダンス配布資料)

資料 7 - 2 - ① - 1 2

「相談室看板」 (抜粋)



(出典 総務課作成資料)

「学生相談室のスタッフ」 (抜粋)

相談室のスタッフ

*室長

松崎 俊明 (一般物理)
tmat@ippan.kushiro-ct.ac.jp

*心理カウンセラー

禿 かむろ 美津 (非常勤)
中谷内 由美 (非常勤)

*室員

澤柳 博文 (一般数学)
sawa@ippan.kushiro-ct.ac.jp

小谷 泰介 (一般数学)
kotani@ippan.kushiro-ct.ac.jp

館岡 正樹 (一般体育)
tateoka@ippan.kushiro-ct.ac.jp

鈴木 未央 (情報)
mio@kushiro-ct.ac.jp

前田 貴章 (機械)
t-maeda@mech.kushiro-ct.ac.jp

千田 和範 (電気)
chida@elec.kushiro-ct.ac.jp

松本 和健 (電子)
k_matsumoto@kushiro-ct.ac.jp

西澤 岳夫 (建築)
nisizawa@archi.kushiro-ct.ac.jp

栞原 浩平 (建築)
kuwabara@archi.kushiro-ct.ac.jp

山方 昌子 (看護師)
yamagata@office.kushiro-ct.ac.jp

宮崎 智美 (看護師)
miyazaki@kushiro-ct.ac.jp

(出典 学生相談室のしおり 2018)

「学生相談室カウンセラー」 (抜粋)

カウンセラー プロフィール

* 禿 美津

北海道大学心理学科卒業。
静岡大学学生相談室、神奈川県障害者更生相談所、
厚木児童相談所、釧路市療育相談室を経て、
本校カウンセラーを20年間担当。

* 中谷内 由美

北海道教育大学旭川校卒業。
AIU/カリフォルニア臨床心理大学院日本校修士課程修了
(米国臨床心理学修士)。
アタッチメント・サポート(心理セラピスト)開業。
2017年度より本校のカウンセリング担当。

(出典 学生相談室のしおり 2018)

資料 7 - 2 - ① - 1 5

「相談員会議」 (抜粋)

◎相談員会議

総括相談員	千葉 忠弘
相談員	鈴木 俊哉
相談員	土江田 織枝
相談員	高坂 宜宏
相談員	石井 ゆかり
相談員	神 智行

(出典 本校平成 30 年度校務分掌)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程の学生に対しては、クラス担任(3学年まではさらに副担任)が配置され、学生の指導・相談・助言体制をとっている。専攻科課程の学生については、専攻科長、専攻長、および指導教員が分担して学生の指導・相談・助言にあたる。

学生課において奨学金、授業料免除、履修等の相談を受け付ける。

心身の健康についての相談体制として保健室および学生相談室がある。保健室わきにはミーティングルームを備え、他の来室者から離れて相談できる環境がある。

各種ハラスメントに対しては、相談員が対応して、問題に対処できる体制を整えている。

これらのことから、学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能している。

観点 7-2-②： 特別な支援が必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて生活支援等が行われているか。

(観点に係る状況)

入学決定後に、釧路市内及び帯広、札幌地区の中学校を教員およびコーディネータが訪問し、新入学生の状況について中学校からの引き継ぎを行っている(資料7-2-②-1)。また、平成28年2月に障害学生支援委員会が設置され支援対象学生毎にサポートチームを設置し障害学生の支援を個々に行なっている。(資料7-2-②-2)

留学生については、3・4学年においてはチュータを置き、日常生活・学業における学生同士の相談体制を作っている(資料7-2-②-3)。また、3学年において日本語教育や専門科目の個人指導を入れ、日本での学生生活に支障がないよう配慮している(資料7-2-④-4)。

資料 7 - 2 - ② - 1

資料 4
入試委員会
H30.2.26

入学前の中学校訪問要領（案）

- 1 対応してもらう相手方
校長・教頭ではなく、3年担任、進路指導教諭など、直接生徒と接触している先生をお願いする。
- 2 注意事項
 - ・先方の都合に合わせる。
 - ・「釧路高専における学生指導に役立てたいだけで、絶対に外には出さないし、これによって合格が覆ることはない。また、来年度の入試に影響することもない。」旨を冒頭で説明する。
- 3 事前の参考情報（学生課で用意し、訪問担当者に配付。事後回収する）
 - ・中学校ごとの入学者名簿（氏名入り、学力合格者は入試成績）
 - ・調査書（写）
- 4 訪問時に話し合う事項
 - 【観点1】 問題行動
加害・被害どちらも考えられる。いじめ、けんか等も含め、高専における指導の参考となる事項を教えてもらう。
 - 【観点2】 家庭状況
中学校における保護者懇談会や家庭訪問などで得ている情報から気になる点を教えてもらう。
 - 【観点3】 人間関係
同一中学校から複数の入学者がある場合、入学者同士の中学校における人間関係について教えてもらう。特に、複数の女子生徒が入学する場合には、注意を要する。
- 5 実施時期
3月19日（月）～23日（金）の期間で実施し、訪問結果については学生指導の参考とする。
特に指導上の問題がある場合には、担任会議、学生相談室、学生支援コーディネータと連携する。
新年度の担任会議や教員会議で共通認識が必要な場合は、コーディネータと相談し、資料を作成する。
- 6 訪問中学校について
 - ・釧路・帯広・札幌市内及び一部の管内中学校を直接訪問する。
7. 訪問（聞き取り）教員について
 - ・釧路は中山コーディネータ及び次年度の1学年主任（都合が付かない場合は、他の1学年級担任）、帯広は佐久間コーディネータ、札幌は横澤コーディネータが行う。
 - ・中学校との日程調整等は各コーディネータが行う。
 - ・入学者確定後、割り振りをを行い連絡する。また、訪問（聞き取り）教員に対して説明会を行う。

（出典 平成 30 年 2 月入学試験委員会資料）

資料 7 - 2 - ② - 2

○釧路工業高等専門学校障害学生支援委員会規則

(平成 28 年 2 月 25 日釧高専達第 11 号)

改正 平成 29 年 3 月 23 日釧高専達第 10 号 平成 29 年 7 月 31 日釧高専達第 2 号

(設置)

第 1 条 釧路工業高等専門学校に、校長の諮問機関として障害学生支援委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(目的)

第 2 条 委員会は、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(平成 25 年法律第 65 号。)及び障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本方針(平成 27 年 2 月 24 日閣議決定。)に基づき、心身の機能に障害のある学生(以下「障害学生」という。)の為に、関係委員会及び関係教職員と連携し、障害学生の修学支援を行うことを目的とする。

(審議事項)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議するほか、支援に必要な業務を行う。

- 一 支援対象学生の決定及び支援方針等に関すること。
- 二 サポートチームの設置及び構成員に関すること。
- 三 サポートチームの業務執行状況の確認に関すること。
- 四 障害学生の支援にかかる研修に関すること。
- 五 その他障害学生の支援に関して必要と認められること。

(組織)

第 4 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 副校長(教務担当)
- 二 副校長(学生担当)
- 三 副校長(寮務担当)
- 四 学生相談室長
- 五 学生支援コーディネーター
- 六 学生課長
- 七 看護師
- 八 その他校長が必要と認めた者

(委員長)

第 5 条 委員会に委員長を置き、副校長(学生担当)をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長は、支援対象学生ごとにサポートチーム構成員を指名する。
- 4 委員長が不在のときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第 6 条 委員会は、委員の 3 分の 2 以上が出席しなければ、議事を開くことができない。

- 2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決する

資料 7-2-②-2 (続き)

ところによる。

(サポートチーム)

第 7 条 サポートチームは、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 支援対象学生、保護者、関係教職員等と協議した支援計画の作成、実施及び記録
- 二 支援対象学生の保護者との連絡、調整及び協力体制の構築
- 三 支援対象学生の修学環境の整備
- 四 その他支援対象学生の支援に必要な業務

2 サポートチームは、前項に定める業務の支援学生等へ与える影響について検証し、必要に応じて業務内容の見直しを行う。

第 8 条 サポートチームは、次の各号に掲げる教職員等の中から委員長が指名する。

- 一 対象学生の学級担任（ただし、支援対象学生が専攻科に所属する場合は専攻科特別研究指導教員）
- 二 学生相談室員
- 三 授業担当教員
- 四 その他委員長が必要と認めた者

第 9 条 サポートチームにリーダーを置き、学生相談室員をもって充てる。

2 リーダーは、サポートチームをまとめチーム構成員から情報を集約し、関係教職員等との連携のもと、支援計画を推進する。

3 リーダーは、必要に応じチームミーティングを適宜開催し、状況に応じてチーム構成員、関係教職員等へ助言・指示を行う。

4 リーダーが、前項に定める指示を行う場合は、必要に応じ委員長、学生相談室長、又は学生支援コーディネーターと協議する。

5 リーダーは、必要に応じ委員長に特別なチームの編成を依頼することができる。

6 リーダーは、支援学生に関する情報を整理し、定期的に委員会に業務執行状況を報告する。

(アドバイザー)

第 10 条 委員会は、必要に応じて、学内外の専門的知識を有する者を、アドバイザーとして置くことができる。

2 アドバイザーは、専門的な見地から、修学支援にかかる助言を行う。

(委員以外の出席)

第 11 条 委員長が必要と認めた時は、委員以外の者を委員会に出席させ、意見を聴くことができる。

(事務)

第 12 条 委員会の事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第 13 条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関する必要な事項は、別に定める。

(出典 釧路高専規定抜粋)

資料 7 - 2 - ② - 3

「釧路工業高等専門学校外国人留学生の特例等に関する規程」 (抜粋)

(留学生相談員)

第 6 条 学校生活及び個人生活について、留学生に対し助言を与えるとともに学習の相談に応ずるため、第 3 学年及び第 4 学年の各留学生に留学生相談員 (以下「チューター」という。) 1 名を置くことができる。

2 チューターは、当該留学生と同学科の学生で、学寮に入寮している者の中から学科長が適任者を校長に推薦し、校長は、国際交流委員会の意見を徴して委嘱する。

3 チューターは、留学生に関し、必要に応じ指導教員に連絡し、又はその指示を受けてその職に当たるものとする。

(出典 釧路高専規程)

資料 7-2-②-4

3月定例教務委員会
H30.3.1
資料6

外国人留学生 第3学年次の教育課程

(電気工学分野)

	科 目 名	留学生	第3学年
一 般 科 目	国 語 (日本語:個人指導)	2	2
	コミュニケーション実践	1	1
	数 学	6	6
	保健体育	2	2
	英 語	4	4
	(選択)英会話(2単位)		
	一般科目単位数計	15	15
専 門 科 目	応用物理 I	2	2
	電気磁気学 I	2	2
	電気回路 II a	2	2
	電気計測	2	2
	電子工学	2	2
	電子計算機 II	2	2
	電気機器 I	2	2
	ロボットシステム入門	2	2
	電気工学実験 II	2	2
	電気回路 I a(2年)	2	2
	専門科目単位数計	20	18
合 計 単 位 数		35	33

(出典 H29 年度 3 月定例教務委員会議事録)

(分析結果とその根拠理由)

入学決定後に、釧路市内及び帯広、札幌地区の中学校を教員およびコーディネータが訪問し、新入学生の状況について中学校からの引き継ぎを行っている。また、障害学生支援委員会では支援対象学生毎にサポートチームを設置し障害学生の支援を個々に行なっている。

留学生については、3・4学年においては、チュータを置き、日常生活・学業における学生同士の相談体制を作っている。

これらのことから、特別な支援が必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて生活支援等が行われている。

観点 7-2-③： 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

(観点に係る状況)

自宅からの通学が困難な学生のために修学の便宜を図り、共同生活を経験する過程において教育目標を達成し、人間形成を助長する場として学生寮（鶴翔寮）が運営されている（資料 7-2-③-1）。

鶴翔寮の「生活のしおり」には教育寮であることが明記され（資料 7-2-③-2）、日課表（資料 7-2-③-3）を示して規則正しい生活を求めている。

学生寮はブロック制が敷かれており寮生の指導は、寮務主事をはじめ寮務委員と各学級担任及び当直教員が行う（資料 7-2-③-4、5）。指導の一環として、教員が随時朝・昼及び夜間巡回を行い、生活指導や健康管理並びに学習相談にあたっており、1学年においては定期的な勉強会が行われている（資料 7-2-③-6）。また男子寮では大小の学習室、女子寮では談話コーナーを設置し、これらに共用製図板を備える等、学生の自主学习での利用に供している（資料 7-2-③-7）。さらに、寮内には学習室の他、居室に LAN が整備され学習に活用されている（資料 7-2-③-8）。

資料 7-2-③-1

「学生寮（鶴翔寮）」 （抜粋）

1 学寮の目的と運営

1 学寮の目的

本校の学寮「鶴翔寮」は、学生かくしょうりょうの修学に便宜を供与し、かつ、共同生活をとおして学生の教養を高め社会の秩序と倫理を重んずる気風を養い、その人間形成を助長して教育目的の達成に資することを目的としています。

（出典 平成 30 年度鶴翔寮のしおり p. 1）

資料 7 - 2 - ③ - 2

「寮生諸君へ」 (抜粋)



寮 生 諸 君 へ

校 長 小 林 幸 夫

高専の学寮は、教育の一環として重要な意義を持っており、単に通学の都合や経済的負担を軽くするというだけで設けられたものではありません。生活指導を行い、教育的配慮のもとに運営される教育施設であり、単なる厚生施設とは違います。学寮は修学のための共同生活の場であって、健康で明るく規則正しい集団生活を通して、教養を高め、共同生活のルールを会得し、身につけることを目的としています。

本校の鶴翔寮は、遠く阿寒の山々を望み、広々とした釧路湿原の静かな一角に位置しており、大空に羽ばたく鶴のように翔ることを願って命名されました。本寮では、1年生から5年生までの入寮希望者を受け入れておりますが、全学年の約5割に当たる約400名の学生が寮生活を送っています。この静かな良き環境の中で、勉学に、運動に、文化活動に励み、強い身体と逞しい精神力を養い、また、他人の立場を理解し尊重しあい、協調の心を育て、沢山の生涯の良き友を得るようにしてください。

本寮では、15歳から20歳までの元気のよい若者が共同生活をしています。各自が規律を重んじ、寄宿舎管理規則や寮生心得を守り、高専生としての自覚と自律の精神をもって、お互いに切磋琢磨し、自己の向上に努めてください。

また、先輩と後輩、同輩間に信頼関係を築くように心掛け、明るく、有意義な寮生活を送るようにしてください。

本寮には、寮生指導の当直教員と警備員がおり、寮生会と協力して寮生の生活を守っています。教員の宿日直は、病気や災害時の保護安全および学習や生活上の相談、助言その他団体生活の側面的援助を目的としていますので、困ったときは当直室を訪ねてください。

鶴翔寮には寮生が不自由なく生活できるように各種設備を整えてあります。学校としては、寮務主事を中心に教職員一体となり、施設や環境の改善に絶えず努力を払っています。快適で楽しい学寮づくりのために、皆さんの積極的な創意と努力を期待しています。

(出典 平成 30 年度鶴翔寮のしおり p. 1)

「日課表」 (抜粋)

2 日課について

日 課 表
Daily Schedule TimeTable

区 分 Classification	平 日 Weekdays	休 日 Holidays
	時 間	時 間
起 床 The Time One Gets Up	7 : 15	7 : 30
朝 食 Breakfast	7 : 30 ~ 8 : 40	7 : 45 ~ 9 : 00
登 校 Going to college	8 : 45 まで	
昼 食 Lunch	12 : 20 ~ 13 : 00	12 : 00 ~ 13 : 00
登 校 Going to college	13 : 05 まで	
入 浴 Having a bath	16 : 30 ~ 21 : 50 (女子) 22 : 30 (男子)	16 : 30 ~ 21 : 50 (女子) 22 : 30 (男子)
夕 食 Dinner	18 : 00 ~ 19 : 30	18 : 00 ~ 19 : 00
研 修 (学習) Study	20 : 00 ~ 22 : 30	
門 限 Curfew	1 ~ 3 年 (女子) 21:00 4 ~ 5 年 (女子) 22:00 1 ~ 3 年 (男子) 22:00 4 ~ 5 年 (男子) 22:30	
点 呼 Roll Call	(女子) 22 : 05 (男子) 22 : 35 (以降、他居室訪問禁止)	
消 灯 Lights Out	23 : 30	
就 寝 The Time One Go to Bed		

- 備考 1. 試験開始前 1 週間及び試験期間中は、消灯の時限を解除する。
2. この日課表は、特別の事情がある場合又は季節により変更することがある。

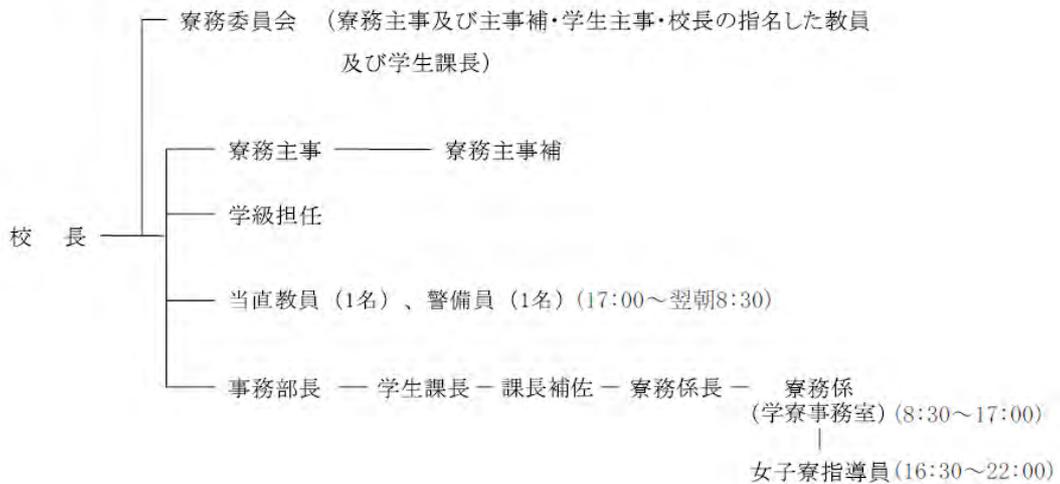
(出典 平成 30 年度鶴翔寮のしおり p. 2)

資料 7 - 2 - ③ - 4

「寮生指導」 (抜粋)

3 学寮の運営と組織

学寮の運営は、寮生の指導は教員（寮務主事、寮務委員、学級担任及び当直教員）が担当し、施設設備の維持管理、寮費及び給食等については学生課寮務係（学寮事務室）が担当しています。夜間・休日には当直教員・警備員が常駐しています。

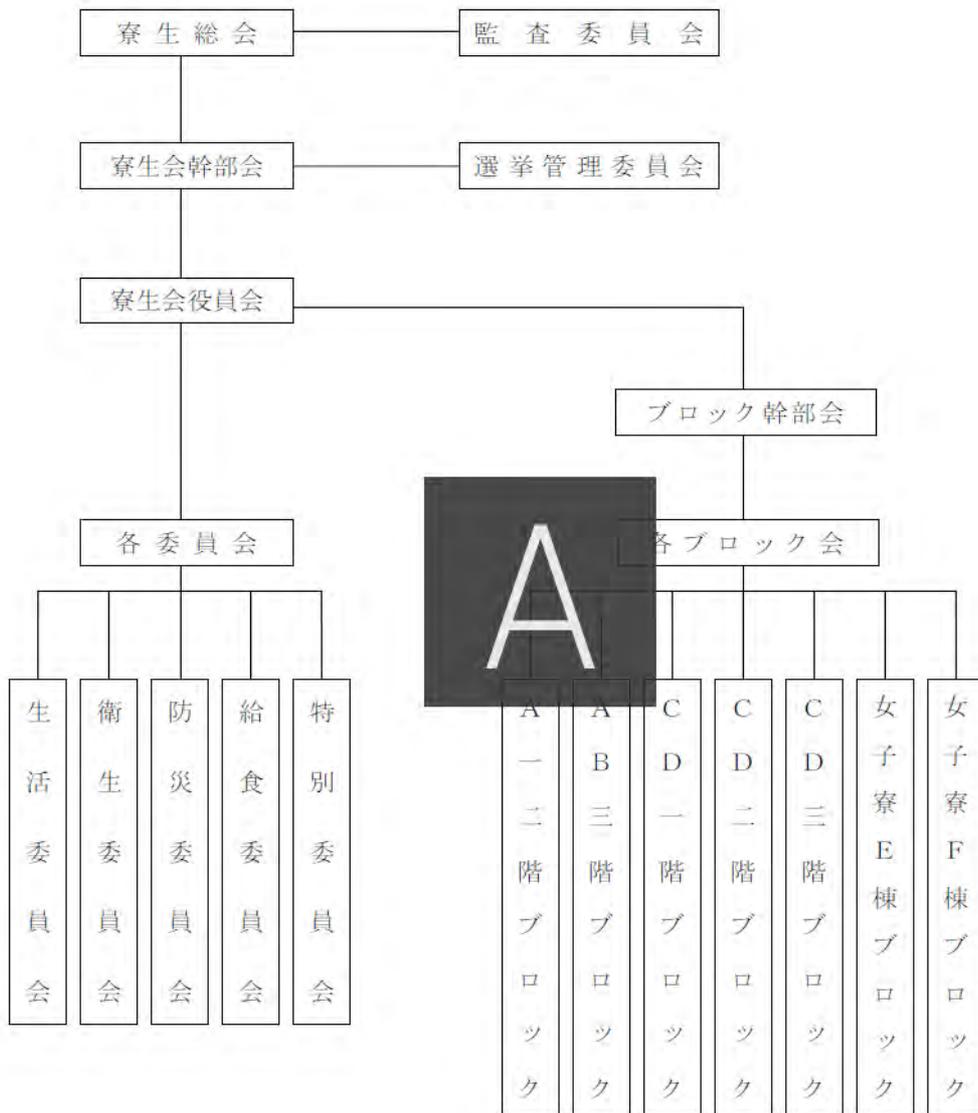


(出典 平成 30 年度鶴翔寮のしおり p. 1)

資料 7-2-③-5

「ブロック制 組織図」 (抜粋)

5 寮生会組織図



(出典 平成 30 年度鶴翔寮のしおり p. 14)

資料 7 - 2 - ③ - 6

「5月行事予定」 (抜粋)

平成30年度(2018年度)
5月行事予定

1	火	寮務委員会 寮生集会	16:40 19:40 第二体育館
2	水		
3	木	(憲法記念日) 閉寮日 留学生在寮ガイダンス 閉寮点検	12:30 多目的室 13:00
4	金	(みどりの日)	
5	土	(こどもの日)	
6	日		
7	月	臨時休講(4/30振替) 閉寮日	
8	火		
9	水	女子春季レク	19:40 第二体育館
10	木	1学年学習会 寮生会役員会(清掃,夏祭,総会)	19:40 食堂 19:40 学習室
11	金		
12	土	(屋外清掃/自転車整理)	9:00 玄関前
13	日		
14	月		
15	火		
16	水		
17	木	1学年学習会 寮生会総合会議(防災訓練)	19:40 食堂 19:40 学習室
18	金		
19	土		
20	日		
21	月	1年居室同室者決め提出期限 男子居室清掃点検(生活委員会)	19:40 事務室
22	火		
23	水	1学年居室抽選会	19:40 学習室(男女)
24	木	1学年学習会 防災訓練リハ(寮長・副寮長・警備員)	19:40 食堂 19:30 事務室
25	金		
26	土		
27	日		
28	月	寮生集会・寮生総会	19:40 第二体育館
29	火		
30	水		
31	木		

(出典 平成30年度5月定例寮務委員会 議事録)

「学習室」 (抜粋)

1 学 習 室

男子寮生の学習及び寮生会活動等、多目的に使用できるようになっています。折りたたみ式の長テーブルと椅子が用意されています。

使用時間

平 日 17時30分～22時30分

休 日 10時30分～22時30分

使用の際は、以下の手続きに従ってください。

- ① 学習室を使用する場合、警備員室に置いてある使用簿に記入の上、鍵を借り受け解錠後、直ちに警備員に鍵を返すこと。
- ② 使用後は、警備員に届け出ること。ただし、最終使用者は窓の施錠と消灯を確認しドアを必ず施錠し、当直教員に鍵を返すこと。
- ③ 製図機器を使用する場合、警備員室に置いてある使用簿に記入の上、警備員からスケール1組を借り受け使用後返却すること。

(出典 平成 30 年度鶴翔寮生活のしおり p. 10)

資料 7 - 2 - ③ - 8

「寮内ネットワーク」 (抜粋)

7 寮内ネットワーク

教育および研究での利用を目的として、各居室には情報コンセントが備えられています。寮内ネットワークにコンピュータを接続する場合は、情報処理センター等で自分が利用するコンピュータの登録申請（電子申請）をしてください。寮内ネットワークの利用申請にあたっては、申請前に学寮事務室の窓口に置いてある鶴翔寮ネットワーク利用の手引きに記載されている内容をよく読んで申請を行ってください。

なお、1年生は情報倫理（コンピュータリテラシー）についての授業を受けるまで、ネットワーク利用申請を行うことができません。

(出典 平成 30 年度鶴翔寮生活のしおり p. 11)

(分析結果とその根拠理由)

自宅からの通学が困難な学生のために教育寮として鶴翔寮が運営されている。鶴翔寮の「生活のしおり」には教育寮であることが明記され、日課表を示して規則正しい生活を求めている。

学生寮はブロック制が敷かれており寮生の指導は、寮務主事をはじめ寮務委員と各学級担任及び当直教員が行う。

これらのことから、学生寮が、学生の生活及び勉学の間として有効に機能している。

観点 7-2-④： 就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

準学士課程の進路指導は、キャリア教育支援委員会が中心となって行っている(資料 7-2-④-1)。就職・進学実績から十分に機能していることが判る(資料 7-2-④-2)。

専攻科については、出身学科の学科長が就職指導を、指導教員が進学指導を行うこととしている(資料 7-2-④-3)。専攻科の就職・進学実績から、専攻科の進路指導体制も機能していることが判る(資料 7-2-④-2)。

その他、準学士課程及び専攻科に共通した就職指導体制として、企業ガイダンスの実施、インターンシップなどが毎年実施されている(資料 7-2-④-4~6)。

資料 7 - 2 - ④ - 1

「釧路工業高等専門学校キャリア教育支援委員会規則」 (抜粋)

(設置)

第 1 条 釧路工業高等専門学校に、校長の諮問機関としてキャリア教育支援委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 学生の就職開拓に関する計画の立案及び就職指導に関すること。
- 二 進学希望学生への指導計画の策定に関すること。
- 三 学外実習（インターンシップ）の実施に関すること。
- 四 その他学生のキャリア教育支援に関すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる者を持って組織する。

- 一 教務主事
- 二 分野長
- 三 第 1 学年主任
- 四 その他校長が必要と認めた者 若干名

(任期)

(出典 釧路工業高等専門学校キャリア教育支援委員会規則)

資料7-2-④-2

「平成29年度卒業・修了予定者の進路内定状況」 (抜粋)

平成29年度卒業・修了予定者の進路内定状況

平成30年3月20日現在

() は女子で内数

	本 科						専 攻 科			
	機 械	電 気	電 子	情 報	建 築	計	建設・生産		電子情報	計
							M	A		
卒業予定者	(3) 13	34	(3) 35	(3) 36	(15) 36	(24) 154	3		(1) 22	(1) 25
							0	3	1	16
進学希望者	(1) 6	1	(1) 21	(1) 21	(6) 13	(9) 62	0		3	3
								2	1	
進学合格者	(1) 6	1	(1) 21	(1) 21	(6) 13	(9) 62	0		3	3
								2	1	
内 訳	大学編入学	4	1	8	17	11	41			0
	釧路高専専攻科	2		(1) 13	4	2	21			0
	他高専専攻科						0		0	0
	大学院						0		3	3
								2	1	
進学予定者						0	0		0	0
求人社数 (前年度)	519 (409)	528 (426)	444 (492)	382 (310)	382 (382)	2255 (2019)	256 (178)		248 (177)	490 (355)
企業就職希望者	(2) 6	33	(2) 13	(2) 14	(9) 21	(15) 87	2		17	19
							2	1	13	3
企業就職内定者	(2) 6	33	(2) 13	(2) 14	(9) 21	(15) 87	2		17	19
							2	1	13	3
内 訳	道内企業	1	13	(1) 5	5	(6) 16	1		4	5
	道外企業	(2) 5	20	(1) 8	(2) 9	(3) 5	1		13	14
							1	1	10	2
就職予定者						0	0		0	0
企業就職率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%
公務員希望者					1	1			(1) 1	(1) 1
									1	1
公務員就職内定者					1	1			(1) 1	(1) 1
									1	1
公務員予定者						0				0
そ の 他	大学・各種学校・大学校入学	1		1	1	1	4			0
	その他の者						0		1	1
							1	1	1	2

注1. 進学者とは、本科は高専専攻科入学及び大学編入者を、専攻科は大学院入学者をあらわす。
 2. 公務員とは、公務員及び独立行政法人職員をあらわす。
 3. その他の者とは、自家就業者及び無業者等をあらわす。

(出典 平成29年度第5回キャリア教育支援委員会議事録)

資料 7 - 2 - ④ - 3

「専攻科進路指導に関する規定」 (抜粋)

◎進路指導について

学生の進路希望調査及び就職希望学生は出身学科に対応する専攻長／副専攻長、進学希望学生は指導教員が対応することとする。

(出典 専攻科委員会申し合わせ類集 p. 11)

資料 7 - 2 - ④ - 4

「平成 30 年度企業ガイダンス参加企業一覧」 (抜粋)

参加企業一覧					
No	行先学科 及び専攻	会社名	No	行先学科 及び専攻	会社名
1	全学科 全専攻	NTT東日本グループ会社	39	全学科 全専攻	リトリブール (リトリブール (株)、リトリビール (株)、リトリビール (株))
2	EDJS	ウェルネット株式会社	40	MEDJJS	株式会社富士フィルムメディアアクセラ
3	全学科 全専攻	株式会社エスイーシー	41	MEDJKS	セイコーエフソン株式会社
4	全学科 全専攻	株式会社エム・ソフト	42	MEDJKS	パナソニック株式会社 オートモーティブ&インダストリアルシステムズ社
5	JS	株式会社ブリッジ	43	MED	パナソニックコンシューマーマークディング株式会社
6	EDJS	株式会社日本デジタル研究所	44	MEDS	パナソニック株式会社 アフライアンス社
7	EDJS	富士通アプリケーションズ株式会社	45	MEDJKS	株式会社キッツ
8	全学科 全専攻	株式会社アルファシステムズ	46	MEDJKS	ファナック株式会社
9	MEDJJS	CTCシステムマネジメント株式会社	47	全学科 全専攻	シチズンタテヤマ株式会社
10	全学科 全専攻	株式会社シーズ・ラボ	48	MEDJJS	テルモ株式会社
11	全学科 全専攻	株式会社RayArc	49	全学科 全専攻	キヤノンメディカルシステムズ株式会社
12	DJS	日本パナソニック・システムズ株式会社	50	MEDS	株式会社日立ハイテクワイヤルディング
13	全学科 全専攻	キヤノンシステムアンドサポート株式会社	51	MED	パナソニックスイッチングテクノロジーズ株式会社
14	全学科 全専攻	NECネットエスアイ株式会社	52	全学科 全専攻	株式会社荏原製作所
15	全学科 全専攻	株式会社・TECソリューションズ	53	MEKS	DOWAサーモエンジニアリング株式会社
16	MEDJJS	テコム株式会社	54	全学科 全専攻	村田機械株式会社
17	MEDAKS	株式会社NTTファクトリー 北海道	55	全学科 全専攻	株式会社ダイナックス
18	全学科 全専攻	株式会社メンバース	56	全学科 全専攻	東洋農機株式会社
19	全学科 全専攻	日鉄住金テックスエンジニアリング株式会社	57	MEDS	株式会社CHJ (旧・株式会社日本船舶機製作所)
20	全学科 全専攻	トランスコスモス株式会社	58	MEKS	日本ビソー株式会社
21	全学科 全専攻	北海道電力株式会社	59	全学科 全専攻	三菱電機ビルテクノサービス株式会社
22	全学科 全専攻	北海道ガス株式会社	60	全学科 全専攻	フジテック株式会社
23	MEDAK	King株式会社	61	全学科 全専攻	北海道セキスイハイム工業株式会社
24	全学科 全専攻	メタウォーター株式会社	62	全学科 全専攻	株式会社竹中工務店
25	EDJS	株式会社電制	63	AK	株式会社大林組
26	全学科	J-POWER(電源開発株式会社)	64	AK	戸田建設株式会社
27	E	中部電力株式会社	65	AK	西松建設株式会社
28	全学科 全専攻	東京電力ホールディングス株式会社	66	MEAK	佐藤工業株式会社
29	MEDJJS	北海道電工株式会社	67	MEAK	五洋建設株式会社
30	MEDJJS	富士電機株式会社	68	MEAKS	東亜建設工業株式会社
31	ME	株式会社ジェイバック	69	MEDAKS	三井住友建設株式会社
32	E	一般財団法人北海道電気保安協会	70	MEDAKS	東急建設株式会社
33	MEDAKS	JXエンジニアリング株式会社	71	MAK	建設工業株式会社
34	全学科 全専攻	北海道旅客鉄道株式会社	72	全学科 全専攻	新日本建設株式会社
35	全学科 全専攻	ユニチカ株式会社	73	全学科 全専攻	株式会社朝日工業社
36	MEK	北海道P・ケイ・エフ・エス 株式会社	74	全学科 全専攻	株式会社大英社
37	全学科 全専攻	北海道エア・ウォーター株式会社	75	AK	株式会社おん設計
38	全学科 全専攻	よつ葉乳業株式会社			

(出典 学生課作成資料)

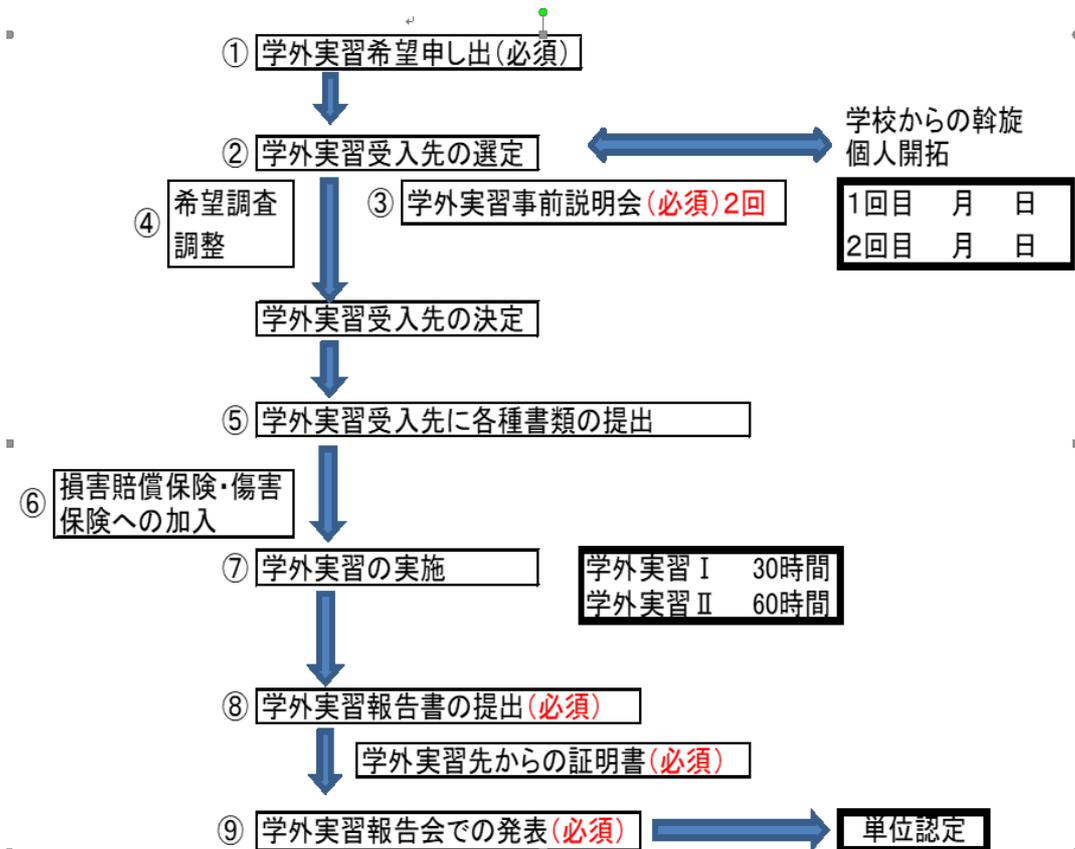
資料 7 - 2 - ④ - 5

「インターンシップの内容を示す資料」 (抜粋)

2. 学外実習の履修

2.1 履修の流れ

本校では、専門科目（選択科目）に、「学外実習Ⅰ」1単位、「学外実習Ⅱ」2単位を開設しています。履修することにより、単位を取得することが出来ます。以下に履修の流れを示します。



(出典 学外実習の手引き 2.1 履修の流れ)

資料 7 - 2 - ④ - 6

「平成 30 年度本科学生のインターンシップの実習先一覧」 (抜粋)

学科	実習先	学科	実習先
機械工学科	イシダ	情報工学科	北見工大
機械工学科	ANAメンテナンス	情報工学科	株式会社infinite loop (企業に連絡済)
機械工学科	北都電機	情報工学科	富士アイティ
機械工学科	シマノ	情報工学科	キャノンマーケティングジャパン
機械工学科	在原環境プラント	情報工学科	北海道大学
機械工学科	よつ葉乳業	情報工学科	ニッコー
機械工学科	北海道大学	情報工学科	岡谷市役所
機械工学科	北海道大学	情報工学科	雪印メグミルク
機械工学科	北海道総合研究機構 工業試験場	建築学科	川田工業 (建築現場・公募)
機械工学科	東新工業株式会社	建築学科	東洋建設
機械工学科	北海道総合研究機構 工業試験場	建築学科	北見市役所
電気工学科	北海道電力	建築学科	アトリエブंक (自己開拓)
電気工学科	キャノンメディカルシステムズ	建築学科	北海道セキスイハイム
電気工学科	電源開発株式会社	建築学科	鹿島クレス
電気工学科	北海道電力	建築学科	ホーム創建
電気工学科	富士電機	建築学科	岩田地崎建設
電気工学科	富士電機	建築学科	川田工業 (建築現場・公募)
電気工学科	キャノンメディカルシステムズ	建築学科	川田工業 (橋梁生産現場・公募)
電気工学科	東洋農機	建築学科	釧路市役所
電気工学科	北海道大学	建築学科	東京急行電鉄
電気工学科	大阪ガス	建築学科	竹中工務店
電気工学科	キッツ	建築学科	ホーム創建
電気工学科	J X T G エネルギー (川崎)	建築学科	トランスコスモス
電気工学科	三菱ビルテクノ株式会社	建築学科	宮坂建設工業
電気工学科	電源開発	建築学科	東洋建設
電気工学科	東洋農機	建築学科	NTTファシリティーズ北海道 (④FM)
電気工学科	北海道電力	建築学科	松下産業
電子工学科	NTT東日本-北海道	建築学科	北見市役所
電子工学科	NTT東日本-北海道	建築学科	成瀬・猪熊建築設計事務所
電子工学科	三菱ビルテクノ株式会社	建築学科	砂子組
電子工学科	アリヂストンソフトウェア	建築学科	くりえいと創
電子工学科	旭化成	建築学科	北海道セキスイハイム
電子工学科	F M くしろ	建築学科	総合住研 (自己開拓)
電子工学科	カネカ	建築学科	西村組 (自己開拓)
電子工学科	三菱ビルテクノ株式会社	建築学科	東亜建設工業
電子工学科	カネカ	建築学科	トランスコスモス
電子工学科	釧路ガス	建築学科	EARTH DIVER café
電子工学科	F M くしろ	建築学科	トランスコスモス
電子工学科	J X T G エネルギー (和歌山)	建築学科	ヒノデザインソシエイツ
電子工学科	シャープ	情報工学科	長岡技術科学大学
電子工学科	東芝インフラシステムズ (コース⑤)	情報工学科	長岡技術科学大学
電子工学科	カルビー		
電子工学科	キャノンマーケティングジャパン		
電子工学科	住友電設		
電子工学科	パナソニック アプライアンス社		
電子工学科	パナソニック アプライアンス社		
電子工学科	NTT東日本-北海道		
電子工学科	パナソニックスイッチングテクノロジーズ		
電子工学科	インターステラテクノロジズ株式会社		
電子工学科	キャノンマーケティングジャパン		
電子工学科	NTT東日本-北海道		
電子工学科	オブタイム		

(出典 学生課作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程の進路指導は、キャリア教育支援委員会が中心となって行っている。就職・進学実績から十分に機能していることが判る

専攻科については、出身学科の学科長が就職指導を、指導教員が進学指導を行うこととしている。専攻科の就職・進学実績から、専攻科の進路指導体制も機能している。これらのことから、就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され、機能している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校では教員室前にユーティリティスペースがあり、机と椅子が置かれ、学生の自主的学習や各種資料提供に利用している。

本校は障害学生支援委員会が設置されており、保健室、学生相談室と連携し、年間を通じて担任と連携しながら対応している。したがって、特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されている。

(改善を要する点)

特になし。

(3) 基準7の自己評価の概要

年度当初の約1週間は特別時間割を組んでおり、準学士課程への新入生、専攻科課程の新入生および第2学年に対して、年度当初にガイダンスを実施し、本校における学修上の注意等について説明している。

学生の自主学習に対する相談・助言体制として、時間割上で統一してオフィスアワーを定めている。教員室前のユーティリティスペースにテーブルと椅子が置かれており、オフィスアワーに限らず学生はいつでも教員室を訪ねて質問・相談し、教員室前で自主的に学習する環境を整えている。

福利厚生施設として鶴峰会館があり、学生食堂、売店、合宿用の宿泊設備を用意している。また、部室として課外活動に利用されている。

外国留学に関しては、平成23年度にフィンランドのトゥルク応用科学大学(TUAS)との包括協定を締結し(平成28年度に更新)、平成25年にはタイのキングモンクット工科大学ラカバン校(KMITL)と、さらに平成30年には同じくタイの泰日工業大学(TNI)と包括協定を締結している。毎年、本科生および専攻科生の学生を複数名派遣している。

留学生については、担任が留学生指導教員となるとともに、チュータを置いて支援している。留学生特別時間割を作成し、個々の留学生に応じた教育を行っている。4年次編入学生については、特に高校との学習内容が異なる数学について教育課程を組み替え、卒業

までに必要な数学力を育成できるよう工夫している。

障害のある学生への支援として、本校は障害学生支援委員会が設置されている。障害学生支援委員会は保健室、学生相談室と連携し、特別な支援を要する学生について、必要に応じて学習支援が行われている。心身の健康についての相談体制として保健室および学生相談室がある。外部カウンセラーも配置し、相談室カレンダーで予定が把握できるように配慮している。

部（および同好会）活動、学生会活動等の課外活動に対する支援は学生委員会が中心となって行っている。

自宅からの通学が困難な学生のために学生寮（鶴翔寮）が運営されている。鶴翔寮の「生活のしおり」には教育寮であることが明記され、日課表を示して規則正しい生活を求めている。

準学士課程の進路指導は、キャリア教育支援委員会が中心となって行っている。専攻科については、出身学科の学科長が就職指導を、指導教員が進学指導を行うこととしている。

基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 観点ごとの分析

観点9-1-①： 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

本校は平成16年度からすべての科目について各教員が答案保管を行っている(資料9-1-①-1)。個々の学生の指導に関する諸事項は指導要録として教務委員会が所管し、学生課において収集保管されている(資料9-1-①-2)。なお、本校では「教務事務システム」として、学生の出欠状況、定期試験の成績等は電子データとして保管されている(資料9-1-①-3)。

学生の課外活動等に関する事項は学生委員会(資料9-1-①-4)が、教育寮に関する事項は寮務委員会(資料9-1-①-5)が、その他教育に関する事項は担当委員会が分担し、それぞれのデータは学生課担当係が収集・保管している。

国立高等専門学校機構の中期目標・中期計画に基づいて、各種委員会は年度計画の策定、活動、計画達成度の評価を行っている(資料9-1-①-6)。

これら学内の点検・改善活動を客観的に点検するために、外部有識者により構成される運営諮問委員会を設置している(資料9-1-①-7)。運営諮問委員会開催前の状況説明として、学内教職員も参加する形で釧路高専の教育体制に関する現状説明会を開催している(資料9-1-①-8)。

資料9-1-①-1

平成 29 年度第 2 回認証評価・JABEE 対策室 議事概要

日時 平成 29 年 5 月 19 日(金)16:40-17:33

場所 小会議室

参加者 草苺委員長、沢柳委員、林(幸)委員、赤堀委員、千田委員、坂口委員、本間委員、鈴木(邦)委員
山下総務課長、神学生課長、秋田学生課課長補佐、浜谷総務課課長補佐

議事概要

【報告事項】

1. JABEE 審査日程について

草苺委員長から、平成 29 年度受審日程について、10 月 29 日及び 30 日で受審する旨報告があった。

2. その他

特になし

【審議事項】

1. 教育プログラム履修規程の改訂について

草苺委員長から、資料「釧路工業高等専門学校生産情報システム工学」教育プログラム履修規則(案)」に基づき説明を行った。審議の結果了承され、次回運営会議において協議を行うことになった。

2. 成績保管について

草苺委員長から、成績保管方法について以下とおり提案を行った。

- 1) 定期試験問題（前後期科目では各期末試験、通年科目では学年末試験）を全数保管し、ボーダーとなる答案（5名くらい）は、すぐ取り出せる状態にしておく（いずれも印刷やファイリングの必要なし。過去2年間分）。
- 2) 保管した試験の模範解答を付けておく。
- 3) 成績に関係する小テスト、レポート、作品は全数保管とする。（実験実習科目を含む）
- 4) 成績に関する答案、小テスト、レポート、作品の保管は紙媒体でも良いし PDF などの電子データでも良い（いずれも点数が記入されている事）。
- 5) 評価した成績の一覧表（定期試験、小テスト、レポート、再試験等成績に含まれたものは全て記入）を残しておく（統一した書式は指定しないが、素点と総合点を区別する。各自が作成しているエクセルファイルなどでOK）。

上記案について種々審議の結果了承された。

(出典 H29年度 第2回認証評価・JABEE対策室 議事録)

資料9-1-①-2

学生指導要録

(担任記入用)

入学年度	平成25年度	学科名	機械工学科	氏名	1年	2年	3年
健康の状況 (日常の観察による身体 状況及び指導処置事項)	1年	2年	3年	良好	良好	良好	
特別活動及び学生会 活動等の記録	1年	2年	3年	高専学実行者員	陸上部、高専学実行者委員、高専学クラブ代表	陸上部	学校副代表
指導上参考となる諸事項 (学習・行動・部活動・資格等)	1年	<p>部活：陸上部 責任感が強く、高専生のクラブ役員は、積極的に関与して活動している。</p> <p>学習意欲をキチンと認識しており、学習意欲も高い。高専生や体育大会における中心メンバーのひとり、クラブ以外の大会の大会役員も務めている。卒業後の進路を悩んでいるが、家庭の事情もあり、就職がどうか悩んでいる。</p> <p>スポーツマンらしく、明るく、性格で責任感も強く、クラブ以外の大会の信頼も厚い。勉強面でも、大学進学に向けて努力している。</p> <p>席次：4/6、無遅刻・無欠席</p>					

健康の状況 (日常の観察による身体 状況及び指導処置事項)	4年	5年	担任印	4年	5年
特別活動及び学生会 活動等の記録	4年	5年		陸上部、増級代表	
指導上参考となる諸事項 (学習・行動・部活動・資格等)	<p>増級代表、目的意識が、高入りのレベルで、高専生以上の活躍し、毎年、卒業面では、実力測定を上げた。陸上部の活躍し、毎年、全国大会に各場、周囲への配慮もあり、信頼も厚い、教員に賞賛される存在。進路有望。</p> <p>陸上部では、副部長(短距離)を務め、後輩の指導に熱心であり、また、優秀なリリーフ選手として活躍している。長距離では、高専生層に推薦入試に合格。</p>				
備考					
通学状況	入学時	自宅・寮・下宿	平成25年4月6日から		
	変更	自宅・寮・下宿	平成 年 月 日から		
		自宅・寮・下宿	平成 年 月 日から		

成績入力		平成30年 学年末 教務事務システム Ver 1.08																		
欠課入力		平成29年度 学年・期: 3年 認定会議用 学科/専攻: 情報工学科 (1年生は4組) 検索 テキスト出力																		
成績照会		成績照会																		
欠課照会		#: 選択科目、*: 選択未履修、*: 60点未満、00: 再試験結果合格点、+00: 再試験結果欠点の者、-: 再試験非該当者																		
学年別欠課照会		No	氏名	国語	世界史	数学	物理演習	体育	英語	#英会話	プログラミング2	論理回路	アルゴリズム論	電磁気学	情報工学実験1	ネットワーク1	応用物理	平均	順位	
1				67	61	60	60	83	74		60	60	60	68	60	60	60	64.1	21	
2				78	69	65	69	65	64		87	68	60	73	100	68	78	74.7	11	
3				69	60	60	67	85	60		82	80	73	80	86	60	66	69.7	25	
4				73	71	76	79	95	78		60	61	73	70	83	80	82	74.3	13	
5				60	77	63	66	90	80		78	73	70	65	88	68	79	69.9	17	
6				73	63	66	70	90	70		82	88	79	74	95	79	75	74.6	15	
7				76	79	74	75	90	81		98	88	90	81	100	88	80	82.5	7	
8				60	81	95	81	85	91		74	97	81	87	88	85	87	87.6	9	
9				72	66	60	60	65	60		78	69	86	74	90	65	69	67.7	18	
10				65	83	65	73	90	79		70	54	63	60	89	79	77	73.3	14	
11				60	81	60	60	90	65		60	60	60	60	60	60	60	63.9	24	
12				71	72	67	80	85	76		79	70	73	88	97	75	72	75.8	10	
13				77	79	60	66	85	88		60	81	81	81	100	88	79	76.4	8	
14				75	75	82	88	80	84		81	81	81	94	90	82	83	82.0	4	
15				63	82	60	67	85	76		75	83	75	77	83	68	73	71.3	16	
16				77	81	85	81	90	79		69	65	64	60	85	79	87	78.3	12	
17				65	71	82	66	85	84		75	71	79	60	76	60	68	67.7	19	
18				60	60	60	60	85	60		62	60	60	60	60	60	60	61.7	28	
19				65	78	60	70	83	71		75	80	60	60	80	60	71	66.4	20	
20				77	77	71	74	85	87		78	83	67	79	100	72	84	79.1	5	
21				87	70	75	82	80	91		81	78	76	95	100	91	85	83.5	3	
22				68	93	60	75	90	78		72	81	77	84	100	73	81	81.3	6	
23				72	72	75	76	90	77		70	84	72	84	90	78	83	78.4	11	
24				81	82	70	85	95	85		81	70	72	78	91	86	81	76.8	13	
25				62	71	60	60	93	64		61	60	60	60	89	60	60	65.5	22	
26				64	64	60	60	90	61		82	69	69	60	87	60	61	61.4	27	
27																				
平均				69.2	74.6	67.3	70.2	87.2	74.5		72.4	70.0	69.9	73.5	86.0	70.7	74.0	73.1		
素点																				
教官名				館下	木村	小谷	浦家	三島	田村	外国人	柳川	中島陽	本間	大槻典	柳川	高橋	小久保			

(出典 学生課教務事務システム)

○釧路工業高等専門学校学生委員会規則

(昭和41年5月15日 釧高専規第3号)

改正 昭和43年7月22日釧高専規第12号 昭和44年1月11日釧高専規第 2号
 昭和45年6月13日釧高専規第 7号 昭和46年4月22日釧高専規第 6号
 昭和50年2月21日釧高専規第 4号 昭和57年3月29日釧高専達第20号
 昭和63年2月17日釧高専達第 2号 平成10年2月16日釧高専達第14号
 平成14年2月18日釧高専達第23号 平成14年3月 1日釧高専達第41号
 平成16年4月 1日釧高専達第18号 平成19年3月27日釧高専達第17号
 平成21年3月26日釧高専達第13号 平成23年3月28日釧高専達第44号
 平成24年4月26日釧高専達第 1号 平成25年3月28日釧高専達第17号
 平成26年4月30日釧高専達第 2号 平成26年9月26日釧高専達第26号
 平成28年3月23日釧高専達第28号

(委員会の設置)

第1条 釧路工業高等専門学校に校長の諮問機関として、学生委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会において審議する事項は、次のとおりとする。

- 一 学生の補導に関する事項
- 二 学生の福利厚生に関する事項
- 三 学生の課外活動に関する事項
- 四 授業料及び寄宿料の免除に関する事項
- 五 入学料免除に関する事項
- 六 独立行政法人日本学生支援機構の奨学生の選考に関する事項
- 七 いじめの防止に関する事項
- 八 その他学生の厚生補導に関する事項

(出典 釧路高専規則集 第11章 会議・委員会 11-5学生委員会規則)

資料9-1-①-5

○釧路工業高等専門学校寮務委員会規則

(昭和50年1月30日 釧高専規第2号)

改正 昭和57年3月29日釧高専達第20号 昭和63年2月17日釧高専達第 2号
平成14年2月18日釧高専達第26号 平成14年3月 1日釧高専達第41号
平成16年4月 1日釧高専達第19号 平成19年3月27日釧高専達第18号
平成21年3月26日釧高専達第14号 平成23年3月28日釧高専達第45号
平成25年3月28日釧高専達第18号 平成26年4月30日釧高専達第 3号
平成28年3月23日釧高専達第29号

(委員会の設置)

第1条 釧路工業高等専門学校に校長の諮問機関として、寮務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会において審議する事項は、次のとおりとする。

- 一 寮生の補導に関する事項
- 二 寮生の福利厚生に関する事項
- 三 その他学寮に関する重要事項

(出典 釧路高専規則集 第11章 会議・委員会 11-6寮務委員会規則)

資料9-1-①-6

「年度計画活動経過・結果報告書の例」

年度計画番号	1-1-(4)-①	
平成29年度 年間評価報告書 (29.4 ~ 30.3)		
釧路高専 年度計画 活動経過・結果報告書	平成29年 月 日	
期 間 : 平成29年 4月 ~ 平成30年 3月	責任部局 (連携部局等) : 教務委員会	
【高専機構中期計画】		
I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置		
1 教育に関する事項		
(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム		
① 全高等専門学校が利用できる教材の共有化を進め、学生の主体的な学びを実現するICT活用教育環境を整備することにより、モデルコアカリキュラムの導入を加速化し、高等専門学校教育の質保証を推進する。		
【高専機構年度計画】		
1 教育に関する事項		
(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム		
① 高専教育の質保証を推進するため、モデルコアカリキュラムの導入に基づく到達目標に対し、適切な授業設計に裏付けされたアクティブラーニング等による主体的な学習を推進し、ルーブリック等による到達度の評価方法の構築を目指す。 また、モデルコアカリキュラムの改訂を行う。		
【高専機構年度計画の具体的な課題・取組等】		
○ 「モデルコアカリキュラム」の導入や改訂内容について、全国高専フォーラムや高専等において説明会を実施し、併せてモデルコアカリキュラム導入状況を調査・把握する。		
○ 全国立高専におけるMOCに基づいたカリキュラム実施のために、授業設計、アクティブラーニング、到達度評価のためのルーブリック等の研修を実施する。		
【29年度 釧路高専責任部局等の年度計画 (具体的な方法)】中間評価 (実施状況の評価についてA~Dをつける。達成度及び理由等を記載すること。)		
年 度 計 画	実施状況 評価	達成度及び理由等
全国高専フォーラム等で行われる説明会に積極的に参加する。	A	各種説明会等への参加及び教務委員会等での報告を行っている。
機構本部が実施する説明会・研修会に積極的に参加する。	A	各種説明会等への参加及び教務委員会等での報告を行っている。
平成29年度中間評価指標 [A 既に達成済 B 現在進行中 (達成度〇〇%) C 未着手 (〇〇月頃実施予定) D 予定変更・実施不能 (理由: 〇〇〇〇)]		
【中間評価に対する今後の実施計画】		

資料9-1-①-7

○釧路工業高等専門学校運営諮問委員会規則

(平成16年9月21日制定)

改正 平成19. 1. 9 平成19. 4. 26釧高専達第26号

(設置)

第1条 釧路工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、釧路工業高等専門学校運営諮問委員会(以下「諮問委員会」という。)を置く。

(目的)

第2条 諮問委員会は、校長の諮問に応じ本校運営上の重要事項を審議し、校長に対し意見を述べる。

2 校長は、諮問委員会からの意見を、本校の運営に反映させるものとする。

(審議事項)

第3条 諮問委員会は、次の各号に掲げる事項について、審議する。

- (1) 教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する重要事項
- (2) 教育研究活動等の状況について本校が行う評価に関する重要事項
- (3) その他本校の運営に関する重要事項

(組織)

第4条 諮問委員会は、本校の教職員以外の者で、高等専門学校に関し見識を有する者のうちから、校長が委嘱する委員をもって組織する。

(委員長)

第5条 諮問委員会に委員長を置き、その委員長は委員の互選をもって充てる。

2 委員長は、諮問委員会の会務を総理する。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(任期)

第6条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(出典 釧路高専規則集 第11章 会議・委員会 11-13運営諮問委員会規則)

資料9-1-①-8

第14回釧路工業高等専門学校運営諮問委員会実施要領

1. 日 時 平成30年2月27日(火) 13時00分～15時00分
2. 場 所 釧路工業高等専門学校 会議室
3. 次 第
 - ・開会の辞
 - ・開会挨拶
 - ・委員紹介
 - ・委員長選出
 - ・審議開始
 - 【議題1】釧路高専の現状と課題について(資料1)
 - [資料説明] 校長 岸 徳光
 - [審議]
 - 【議題2】入学者増に向けた入試広報の取り組みについて(資料2)
 - [資料説明] 副校長/校務主事 小田島 本有 教授
(一般教育部門 国語担当)
 - [審議]
 - ・閉会挨拶
 - ・閉会の辞
4. 参加者 別紙委員名簿のとおり
運営諮問委員 7名
本校参加者 90名(運営会議構成員)

(出典 H29年度運営諮問委員会実施要領)

(分析結果とその根拠理由)

答案等は各教員、教育の状況に関する資料は各担当事務組織により収集・蓄積されている。また、教務事務システムを導入により、教務データの収集・蓄積が電子的に行われている。各種委員会は年度計画の達成度の評価を行っている。学内の点検・改善活動を客観的に点検するために、外部有識者により構成される運営諮問委員会を設置している。

以上のことから、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されている。

<参考>

※評価専門委員会はH25年度まで。H26年度より自己点検・評価委員会。

平成27年度 第1回自己点検・評価委員会議事録

日 時：平成27年7月31日（金）16：40～17：20
場 所：会議室
出席者：8名

— 中略 —

2 昨年度までの経緯説明

委員長から、資料2及び資料3に基づき、昨年度までの委員会の活動内容について、以下のとおり説明があった。

- ・平成25年度までは、評価専門委員会で、主に高専機構の中期計画・中期目標に基づき定められた本校の年度計画について、各委員会からの自己評価を取りまとめていた。
- ・平成26年度に評価専門委員会は廃止され、新たに自己点検・評価委員会が校長の諮問機関として設置された。
- ・平成26年度は、JABEE 中間審査への対応のため、平成26年度委員長が「釧路工業高等専門学校評価基本方針」、「平成26年度自己点検・評価実施要領案」、「平成26年度総合評価実施要領案」、「平成26年度総合評価実施要領（修正案）」を作成した。

○釧路工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則
(平成26年3月26日釧高専達第16号)

改正 平成27年3月26日釧高専達第44号 平成28年1月27日釧高専達第9号

(設置)

第1条 釧路工業高等専門学校に、校長の諮問機関として自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 自己点検・評価の基本方針に関すること。
- 二 自己点検・評価の実施及び公表に関すること。
- 三 その他自己点検・評価の実施に必要な事項

機構の中期目標・中期計画に基づく年度計画活動経過・結果報告については、H27年度まで自己点検・評価委員会が取りまとめを行っていたが、H28年度より企画会議（総務課）で取りまとめを行っている。

※教育システム評価改善委員会はH25年度まで、以後引き継いだ委員会はない。

平成25年度第3回教育システム評価改善委員会議事概要	
日 時	平成26年2月12日(水) 16時30分～17時25分
場 所	小会議室
出席者	9名 欠席者 2名
—中略—	
<p>3. その他 委員長から、この委員会は来年度廃止されるため、上記内容を含め新しい委員会において継続審議していただきたいとの発言があった。</p>	

観点9-1-②： 学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果をもとに教育の状況に関する自己点検・評価が、学校として策定した基準に基づいて、適切に行われているか。

(観点に係る状況)

学生の意見を取り入れるために、意見箱を設置して学生や寮生の意見を収集し、それらの結果に基づいて教務員委員会や寮務委員会において教育に関する自己点検・評価を行っている(資料9-1-②-1)。学生の意見を取り入れるために、教務委員会が行う授業評価アンケート(資料9-1-②-2)や達成度評価アンケートへの自由意見の記述の収集がある(資料9-1-②-3)。また、各クラス担任による学生指導、クラブ顧問によるクラブ指導、学生委員会による学生指導、寮務委員会による寮生指導、「校長が学生の声を聞く会」(資料9-1-②-4)における話し合いなど、日常的な種々の教育活動の中で学生の意見の収集を行って、これらの結果は教務委員会や学科会議などを通じて教育や学生指導に関する自己点検・評価を行っている。

教職員の意見は各種委員会の活動や全体の教員会議を通じて収集し、その結果に基づいて各委員会において教育の自己点検や評価を行っている(資料9-1-②-5, 6)。授業参観や保護者懇談会等で保護者の意見を収集している(資料9-1-②-7, 8)。社会の意見を収集するために、学外有識者を委員とする運営諮問委員会における提言として取り入れること(資料9-1-①-8)や、キャリア教育支援委員会が行う企業説明会において参加企業からの意見を聴取するアンケート調査(資料9-1-②-9)がある。

資料9-1-②-1

10月定例教務委員会
H29.10.5
資料9

意見箱への投書について 回答案 rev.2

グループ制度を廃止してほしいです。理由は、まず移動教室が大変だからです。朝のHRが終わって移動をするのが不可能だからです。それにも関わらず、先生方は遅刻扱いをするので有り得ないと思います。他人が使って汚した教室をそうじするのが嫌です。クラスの名前と顔が一致しなくて団結力が深まらないし、時間割が見づらいし、休み時間が移動教室でつぶれるし、実際にとうなんがありました。これほどデメリットしかないのに、グループ制度にする意図すら伝えられていないのはおかしいと思います。学生側もグループ制度に反対派が多いので来年度からでも良いので廃止して下さい。

(回答)

ご指摘にお答えいたします。

グループ制度については、学内において各種事情等を踏まえて検討を重ねた上で、本校において適切な教育を行うためこのような制度を今年度より制定し運用しております。現在のところ制度を変更する予定はございませんが、今後制度変更を検討する際に本意見は参考としたいと思います。

なお、ご指摘において例示がありました件は、下記のとおりです。

- ・移動教室について
グループ制度の有無に関わらず、1年生の芸術科目等、移動教室は行われています。
- ・他人が使った教室の掃除をすることについて
教室清掃は分野毎にHR教室を清掃することとなっています。他の分野においても同様に清掃を行っておりますので、自分が割り当たっている教室の清掃をお願いします。
- ・グループにおけるクラスの団結力について
グループのクラスは、あくまで授業を受けるための集団です。団結力等は行事等を通じて各分野において高めてください。
- ・盗難について
移動の際には、貴重品は身につけ、身の回りのものはロッカーにしまう等、自己管理をしてください。

平成29年●月●日

釧路工業高等専門学校 教務委員会

(出典 H29年度 教務委員会10月定例資料)

資料9-1-②-2

平成28年度 ステップアップ提案書 結果表示									
4年 情報 電子回路									
分類	No	質問	1	2	3	4	5	計	平均
シラバスと授業の整合性	1	授業は、シラバスに記載された授業科目や各学習目標等に沿って行われた。	1	0	1	12	6	43人	4.0
	2	授業評価は、シラバスに記載された方法で行われた。	1	0	1	11	6	43人	4.0
教員の授業に対する姿勢	3	授業は、教員の熱意が感じられるものだった。	1	4	20	14	4	43人	3.4
	4	授業では、教員の話し方や声の大きさや態度で聞き取りやすかった。	2	3	16	16	4	43人	3.4
	5	授業では、教員は私語、休憩などしている学生に対して適切に注意指導を行った。	1	5	20	13	4	43人	3.3
教員の授業技術	6	授業は、学生を巻きこけるなど、興味関心を引き出すような工夫がなされていた。	2	5	16	18	2	43人	3.3
	7	授業は、教員の説明や教材の利用が適切で、授業内容を理解しやすかった。	2	7	20	12	2	43人	3.1
学生の授業に対する姿勢	8	自分は、この授業に意欲的に受講していた。	1	3	24	11	4	43人	3.3
	9	自分は、課題・レポート等の提出、リクエストに対する事前学習、授業の予習などを適切に行なった。	0	6	15	13	6	43人	3.4
学生と授業内容のマッチング	10	この授業のレベルや進度は、自分にとって適切であった。	2	6	22	10	3	43人	3.1
	11	テストや演習、課題の難易度は、自分にとって適切であった。	2	8	20	11	2	43人	3.1
	12	この授業を受講することで、この教材や分野に関する興味関心が増した。	3	10	18	9	3	43人	3.0

— 中略 —

学生の意見・感想
一年間お疲れさまでした。 半期間ありがとうございました。
これより下は教員の記述 授業の改善案(具体的・数量的)
現在および将来において自分自身にとって必要となる知識であるということを実践しようとする。
現状分析(下記アンケート結果、公開授業評価を含む)をふまえた上記の補足・理由
情報工学と電子回路の授業内容の関連性がピンとこないと思われる。
自己採点(教員自己評価アンケート)との相違などについてご意見がございましたらお書き下さい。
授業内容をもっと理解しやすくなる工夫が必要と考える。
意見・感想

黄色の部分は教員の回答

(出典 学内向けサイト／学生向け情報／授業評価アンケート結果)

H29

自由記述について

A (技術者として社会に貢献するために) 人類の歴史的な背景, 文化や価値観の多様性を理解し, 地球的規模で社会問題や環境問題を考える基礎能力, および技術が社会や環境に与える影響を認識し, 技術者が社会に対して負っている責任を理解する基礎能力を身につける.

5J 達成度 4 2年○ 4年◎ 5年○

高専カンファレンスや研修旅行など, 釧路以外の地域の事柄を学ぶ機会が多かったことが理由.

4D 達成度 1

教員が全員これをちゃんと把握しているのか?

B (地域・社会に貢献するために) 地域の産業や社会の抱える課題に対処できる基礎能力を身につける.

4D 達成度 1

特に非常勤講師の授業の質がひどいのでどうにかしてほしい

C (技術的課題を解決できるように) 工学の幅広い基礎知識 (数学, 自然科学, 情報技術, 基礎工学) を修得し, それらに応用する能力を身につける.

4D 達成度 2 2年○ 3年○ 4年◎

文科省に提出するデータをつくらうな

5D 達成度 4 2年○ 3年◎ 4年○

一般の先生によるところが大きい

5D 達成度 2 2年○ 4年○ 5年◎

数学については 3 年時代の教員の指導法に大きく精神を乱され, 教科として嫌いになってしまった

D 技術者として自己の基盤となる専門分野の知識を修得し, それに応用する能力を身につける.

5J 達成度 2 1年○ 4年○ 5年◎

横断的に専門科目を学べることは良いことだと思う.

4D 達成度 2 2年○ 3年○ 4年◎

無駄な金をかけるな, 学生のために金を使え

5D 達成度 1

以外の教員の試験が事前配布されるプリント丸写しになっているため

5D 達成度 2 2年○ 3年○ 5年◎

プログラミング系統

資料9-1-②-3(続き)

E 技術的課題を分析・総合し、解決するための計画をたて、その計画を実行して課題を解決する基礎能力を身につける。さらに、チームワークで仕事をする基礎能力を身につける。

5J 達成度 2 3年○ 4年○ 5年◎

3,4年次は高専プロコンで、5年次は釧路プログラミングコンテストの運営などで協力してプログラミングをしたり指導したりした。

5D 達成度 2 2年○ 4年◎ 5年○

F 文章、口頭、図表や視覚的な方法によって、効果的にコミュニケーションができる基礎能力を身につける。すなわち、日本語で論理的に記述し討論する能力、および簡単な論理的文章を英語で記述し、基本的な英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識を身につける。

4J 達成度 3 2年○ 3年○ 4年◎

英会話は無理です。

5J 達成度 4 3年○ 4年○ 5年◎

海外へのインターンシップなどを通じて外国語を話す機会は比較的多かったが、学内で英語によって記述したり会話する機会は少ないと思う。

5D 達成度 2 4年○ 5年◎

英語の基礎知識はあまりつかなかった。1~3学年の英語授業が受け身主体になっていたからと思われる。

5D 達成度 3 2年○ 4年○ 5年◎

口頭に限っては体質的問題から今も十分とは言えず、人付き合いについても1年で嫌な記憶を刻まれたために未解決

G (技術の進展や社会の変化に対応できるように)継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につける。

5J 達成度 2 3年○ 4年○ 5年◎

継続することが一番困難であると思う。

5D 達成度 4 2年○ 4年○ 5年◎

自分の得意分野が現在の学科と異なることを認識したので、恐らくはそちらにシフトしていくと思われる

(出典 H29年度達成度評価アンケート/学生課保管資料)

資料9-1-②-4

学級担任・専攻長 各位
教務主事

10月の教員会議でお知らせしました通り、校長と学生との懇談を実施します。つきましては、懇談に出席する学生を各クラス・専攻から1名選出し、11月19日(月)までに学生氏名を教務主事補・山田(yam@elctro.kushiro-ct.ac.jp)あてお知らせください。出席学生は学級代表でも、そうでなくても構いません。なお、実施日時は以下の通りです。

日時:
11/28(水)16:30~17:30 1~3年
12/12(水)16:30~17:30 4,5年,専攻科(※)

場所:会議室(2回とも)

出席予定者:校長,教務主事,学生主事,寮務主事,学生課長

※専攻長におかれましては、1K,2K,1S,2Sから各1名を選出お願いします。

よろしくお願い致します。

--

釧路工業高等専門学校 創造工学科
エレクトロニクスコース 電子工学分野

(出典「校長と学生の懇談にかかる学生選出のお願い」依頼メール)

資料9-1-②-5

平成29年度10月定例教務委員会議事録

日時	平成29年10月5日(木) 17時20分~18時50分		
場所	小会議室		
出席者	12名	欠席者	0名

—中略—

(5) 平成30年度情報リテラシーシラバスについて(資料7)

委員長から、資料7に基づき説明があった。また、本件は各分野に持ち帰りの上、変更・修正点等があった場合は10月末までに学生課修学支援係宛てに連絡することとなった。

なお、委員から、授業計画の第11週について、わかりやすく具体的な文言に変更して欲しい旨要望があり、こちらの文言については情報工学分野・林教員に修正協力を依頼することとなった。

(出典 H29年度 教務委員会10月定例資料)

資料9-1-②-6

平成29年度5月17日教員会議議事録

日 時： 平成29年5月17日（水） 17時20分～19時00分

場 所： 会議室

出席者： 59名 欠席者： 17名

[報告事項等]

1. 自殺予防の取り組みについて

藤本学生相談室長から、自殺予防の取り組みについて資料1に基づき報告があった。

2. 2017年度「障害学生サポートチーム」について

三森学生主事から、2017年度障害学生サポートチームについて資料2に基づき報告があった。なお、サポートチームのメンバーが規則と異なる人選となったことについて、昨年度の経験を踏まえて、より関わりのある教員とした旨の説明があり、今後規則を見直す方針であるとの説明があった。

3. 原級留置・退学者の削減に対する新たな対応について

校長から、原級留置・退学者数について、機構本部から強く改善するよう求められており、教務委員会で検討している提案では退学率2%以下に減らすには充分ではないと企画会議において判断し、再度、教務委員会に実効性のある対策を検討するよう諮問したとの報告があった。

引き続き、川村教務主事から、再検討した提案について資料3に基づき報告があったが、教員から未修得進級者の課外活動における対外試合等への参加の取り扱いについて再考してほしい旨の要望があり、教務委員会において再検討することとなった。

また、校長から、教務委員会の提案とは別に定期試験ごとに再試験を実施するよう教員に対して依頼があった。

(出典 H29年度（議事録）5.17教員会議)

資料9-1-②-7

Q3 授業参観の感想

授業科目	学年	組	コメント
数学A	1	1	学生の授業態度は良かった。先生も学生の反応を見ながら比較的ゆつくりと進めていてわかりやすかった
数学A	1	1	皆、まじめに授業を受けていました。先生の説明も聞きやすく、きつとわかりやすい授業なのではと感じました
数学A	1	1	わかりやすい授業でした。学生達の反応がうすいのが残念でした。2年以降で参観の時実習教科を入れて欲しい
数学A	1	1	学生の発言が少なく、理解しているのか？と感じました。先生はペースが早かったが、一つ一つは解りやすかった
数学A	1	1	私語やよそ見もせず、板書を必死にノートしており、また、先生の話も良く聞いていた。クラス全体も騒がしくなく安心した
数学A	1	1	真剣に授業を受けていました
数学A	1	1	学生への接し方(全員に向けての形がとても良く感じられます)基本を特に重点されていて(基本が理解されなければ応用が出来る用に)
数学A	1	1	ていねいに指導されていました
国語	1	2	先生の声が良かった。北大の道民カレッジも聞きに行きたい。三浦綾子さんの大ファンです！読書会を札幌でも開いて下さい
国語	1	2	漢文の授業でむずかしい内容のところ、学生が飽きることなく楽しく聴いていて、先生と会話をしながらの授業で良かったと思います
国語	1	2	とても分かりやすい授業でした。綺麗な教室で、皆が参加している授業と感じました。今後も御指導よろしくお願い致します。私も勉強させて頂きました。ありがとうございました。
国語	1	2	学生が落ち着いていたと思います
国語	1	2	説明がていねいで、スピードも適切、わかりやすかったです
国語	1	2	授業運びを工夫され学生もあきることなく学んでいた。聞きやすかつたし雰囲気も良かったです
国語	1	2	授業中の学生は、真剣かつまじめに勉強していて感心しました。たまに、先生に対してタメ口の学生がいて、少し気になりました。先生の教え方は、わかりやすかつたです
国語	1	2	笑いも交えて工夫されてました。
国語	1	2	クラスの雰囲気がとても穏やかでした。先生の説明もわかりやすかつたと思います。

(出典 H29年度 教務委員会12月定例資料)

資料9-1-②-8

8月定例教務委員会
H29.8.3
資料3

平成29年度釧路地区懇談会メモ

日 時：平成29年7月2日（日）13時30分～15時30分

場 所：釧路工業高等専門学校 大講義室

説明者：川村教務主事，三森学生主事（事務：高橋修学支援係長・居石学生支援係員）

出席者：44名

1. 全体説明

- | | |
|--------------------|--------|
| ・挨拶 | 川村教務主事 |
| ・教務関係について（60分程度） | 川村教務主事 |
| ・国際交流関係について（10分程度） | 川村教務主事 |
| ・学生指導について（10分程度） | 三森学生主事 |
| ・寮生活について（10分程度） | 三森学生主事 |

2. 全体質問

なし

3. 個別質問（教務関係）

Q1. 夏休みのインターンシップに連続して見学旅行があり、見学旅行が羽田空港集合のため、インターンシップが終了してもそのまま都内に留まって見学旅行に参加すると息子から聞いているが、その通りか？

A1. 先日、鶴望とともに、見学旅行の案内を送付させていただいたところですが、ご不明な点は、改めて本校の担当からご案内させていただきます。

Q2. 本人は、将来的に大学院まで進みたいと考えているようで、親としてもそのように考えている。大学編入学と専攻科は、どちらがお勧めだろうか？

A2. 最終的には、学生と保護者で決めていただくことになるが、推薦を利用して合格すると、他は受けられない。学力で、いろいろな大学を受験する学生もいる。専攻科は学費が安いのと研究を続けられるのが魅力。専門分野毎に大学や大学院の情報

（出典 H29年度 教務委員会8月定例資料）

資料9-1-②-9

企業アンケート

2018.01.27

— 釧路工業高等専門学校の教育システムの改善のために次のアンケートにご協力願います。 —

※本アンケートは本校の教育システムの改善の資料としての使用を目的としており、記入された企業名や個人名等の個人情報等については、外部への公表をするものではありません。そのため忌憚のないご意見のご協力をお願いいたします。

質問1. 貴社の企業名をご記入ください。

企業名

質問2. 貴社の従業員数を教えてください。

従業員数(50人未満, 50~99人, 100~499人, 500~999人, 1000人以上)

質問3. 最近5年間の高専全体の本科卒業生及び専攻科修了生の採用実績(人数)を教えてください。

- ① 本科卒業生 (なし, 5人未満, 5~9人, 10~49人, 50人以上, わからない)
- ② 専攻科修了生(なし, 5人未満, 5~9人, 10人以上, わからない)

質問4. 釧路高専の本科卒業生及び専攻科修了生に対する最近5年間の採用実績(人数, 主たる職種)を教えてください。

本科卒業生

- ① 採用人数(なし, 5人未満, 5~9人, 10人以上, わからない)
- ② 主たる採用職種(農・林・漁業・食品技術者, 機械・電気技術者(機械, 電気, その他), 情報処理技術者, その他技術者, 管理的職業, 事務従事者, 販売従事者, サービス職業, 運輸・通信, 生産工程・労務作業員, 上記以外) (複数回答可)

専攻科修了生

- ① 採用人数(なし, 5人未満, 5~9人, 10人以上, わからない)
- ② 主たる採用職種(農・林・漁業・食品技術者, 機械・電気技術者(機械, 電気, その他), 情報処理技術者, その他技術者, 管理的職業, 事務従事者, 販売従事者, サービス職業, 運輸・通信, 生産工程・労務作業員, 上記以外) (複数回答可)

裏面へ続きます→

資料9-1-②-9(続き)

質問5. 質問4の本校の本科卒業生及び専攻科修了生についてお尋ねします。貴社から見た本校の教育成果を5段階で評価してください。(数値を本科生, 専攻科生欄に記入してください。)

優れている.. 5 やや優れている.. 4 普通.. 3 やや劣る.. 2 劣る.. 1

	本科生	専攻科生
①日本語による論理的記述, 口頭発表, 討議能力	3	3
②人文・社会科学に関する知識	3	3
③数学・自然科学に関する知識	4	4
④情報技術に関する知識と活用能力	4	4
⑤英語によるコミュニケーションの基礎的能力	3	3
⑥経済, 安全, 環境などの社会・自然に及ぼす影響等について, 問題点を認識できる能力	3	3
⑦専門分野に関する知識・態度・処理能力	4	3
⑧種々の知識・処理能力を統合し, もの・システムづくり等に応用できる能力	3	3
⑨自主的に課題を見つけ, 継続的に学習できる能力	3	3
⑩与えられた課題に対して, 計画的に物事を進め, まとめる能力	4	4
⑪積極性	3	3
⑫協調性	3	3
⑬礼儀正しさ, 誠実さ	4	4

質問6. 今後釧路高専が将来計画を策定する上で, 企業が求める人材像について参考にさせていただくため, 貴社が本校卒業生及び専攻科修了生に対し重視する能力と具体的な事例を教えてください。(複数回答可)

実践的能力
 当社のサービス職は, 技術的能力はもちろんですが, お客様と対面での対応が多く, コミュニケーション能力が高い人材を求めています。

企画力・柔軟な発想力
 トラブルや企画を携わる場面がありますが, その時の現状をしっかりと分析し, 主体的に考え活動できる人材を求めています。

(出典 学生課学生支援係資料)

(分析結果とその根拠理由)

学生の意見は、意見箱の設置や授業評価アンケート、達成度アンケート、クラブ指導、学生指導、寮生指導、校長が学生の声を聞く会など、様々な形式で多くの意見を収集している。教職員の意見は、教務委員会や教員会議などを通じて収集している。また、保護者による授業参観や保護者懇談会、学外有識者を委員とする運営諮問委員会、企業アンケート等により、意見を収集している。教務委員会や寮務委員会などにおける意見収集結果に基づいた議論や、ウェブサイトでの教員間の情報共有により、教育の状況に関する自己点検・評価を適切に行っている。

観点9-1-③： 各種の評価の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるような組織としてのシステムが整備され、教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

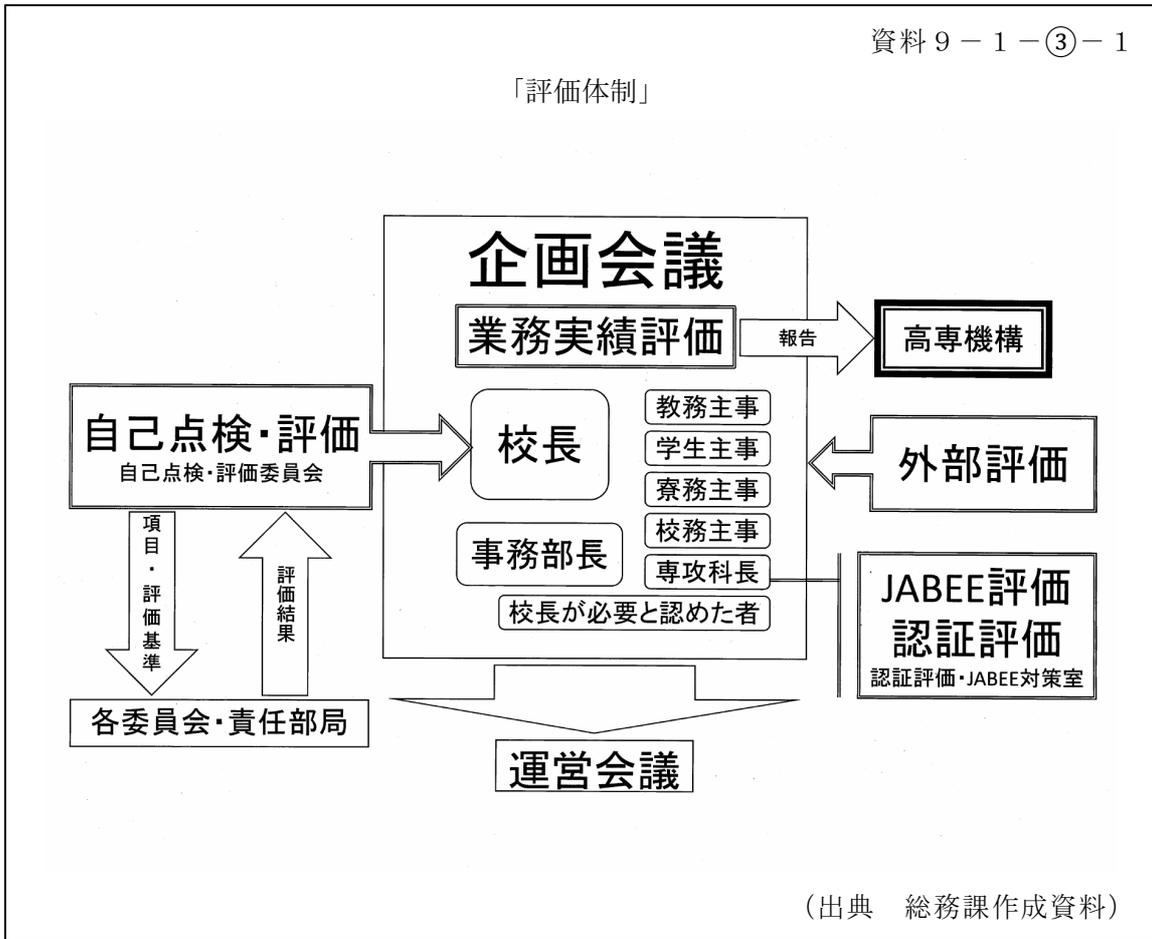
(観点に係る状況)

本校の業務全体の評価・改善のためのシステムについては、評価体制(資料9-1-③-1)とPDCAシステム(資料9-1-③-2)が定められている。教育活動の改善については、運営会議(資料9-1-③-3)、教務委員会(資料9-1-③-4)、および専攻科委員会(資料9-1-③-5)が、それぞれ所掌する具体事項に関して継続的に検討・実行している。また、各組織の自己点検については、自己点検・評価委員会(資料9-1-③-6)が年度毎に要請・集約している。

本校の教育課程・組織については、社会情勢に対応し、大幅な改編(資料9-1-③-7)を平成28年度より開始している。この改編では、本科の5年間の教育課程について、複合融合型の教育科目を導入し、従来の5学科制を1学科3コース5分野制に改めており、この新課程を平成32年度までに完成する計画である。なお、高専機構採択事業の新産業人材育成プログラム(資料9-1-③-8)についても新課程への統合を進めている。

教育の改善に関して、平成29年度の各組織の具体的な活動状況を例示しておく。教務委員会(資料9-1-③-9~12)においては、重点的事項として教育課程移行の準備、学習遅進学生数の抑制、継続的事項として授業公開・授業評価の実施、等を審議した。専攻科委員会(資料9-1-③-13)においては、授業科目履修規則を整備した。自己点検・評価委員会(資料9-1-③-14)においては、自己点検を計画した。運営会議はこれらの委員会の活動を監督・承認した。

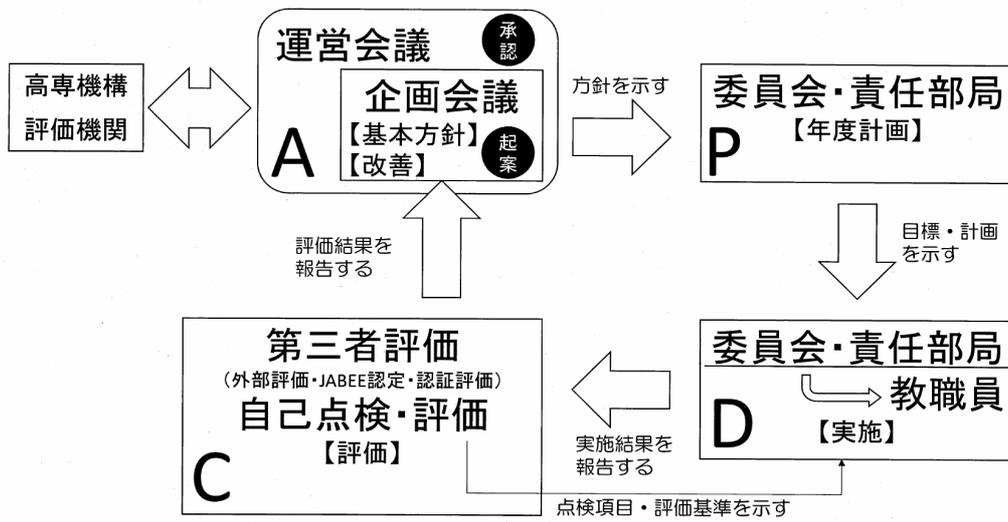
「評価体制」



(出典 総務課作成資料)

資料 9 - 1 - ③ - 2

「PDCA システム図」



(出典 総務課作成資料)

資料9-1-③-3

○釧路工業高等専門学校運営会議規則

(平成14年2月18日釧高専達第15号)

改正 平成16年3月 8日釧高専達第 4号 平成16年5月26日釧高専達第39号
 平成17年4月 1日釧高専達第11号 平成18年2月22日釧高専達第13号
 平成19年3月27日釧高専達第14号 平成21年3月26日釧高専達第11号
 平成22年2月26日釧高専達第28号 平成22年7月29日釧高専達第10号
 平成23年3月28日釧高専達第42号 平成26年3月26日釧高専達第20号
 平成28年3月23日釧高専達第25号 平成29年3月23日釧高専達第 9号

(設置)

第1条 釧路工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、校長の諮問機関として釧路工業高等専門学校運営組織規則(以下「運営組織規則」という。)第17条に基づき運営会議(以下「会議」という。)を置く。

(目的)

第2条 会議は教育研究その他本校の管理運営に関する重要事項を審議し、校務の円滑な運営を図るものとする。

(審議事項)

第3条 会議は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 本校の将来計画の企画立案に関する事。
- 二 本校の教育、研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する事。
- 三 諸規則の制定及び改廃に関する事。
- 四 予算(概算要求を含む。)に関する事。
- 五 評価に関する事。
- 六 本校の防災、施設整備及び設備整備に関する事。
- 七 受託研究、共同研究、寄附金の受入れ、実施等に関する事。
- 八 国際交流に関する事。
- 九 釧路工業高等専門学校教育研究・国際交流振興基金の運用に関する事。
- 十 情報公開に関する事。
- 十一 各委員会の審議事項のうちこの会議の議を経ることとなったものに関する事。
- 十二 その他本校の管理運営に関する重要事項

(組織)

第4条 会議は、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 校長
- 二 副校長
- 三 一般教育部門文系長
- 四 一般教育部門理系長
- 五 分野長
- 六 図書館長
- 七 地域共同テクノセンター長
- 八 情報処理センター長
- 九 教育研究支援センター長
- 十 学習支援センター長
- 十一 事務部長
- 十二 課長及び技術長

(後略)

(出典 運営会議規則)

資料9-1-③-4

○釧路工業高等専門学校教務委員会規則

(昭和41年4月15日釧高専規第2号)

改正 昭和42年7月27日釧高専規第7号 昭和43年8月30日釧高専規第18号
 昭和44年1月11日釧高専規第1号 昭和46年4月22日釧高専規第5号
 昭和50年2月21日釧高専規第3号 昭和51年4月8日釧高専規第6号
 昭和56年3月31日釧高専規第6号 昭和57年3月29日釧高専達第20号
 昭和63年2月17日釧高専達第2号 平成10年2月16日釧高専達第13号
 平成14年2月18日釧高専達第22号 平成14年3月1日釧高専達第41号
 平成16年3月31日釧高専達第11号 平成19年3月27日釧高専達第16号
 平成21年3月26日釧高専達第12号 平成22年4月28日釧高専達第4号
 平成23年3月28日釧高専達第43号 平成26年4月30日釧高専達第1号
 平成28年3月23日釧高専達第27号

(設置)

第1条 釧路工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、校長の諮問機関として教務委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(審議事項)

第2条 委員会において審議する事項は、次のとおりとする。

- 一 学校行事等に関する事項
- 二 教育課程の編成及び実施に関する事項
- 三 入学、転学、転科、進級及び卒業に関する事項
- 四 授業評価に関する事項
- 五 教育内容及び教育方法等の改善のための研修に関する事項
- 六 教育環境の改善に関する事項
- 七 その他教務に関する重要事項

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 教務主事及び教務主事補
- 二 一般教育部門文系教員及び理系教員から各1名
- 三 分野教員から各1名
- 四 専攻長
- 五 学生課長
- 六 その他校長が必要と認めた者 若干名

(任期)

第4条 前条第二号及び第三号の委員の任期は1年とする。ただし、欠員が生じた場合の後任者の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 前項の委員は、再任を妨げない。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長は、第3条第一号に掲げる教務主事をもって充て、副委員長は委員の中から委員長が指名する。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(後略)

(出典 教務委員会規則)

資料 9 - 1 - ③ - 5

○釧路工業高等専門学校専攻科委員会規則
(平成 26 年 3 月 26 日釧高専達第 15 号)

改正 平成 28 年 3 月 23 日釧高専達第 40 号

(設置)

第 1 条 釧路工業高等専門学校に、校長の諮問機関として専攻科委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第 2 条 委員会において審議を行う専攻科に関する事項は、次のとおりとする。

- 一 教育課程に関する事。
- 二 教育計画及び授業時間の編成に関する事。
- 三 入学、退学、転学、休学、復学及び修了に関する事。
- 四 試験及び学業成績に関する事。
- 五 学生の進学及び就職に関する事。
- 六 その他専攻科の教務及び学生指導に関する事。

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 専攻科長
- 二 専攻長
- 三 副専攻長
- 四 一般教育部門長
- 五 学生課長
- 六 その他校長が必要と認めた者 若干名

(任期)

第 4 条 前条第六号委員の任期は 1 年とする。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

2 前項の委員は、再任を妨げない。

(委員長及び副委員長)

第 5 条 委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長は、第 3 条第一号に掲げる専攻科長をもって充て、副委員長は委員の中から委員長が指名する。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長は、委員会の審議事項を総括調整し、校長に報告するものとする。

4 副委員長は、委員長を補佐するとともに、委員長に事故あるときはその職務を代行する。

(議事)

第 6 条 委員会は、委員の 3 分の 2 以上が出席しなければ、議事を開くことができない。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第 7 条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求めて説明又は意見を聴くことができる。

(専門部会)

第 8 条 委員会に、専門的事項を審議及び調査するため、専門部会を置くことができる。

2 専門部会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第 9 条 委員会の事務は、学生課で処理する。

(雑則)

第 10 条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 28 年 3 月 23 日釧高専達第 40 号)

この規則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 専攻科委員会規則)

資料 9 - 1 - ③ - 6

○釧路工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則

(平成 26 年 3 月 26 日釧高専達第 16 号)

改正 平成 27 年 3 月 26 日釧高専達第 44 号 平成 28 年 1 月 27 日釧高専達第 9 号

(設置)

第 1 条 釧路工業高等専門学校に、校長の諮問機関として自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 自己点検・評価の基本方針に関する事
- 二 自己点検・評価の実施及び公表に関する事
- 三 その他自己点検・評価の実施に必要な事項

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 分野から各 1 名
- 二 一般教育部門から 1 名
- 三 事務部長
- 四 その他校長が必要と認めた者

(任期)

第 4 条 前条の委員の任期は 1 年とする。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

2 前条の委員は、再任を妨げない。

(委員長及び副委員長)

第 5 条 委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長は、第 3 条の委員の中から校長が指名する。副委員長は委員の中から委員長が指名する。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長は、委員会の審議事項を総括し、校長に報告するものとする。

4 副委員長は、委員長を補佐するとともに、委員長に事故あるときはその職務を代行する。

(議事)

第 6 条 委員会は、委員の 3 分の 2 以上が出席しなければ、議事を開くことができない。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第 7 条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求めて説明又は意見を聴くことができる。

2 委員会には総務課長及び学生課長が陪席する。

(事務)

第 8 条 委員会の事務は、総務課で処理する。

(雑則)

第 9 条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附則

1 この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

2 釧路工業高等専門学校評価専門委員会設置要項（平成 18 年 2 月 22 日校長裁定）は廃止する。

附則（平成 27 年 3 月 26 日釧高専達第 44 号）

この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附則（平成 28 年 1 月 27 日釧高専達第 9 号）

この規則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 自己点検・評価委員会)

資料9-1-③-7

○創造工学科の教育上の編成等に関する規則
(平成28年3月23日釧高専達第42号)

(目的)

第1条 この規則は、「釧路工業高等専門学校学則」(昭和40年8月9日釧高規第1号。以下「学則」という。)第7条及び第7条の2に基づき、創造工学科の学級の編成及び学級定員、コース及び分野の教育上の目的について、必要な事項を定めるものとする。

(学級数)

第2条 各学年の学級数は以下のとおりとする。

- 一 第1学年は、創造工学科に4つの学級を置く。
- 二 第2学年から第5学年は、創造工学科に5つの学級を置く。

(学級編成)

第3条 学級は同一の学年の学生をもって編成する。

- 2 1学級あたりの学生数は、第1学年においては、40人を標準とし、第2学年から第5学年においては、学則第7条第2項に規定する分野に配属された人数とする。ただし、在学する学生の人数に応じて1学級あたりの学生数を調整することができる。
- 3 各コース及び分野の標準配属人数は以下のとおりとする。

コース	配属人数	分野	配属人数
スマートメカニクスコース	60人	情報工学分野	30人
		機械工学分野	30人
エレクトロニクスコース	60人	電気工学分野	30人
		電子工学分野	30人
建築デザインコース	40人	建築学分野	40人

- 4 前項の規定にかかわらず、教育上有益と認めるときは、異なる分野の学生をもって学級を編成することができる。

第4条 各コースの教育上の目的は、次のとおりとする。

- 一 スマートメカニクスコースは、情報工学分野と機械工学分野を融合し、様々な機能を実現するために製品に組み込まれるコンピュータシステム技術、高度情報化社会を支えるプログラミング技術、人間と機械間の情報をやり取りや情報の流れを制御するためのシステム技術、人間と機械・システム間の橋渡しをするマンマシンインターフェース技術、機械とセンサーやコンピュータ技術を結合させて機械の高度化を図るメカトロニクス技術等を活用することができる、高度な技術者を育成することを目的とする。
- 二 エレクトロニクスコースは、電気工学分野と電子工学分野を融合し、電気エネルギー

(次頁へ続く)

資料 9 - 1 - ③ - 7 (続き)

一や計測制御と光・電子デバイス、電子制御と情報通信技術を学び、人々の安心・安全で豊かな生活を支えるために、社会基盤技術から情報通信技術までの幅広く全ての産業に貢献できる高度な技術者を育成することを目的とする。

三 建築デザインコースは、建築の「意匠と計画」「構造と材料」「環境と設備」に関する技術を学び、「使いやすさ」や「安全性」と共に、「空間の美しさ」を追求出来る高度な技術者を育成することを目的とする。

第5条 各分野の教育上の目的は、次のとおりとする。

一 情報工学分野は、スマートメカニクスコースの中で、特に大量の情報を効率よく「取得」「加工」「蓄積」「伝達」するなどの情報工学を中心とした技術者を育成することを目的とする。

二 機械工学分野は、スマートメカニクスコースの中で、特に「エネルギー」「情報」「機械材料」をつくり出す“ものづくり”などの機械工学を中心とした技術者を育成することを目的とする。

三 電気工学分野は、エレクトロニクスコースの中で、特に人々の暮らしを支える電気エネルギーの「生成」「伝送」「利用」などの電気工学を中心とした技術者を育成することを目的とする。

四 電子工学分野は、エレクトロニクスコースの中で、特に「電子デバイス」「情報通信」「電子制御」などの電子工学を中心とした技術者を育成することを目的とする。

五 建築学分野は、建築の「意匠と計画」「構造と材料」「環境と設備」に関する技術を学び、「使いやすさ」や「安全性」と共に、「空間の美しさ」を追求出来る高度な技術者を育成することを目的とする。

附 則

1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。

2 機械工学科、電気工学科、電子工学科、情報工学科及び建築学科に在籍する者で、創造工学科に入学した者と同一の学年に在学する場合は、第3条の規定にかかわらず、創造工学科の学級に配属し、第2学年から第5学年においては、以下のとおりとする。

一 機械工学科に在籍する者はスマートメカニクスコース機械工学分野

二 電気工学科に在籍する者はエレクトロニクスコース電気工学分野

三 電子工学科に在籍する者はエレクトロニクスコース電子工学分野

四 情報工学科に在籍する者はスマートメカニクスコース情報工学分野

五 建築学科に在籍する者は建築デザインコース建築学分野

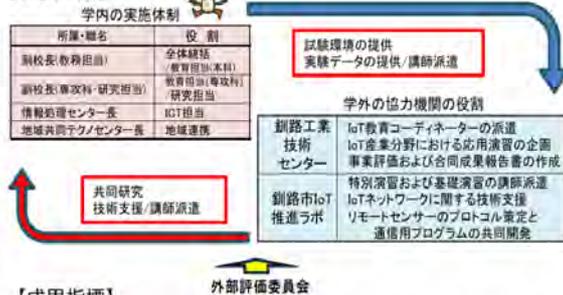
(出典 創造工学科の教育上の編成等に関する規則)

平成29年度“KOSEN（高専）4.0”イニシアティブ採択事業（主：新産業を牽引する人材育成、副：地域への貢献）
第4次産業革命を推進するIoT活用技術者の育成教育プログラム 釧路工業高等専門学校

【取組の目的、内容】

1. **全専門分野の全学生**を対象に、IoT活用社会における技術者養成を実現し、地域や産業界に輩出する。
2. 学生は、IoTデバイスの活用技術を身につけ、**卒業研究・専攻科特別研究**にて積極的に活用し**実践力を磨く**。
3. 地域の技術者に**IoT活用技術の再教育**を行い、釧路市IoT推進ラボを支援して、**地域の活性化に貢献する**。

【実施体制】



【工程表】

2017/07-	IoT専用ネットワークの敷設/教育プログラムの策定
2017/12	センサー等調達.工業技術センターとの演習内容の検討.
2017/10-	学内へのリモートセンサーの設置及びIoT導入マニュアル
2018/03	の作成及びデータ集積・活用・展開の試行. IoT教材の開発.
2018/01-	教育プログラム改善検討及び工業技術センターとの共同
2018/03	演習の試行.外部評価委員会による評価.
2018/04-	初級プログラム教育を開始。並行して卒業研究・専攻
2019/03	科特別研究での試行的なIoT活用の実践.企業との共同 研究の模索.地域技術者向け「公開講座」の実施. 教育プログラムの検証.

【成果指標】

- 初級プログラム（平成30年度：1年生160名）、中級プログラム（平成31年度：4年生160名）、
上級プログラム（平成32年度：5年生のうち、IoT技術を活用可能な卒業研究に取り組む学生）
の各段階において、必要な技術を身に付けた者をプログラム修了認定【各段階の対象学生全員（100%）】
- 企業や市民を対象にIoT活用に係る公開講座を新たに開講【受講者数：平成28年度：0名→平成30年度：30名】

【第4期中期目標期間への展開（見込み）】

- 平成32年度に完成する創造工学科をより高度化し、「スマートメカニクスコース」「エレクトロニクスコース」をIoT/M2M技術をより深く取り込む教育内容に再構築する。
- 既存技術を組み合わせ、ニーズに応じたIoTデバイスの設計・実装を重視し、高専の特色を生かした実践的技術者育成を目指し、AIやビッグデータの活用をより身近なものにすることで、真の第4次産業革命を推進する。

（出典 国立高専機構“KOSEN（高専）4.0”イニシアティブ平成29年度採択事業一覧

http://www.kosen-k.go.jp/main_super_kosen_4.0list.html）

平成29年度5月定例教務委員会議事録

日 時 平成29年5月2日（火）16時40分～19時25分

場 所 小会議室

出席者 11名 欠席者 1名

1. 報告事項

(中略)

(7) 達成度評価アンケートの集計結果について(資料6)

委員長から、資料6に基づき報告があり、委員へ分野への周知を行うよう依頼があった。

(8) 平成28年度原級留置・退学学生の原因(理由)調査について(資料7)

委員長から、資料7及び席上配布資料に基づき下記のとおり報告があった。

- ・道内4高専の原級・退学・除籍学生数は以下のとおりとなっている。

函 館：原級 8名，退学12名，除籍3名

苫小牧：原級 8名，退学18名，除籍0名

釧 路：原級49名，退学44名，除籍0名

旭 川：原級23名，退学24名，除籍0名

- ・本校の原級・退学の原因については、席上配布資料のとおりとなっている。
- ・資料7-3は、昨年度12月に教務委員会で審議了承され機構本部へ提出したものであるが、この中の「効果が見込まれる取組み」の大多数は機構本部より指定のあったものであった。この項目と資料7-2(機構本部3月企画委員会資料)を参考に資料7-4(今年度への申し送り事項)の2.の(1)を作成しており、この申し送りに基づいて資料7-1(本校の現状の赤点者数・率)を作成した。
- ・資料を作成した結果、現在の段階は「検討」ではなく「実施しなければならない段階」と考えている。

以上の報告を踏まえ、委員長から、各分野へ持ち帰り、改善のための提案等があれば5月31日までに学生課修学支援係へ報告願いたい旨依頼があった。また、このことを踏まえ委員から、以下のとおり確認・意見等があった。

- ・評価基準の見直し(60点を出すための基準等)をしてはどうか。
→制度変更は時間がかかるので難しい。教員個々ができる範囲で意見をいただきたい。

(委員長)

- ・席上配布資料の原級・退学の原因を見ていると、1年生はA(学力面で力が及ばなかった)が多く、2年生はB(高専での勉強に対する意欲が持てなかった)が多いが、これは未修得等の温情で上の学年へ上げた弊害が出ているのではと感じる。
- ・寮で先輩が後輩に勉強をさせている取組みがある。寮生と通学生の差を調べてみてはどうか。
→その他にも色々な取組みを行っているため、どの取組みの効果が出ているのか判断するのが難しい。(委員長)
- ・分野へ持ち帰りとのことだが、資料7-4の2の(1)の④～⑥について賛否を聞けば良いのか。

(次頁へ続く)

資料9-1-③-9 (続き)

→反対の表明だけされても困るので、反対する場合には別の具体的な提案を示して欲しい。(委員長)

・具体的な提案とは「誰がどのように」まで考えるのか。また、今年度途中からでも実施するのか。

→指導ということであれば、校長、教務主事、教務委員会が行うということになると思うが、別の提案があればいただきたい。並行して、他の高専がどのように行っているかも聞いて検討したい。(委員長)

(中略)

2. 審議事項

(1) 6月月間行事予定(案)について(資料8)

委員長から、資料8に基づき説明があり、審議の結果了承された。

(2) 平成29年度前期授業公開の実施(案)について(資料9)

委員長から、資料9に基づき説明があり、審議の結果了承された。

(3) 平成29年度地区懇談会の実施(案)について(資料10)

委員長から、資料10に基づき説明があり、審議の結果了承された。また、修学支援係主任から、保護者への案内は5月19日までに郵送で行うことから、分野等で同封物があれば5月12日までに学生課修学支援係に同封物を持参の上申し出て欲しい旨依頼があった。

(4) 第3期中期計画・年度計画(案)について(資料11)

委員長から、資料11に基づき説明があり、審議の結果了承された。

(5) 修了退学制度の見直し(案)について(資料12)

委員長から、昨年度委員会で検討していた修了退学制度について、これまでに出された意見等を踏まえて資料12のとおり見直し(案)を作成した旨説明があり、この見直し(案)について分野に持ち帰り検討の上、5月31日までに学生課修学支援係に検討結果を連絡願いたい旨依頼があった。合わせて、検討結果については「これでよい」「これをこう変えるべき」「これを加えるべき」等、建設的な内容にして欲しいとの依頼があった。

これに対し、委員から、以下のとおり確認があった。

・不利益を被る学生についてはやむを得ないとの考え方か。

→本来やらなければいけないことを実施するので不利益ということは本来当てはまらないように思うが、考え方によってはやむを得ないということになると思う。(委員長)

・実施時期はいつ頃からかを考えているのか。

→来年度の入学生から適用を考えているが、オープンになっていない内容のため来年度の在学学生から適用との考え方もあり、分野から出てきた内容により適用時期を検討したい。(委員長)

(後略)

(出典 平成29年度5月定例教務委員会議事録)

平成 29 年度 6 月 定例 教務 委員会 議事 録

日 時 平成 29 年 6 月 7 日 (水) 16 時 40 分 ~ 19 時 05 分
 場 所 小会議室
 出席者 11 名 欠席者 1 名

1. 報告事項

(中略)

(5) 平成 29 年度 前期 授業 公開 について

委員長から、レジュメに基づき前期授業公開の提出件数について報告があった。また、今回は非常に件数が少ないことから、後期は必ず全教員が実施するよう（着任 3 年以内で教員経験のない教員については必ず 3 件以上提出するよう）各分野等に周知依頼があった。

(中略)

2. 審議事項

(中略)

(3) 原級留置・退学学生の削減について (資料 8)

委員長から、資料 8 - 2 に基づき各分野等から提出のあった意見について説明があり、分野に各分野の意見を持ち帰り、更に検討を行った上で分野の意見を 6 月 30 日までに学生課修学支援係まで提出して欲しい旨依頼があった。

また、委員長から、資料 8 - 2 その他に記載の「テスト前の 1 週間に課題提出をさせること、宿題を出すことは禁止」という文言について、過去に学校としてルール化したものなのか、各分野において確認して欲しい旨依頼があった。

なお、委員長から、道内他高専の昨年度の退学者数・原級者数について報告があった。このことについて、委員から函館高専はなぜ退学者数・原級者数が減少したのか質問があり、委員長から、教員に赤点を出さないよう強く指導したこと、再試や口頭試問等の多様な評価を導入したことで減少したと聞いている旨説明があった。

(次頁へ続く)

資料9-1-③-10 (続き)

(中略)

(4) 修了退学制度の見直し(案)について(資料9)

委員長から、資料9-1に基づき各分野からの意見について説明があった。また、山田委員から、電子工学分野の意見は「意義・必要性を感じないので、修了退学制度の見直しは行わなくて良いのではないか。もし30点以上とするのであれば、バランスを取るため科目制限は廃止すべきではないか」との意見である旨説明があった。これに対し、山崎副委員長から、本件を議題とした昨年度以降何度も説明しているが、現在のエビデンスを残さずに点数を変更している方法は対外的にも問題があり、変更しなければならない問題である旨説明があった。

また、委員長から、修了退学の制度自体を廃止する意見も寄せられたが、本校の元々の考えとして、退学する学生に対し大学受験など次に繋がれることを目的としていると聞いていること、30点条項については30点を取れば良いと捉えている分野もあるようだが、30点以上が権利を行使できる条件の一つであって、あくまで60点に引き上げるエビデンスを残すことで60点とする案である旨説明があった。

以上を踏まえ、委員長から、再度分野へ持ち帰り意見を集約の上、6月30日までに学生課修学支援係まで提出して欲しい旨依頼があった。

(5) JABEEで要求する成績関係資料について(資料10)

委員長から、資料10は5月19日に開催されたJABEE対策室において審議決定された内容である旨の説明があり、審議の結果、資料10のとおり変更することです承された。

なお、本件については、5月定例専攻科委員会においても審議了承されている旨補足説明があった。

(後略)

(出典 平成29年度6月定例教務委員会議事録)

平成29年度12月定例教務委員会議事録

日 時 平成29年12月6日(水) 17時20分～19時55分
 場 所 小会議室
 出席者 12名 欠席者 0名

1. 報告事項

(中略)

2. 審議事項

(中略)

(3) 平成30年度情報リテラシーシラバスについて(資料6)

委員長から、前回委員会において分野等へ持ち帰り検討を行うこととなっていたが、分野等より特段意見がなかったため、資料6-2のとおり確定したい旨発議があり、審議の結果了承された。

(4) 原級留置・退学学生の削減について(資料7)

委員長から、今月はどの分野等からも意見がなかったが、随時意見があれば連絡願いたい旨依頼があった。

また、委員長から、本件で一定基準を下回った場合にはレポートの提出が義務付けられているが、レポートの提出がない教員がいる旨説明があり、分野等でレポートの提出を行うよう周知して欲しい旨依頼があった。

(5) 修了退学制度の見直し(案)について(資料8)

委員長から、前回委員会までの指摘等を受けて、資料8のとおり修正案を作成した旨説明があった。また、この件については分野等へ持ち帰り審議の上、12月27日までに学生課修学支援係まで審議結果を連絡するよう依頼があった。

また、松崎委員から、この件については教員会議でかけて欲しいとの意見が一般教育部門内で出ている旨話があり、委員長及び副委員長から、前回委員会までも何度か説明済みだが、本件は修了退学の本質を変更するわけではなく、エビデンスを作るルールを決めるだけの内容となっており、教員全体で議論を行うような内容ではないと考えている旨回答があった。

(後略)

(出典 平成29年度12月定例教務委員会議事録)

資料9-1-③-12

平成29年度1月定例教務委員会議事録

日 時 平成30年1月16日（火）17時20分～19時35分
 場 所 小会議室
 出席者 10名 欠席者 2名

1. 報告事項

(中略)

(5) 後期授業公開の実施結果について

委員長から、レジュメのとおり実施結果について説明があった。

なお、11月委員会において、本授業公開はJABEE審査のPDCAの観点からも必要であることから、必ず全員が参加するよう教務委員より周知をお願いしていたところだが、分野間で大きな偏りがあり、現状は学校としてよろしくない状況であることから、必ず実施するよう各分野等で周知願いたい旨依頼があった。

(中略)

2. 審議事項

(中略)

(3) 原級留置・退学学生の削減について（資料5）

委員長から、今委員会においてはどの分野等からも意見がなかった旨説明があり、原案を確実に実施していくことが確認された。

併せて委員長から、学年末試験まで残り3週間程度となっているが、進級・卒業に向けて指導いただくよう依頼があった。

(4) 修了退学制度の見直し（案）について（資料6）

委員長から、資料6-1の電気工学分野からの意見について、(1)④については変更し、(2)④については、進級認定会議の翌日まででは日程的に難しいことから、電気工学分野案と執行部案の間を取り「進級認定会議翌日を1日目と数えた平日稼働日の5日目」とすることでどうかとの提案があった。

また、本案については、再度分野等へ持ち帰り、2月に了承いただければ、以前に電子工学分野から要望のあった文言整理を行い、平成30年度から全対象学年に適用したい旨説明があった。

松崎委員及び木村委員から、一般教育部門において数度に渡って提案している「本件は教員会議で議論すべき」との意見について、委員長及び副委員長から「本件は修了退学の本質を変更するわけではなく、エビデンスを作るルールを決めるだけの内容となっており、教員全体で議論を行うような内容ではない」との回答が出ているが、一般教育部門の教員より再度同様の要望があり、委員長に対応をお願いしたい旨依頼があった。これに対し委員長から、意見があった一般教育部門の教員と直接話す場を設ける旨回答があった。

(後略)

(出典 平成29年度1月定例教務委員会議事録)

6月定例専攻科委員会議事録

日 時 平成29年6月22日(木) 16時40分～16時53分

場 所 小会議室

出席者 9名 欠席者 1名

1. 報告事項

(1) 学生の修学状況について

委員長から、資料1に基づき報告があった。

(2) その他

特になし。

2. 審議事項

(1) 専攻科経費について

委員長から、学生の学会発表にかかる引率旅費支援について資料2に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

(2) 釧路工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則の一部改正(案)について

委員長から、平成22年12月定例教務委員会において、学業成績の評語について審議了承され、内規が改正された。その際に「専攻科の授業科目の履修等に関する規則」の改正が漏れていたことから、資料3のとおり改正したい旨の説明があり、審議の結果、了承された。

なお、委員長から、平成22年度入学生から既に新しい評語にて対応している旨の補足説明があった。

(3) その他

特になし。

3. その他

(1) 平成29年度道内国立高専教務主事・専攻科長会議の開催について

委員長から、レジュメに基づき説明があり、協議題や承合事項があれば7月21日(金)までに専攻科長又は修学支援係へ連絡願いたい旨の説明があった。

(2) その他

・委員長から、6月15日に1回目の学位授与申請ガイダンスを実施したこと及び8月上旬の夏休み前に2回目の実施を予定している旨の報告があった。

・委員から、9月からフィンランドに留学する2S学生の学位授与申請スケジュールについて質問があり、委員長から、確認の上、後日指導教員及び該当学生へ連絡する旨の回答があった。

(出典 平成29年度6月定例専攻科委員会議事録)

資料9-1-③-14

平成29年度 第1回 自己点検・評価委員会

目 時：平成29年5月25日（木） 16時40分 ～ 17時50分

場 所：小会議室

出席者：8名

欠席者：なし

【配付資料】

- ・ 自己点検・評価に関するアンケート（案） (資料1)
- ・ 基準4・基準5・基準6 (資料2)
- ・ 平成29年度 自己点検・評価委員会 スケジュール（案） (資料3)

議 題

【報告事項】

1. 昨年度の活動について

委員長から、昨年度の活動について、機関別認証評価の基準1から基準3に係る自己点検・評価に関する資料作成を行い、取りまとめた旨報告があり、さらに各委員会や室で利用可能な自己点検評価表を作成し、各委員長・室長へ配布した旨、併せて報告があった。

【審議事項】

2. 今年度の活動計画について

(資料1～3)

委員長から、今年度の活動計画について以下のとおり提案があり、審議の結果了承された。

- ・ 資料1について、各委員長または室長に対し配付し意見を求めたい。
 なお、アンケート結果については、次回委員会（7月下旬予定）で報告したい。
- ・ 資料2について、当初今年度は基準4から基準6の部分についての自己点検・評価に係る点検作業を検討していたが、基準5の項目が多いことから、副委員長と協議した結果、今年度については基準4から基準5の部分について自己点検作業を行いたい。
- ・ 資料2に係る各基準の自己点検作業について、基準4については「岡委員（一般）」「樋口委員（機械）」が、基準5については「中村委員（電子）」「柳川委員（情報）」「本田委員（電気）」「佐藤委員（建築）」がそれぞれ分担のうえ資料作成願いたい。
- ・ 委員長については資料作成には加わず、全体の調整と取りまとめを担当したい。
- ・ 年間スケジュールについては、資料3のとおりとしたい。

3. その他

特になし

以上

(出典 平成29年度第1回自己点検・評価委員会議事録)

(分析結果とその根拠理由)

本校の教育の改善のため、運営会議、教務委員会、専攻科委員会、および自己点検・評価委員会を設置しており、教育課程・組織の改編、授業公開・評価の実施、自己点検・評価の実施、等を検討実行している。

以上により、各種の評価の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるような組織としてのシステムが整備され、教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられている。

観点 9-1-④： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。
また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点に係る状況)

毎学期、学生に対して授業評価アンケート(資料 9-1-④-1)を実施している。この調査では、各教員・授業科目について、授業内容、授業姿勢、授業技術、等が質問されている。そして、教員はこの調査結果に対して自己評価するとともに、授業の改善案(資料 9-1-④-2)を検討している。これらの実施状況については教務委員会に報告されている。さらに、本校はこれらの調査結果・改善案を集約し、学生向けウェブサイト上に開示している。

10月定例教務委員会
H29.10.5
資料 8

平成 29 年度授業評価アンケート実施要項 (案)

1. 目的
授業内容・方法及び学生自身の授業への取り組み等について学生に意見を求めるとともに、教員自身も自己分析することで授業の質的向上を図る。
2. 対象学生
本科、専攻科全学生
3. 実施対象科目
 - ・本科
各教員の開講科目のうち、専攻科科目を含めた1科目から複数科目を各教員が選択し、アンケート対象科目とする。
(ただし、留学生科目、学外実習、卒業研究を除く。)
 - ・専攻科
総合英語 I、日本語表現技法、システム工学、技術者倫理
4. アンケートの実施方法
各クラスの担任が引率・指導により、パソコンの設置されている教室にて web 画面から入力する。
5. アンケートの実施時期
後期補講期間にアンケート記入期間を設ける。
各クラスの実施時間は修学支援係から、各担任へ通知する。(専攻科学生においては、ポータルサイトにて通知する。)
6. アンケート項目

番号	内 容	項目分類
1.	授業は、シラバスに記載された授業項目や到達目標等に沿って行われた。	シラバスと授業の整合性
2.	成績評価は、シラバスに記載された方法で行われた。	
3.	授業は、教員の熱意が感じられるものだった。	教員の授業に対する姿勢
4.	授業では、教員の話し方や声の大きさが明瞭で聞き取りやすいものだった。	
5.	授業では、教員は私語、居眠りなどを行っている学生に対して適切に注意指導を行った。	
6.	授業は、学生を参加させるなど、興味関心を引き出すような工夫がなされていた。	教員の授業技術
7.	授業は、教員の説明や教材の利用が適切で、授業内容を理解しやすかった。	
8.	自分は、この授業に意欲的に受講していた。	学生の授業に対する姿勢
9.	自分は、課題・レポート等の提出、小テストに対する事前学習、授業の予習などを適切に行った。	
10.	この授業のレベルや進度は、自分にとって適切であった。	学生と授業内容のマッチング
11.	テストや演習、課題の難易度は、自分にとって適切であった。	
12.	この授業を受けることで、この教科や分野に関する興味関心が増した。	

7. ステップアップ提案書の作成
教員は、学生の授業評価アンケートを受け、授業の質向上のため、ステップアップ提案書を作成し、学生課修学支援係へ提出する。
なお、ステップアップ提案書の作成要領については、別に定める。
8. 公表方法
学生の授業評価アンケート及びステップアップ提案書を学内 web にて公開する。

(出典 平成 29 年 10 月定例教務委員会資料)

資料 9 - 1 - ④ - 2

「授業評価アンケート結果・ステップアップ提案書の例」

平成29年度 ステップアップ提案書 結果表示

2018.12.17.mon

専攻科 2年 建設生産・電子情報 【技術者倫理】

分類	No.	質問	1	2	3	4	5	計	平均
シラバスと授業の整合性	1	授業は、シラバスに記載された授業項目や到達目標等に沿って行われた。 1.強くそう思わない[0%] 2.そうは思わない[0%] 3.どちらともいえない[0%] 4.そう思う[60%] 5.強くそう思う[33%]	0	0	0	10	5	15人	4.3
	2	成績評価は、シラバスに記載された方法で行われた。 1.強くそう思わない[0%] 2.そうは思わない[0%] 3.どちらともいえない[0%] 4.そう思う[60%] 5.強くそう思う[33%]	0	0	0	10	5	15人	4.3
教員の授業に対する姿勢	3	授業は、教員の熱意が感じられるものだった。 1.強くそう思わない[0%] 2.そうは思わない[0%] 3.どちらともいえない[0%] 4.そう思う[60%] 5.強くそう思う[33%]	0	0	1	9	5	15人	4.3
	4	授業では、教員の話し方や声の大きさが明瞭で聞き取りやすいものだった。 1.強くそう思わない[0%] 2.そうは思わない[0%] 3.どちらともいえない[13%] 4.そう思う[53%] 5.強くそう思う[33%]	0	0	2	8	5	15人	4.2
	5	授業では、教員は私語、居眠りなどをしている学生に対して適切に注意指導を行った。 1.強くそう思わない[0%] 2.そうは思わない[0%] 3.どちらともいえない[6%] 4.そう思う[60%] 5.強くそう思う[33%]	0	0	1	9	5	15人	4.3
教員の授業技術	6	授業は、学生を参加させるなど、興味関心を引き出すような工夫がなされていた。 1.強くそう思わない[0%] 2.そうは思わない[0%] 3.どちらともいえない[0%] 4.そう思う[53%] 5.強くそう思う[46%]	0	1	0	8	6	15人	4.3
	7	授業は、教員の説明や教材の利用が適切で、授業内容を理解しやすかった。 1.強くそう思わない[0%] 2.そうは思わない[0%] 3.どちらともいえない[6%] 4.そう思う[60%] 5.強くそう思う[33%]	0	0	1	9	5	15人	4.3
学生の授業に対する姿勢	8	自分は、この授業に意欲的に受講していた。 1.強くそう思わない[0%] 2.そうは思わない[0%] 3.どちらともいえない[0%] 4.そう思う[60%] 5.強くそう思う[33%]	0	0	1	9	5	15人	4.3
	9	自分は、課題・レポート等の提出、小テストに対する事前学習、授業の予習などを適切に行った。 1.強くそう思わない[0%] 2.そうは思わない[0%] 3.どちらともいえない[6%] 4.そう思う[60%] 5.強くそう思う[33%]	0	0	1	9	5	15人	4.3
学生と授業内容のマッチング	10	この授業のレベルや進度は、自分にとって適切であった。 1.強くそう思わない[0%] 2.そうは思わない[0%] 3.どちらともいえない[0%] 4.そう思う[60%] 5.強くそう思う[33%]	0	0	1	9	5	15人	4.3
	11	テストや演習、課題の難易度は、自分にとって適切であった。 1.強くそう思わない[0%] 2.そうは思わない[0%] 3.どちらともいえない[6%] 4.そう思う[60%] 5.強くそう思う[33%]	0	0	1	9	5	15人	4.3
	12	この授業を受けることで、この教材や分野に関する興味関心が増した。 1.強くそう思わない[0%] 2.そうは思わない[0%] 3.どちらともいえない[6%] 4.そう思う[60%] 5.強くそう思う[33%]	0	0	1	9	5	15人	4.3
分類	No.	質問	1	2	3	4	5	計	平均
		質問1～12の平均	0%	0%	5%	60%	33%		4.3
学生の意見・感想									
グループ活動が少数のメンバーしか活動していなかったため、対策を行なってほしい									
これより下は教員の記述									
授業の改善案（具体的、簡潔に）									
課題の背景を解りやすくする。班をもっと少人数にする。									
現状分析（下記アンケート結果、公開授業評価を含む）をふまえた上記の補足・理由									
多くの学生が実稼働させるようにするため。									
自己採点（教員自己評価アンケート）との相違などについてご意見がございましたらお書き下さい。									
興味を引き出す工夫が必要と感じた。									
意見・感想									
学生の取り組みの差が大きい。									

黄色の部分は教員の回答

終了 教科目選択一覧

学生課 修学支援係 7222 kyoumug@office.kushiro-ct.ac.jp

(出典 <http://cixc4.aec.kushiro-ct.ac.jp/step/>)

(分析結果とその根拠理由)

教員は毎学期の授業評価により改善案を検討している。また、評価結果・改善案は教務委員会に報告されるとともに、学生に対しても開示している。

以上により、個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っている。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握している。

観点 9-1-⑤： 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

(観点に係る状況)

教員・技術職員の学術研究の他、教員の指導による学生の卒業研究・特別研究についても、学外発表等を奨励している。これらの活動実績については、毎年度の目録（資料 9-1-⑤-1）を本校の紀要に掲載している。

平成 28 年度の実績の特徴を例示しておく。まず、著書の 2 件については、授業用教科書として、どちらも本校において利用しているだけでなく、内 1 件は他の複数の教育機関でも採用されている。また、表彰の 2 件については、どちらも教育関連の研究テーマであり、全国規模の学会から各賞が授与されている。

なお現状としては、これらの研究活動による教育改善の検証までは実施できていない。

資料 9 - 1 - ⑤ - 1

平成29年度 研究活動調査票

【期間：平成28(2016)年10月1日～平成29(2017)年9月30日までの1年間】

1. 著書

*外国著書・*共同研究者

氏名	書名	頁数	出版社名	発行年月日
藤本 一司	「論理と存在哲学」 「存在」と「存在論」	222	北條出版	2017.1.15
松平 孝太郎, 山本 寛, 柳川 和隆, 鈴木 一史, 星 和雄, 羽入 敏樹*	POV-Boxで学ぶはじめての3DCG制作について	145	講談社サイエンスイテイク	2017.2.15

2. 論文・調査研究報告

氏名	論文名	掲載誌名	巻号・頁	発行年月日
岸 徳光, 小室 雅人*, 柴崎 裕介*, 三上 浩*, 船橋 俊史*	AFRiPoTで下層埋設配線基盤BC梁の耐衝撃性向上効果に関する実験的検証	構造工学論文集	Vol. 63A, pp. 1189-1200	2017.3
柴崎 裕介*, 今野 弘志*, 三上 浩*, 岸 徳光, 船橋 俊史*	埋設梁の異なる層厚BC梁のAFRiPoT埋設による耐衝撃性向上効果	構造工学論文集	Vol. 63A, pp. 1177-1187	2017.3
柴崎 裕介*, 永田 真成*, 岸 徳光, 船橋 俊史*	床下布設したBC梁の耐衝撃性能と存在耐力に関する実験的研究	構造工学論文集	Vol. 63A, pp. 1237-1244	2017.3
Ahmed, A.* and Kishi, N.*	Machine three-parameter power model to predict moment-rotation curve of prep- and cast-in-place concrete	American Journal of Civil Engineering	Vol. 2, No. 1, pp. 59-69	2017.1
岸 徳光, 柴崎 裕介*, 小室 雅人*, 三上 浩*	CFRPシートを用いた下層埋設配線埋設梁の耐衝撃性能向上効果	コンクリート工学年次論文集	Vol. 39, No. 2, pp. 1147-1152	2017.7
松本 桂史*, 岸 徳光, 柴崎 裕介*, 三上 浩*	CFRPシート接着工法を用いた埋設配線埋設梁の耐衝撃性能向上効果	コンクリート工学年次論文集	Vol. 39, No. 2, pp. 577-582	2017.7
足井 哲哉*, 岸 徳光, 小室 雅人*, 柴崎 裕介*	AFRiPoTで前洋埋設したBC梁の耐震応答解析	コンクリート工学年次論文集	Vol. 39, No. 2, pp. 583-588	2017.7
船橋 俊史*, 小室 雅人*, 足井 哲哉*, 岸 徳光	震害調査事例から見たBC梁の耐衝撃性能向上効果に関する実験的検証	コンクリート工学年次論文集	Vol. 39, No. 2, pp. 619-624	2017.7
松本 桂史*, 川原 誠司*, 小室 雅人*, 岸 徳光	ソールセム工法を用いた埋設配線埋設梁の耐震応答解析	コンクリート工学年次論文集	Vol. 39, No. 2, pp. 637-642	2017.7
佐藤 裕二*, 西 弘明*, 柴崎 裕介*, 岸 徳光	帯状付着埋設梁を用いたコンクリート製埋設梁の適用範囲に関する検討	コンクリート工学年次論文集	Vol. 39, No. 2, pp. 643-648	2017.7
山澤 文雄*, 今野 弘志*, 小室 雅人*, 岸 徳光	高層地盤からなる帯状付着埋設梁の耐震応答解析	コンクリート工学年次論文集	Vol. 39, No. 2, pp. 649-654	2017.7
渡辺 博文	The Dirichlet horizon and ghost interactions in Euclidean gauge theories	Progress of Theoretical and Experimental Physics	2017.2.9, 022004	2017.2.1
小田 基永有	「国語の授業における読者の視点から」	日本国語学会誌	22-2号, pp.19-31	2017.3.30
小田 基永有	「道志を伝える人間」-松本樹利蔵の「月夜」について	「新書春秋」	78号, pp.119-126	2017.3
小田 基永有	自己と他者との関係性-「天草の夜」における読者の視点から	『文学研究』	第118号, pp.23-34	2017.7
小田 基永有	三浦透子論(下)-「結末の箱」-	国語工業高等専門学校紀要	第50号, pp.1-10	2017.1.31
小田 基永有	松本樹利蔵の「月夜」-「結末の箱」-	国語工業高等専門学校紀要	第50号, pp.11-20	2017.1.31
藤下 雅志	大宮宮内省御用掛「関谷はすむの連判」	国語工業高等専門学校紀要	第50号, pp.21-32	2017.1.31
田村 聡子	定説の再検討-「関谷はすむの連判」-	国語工業高等専門学校紀要	第50号, pp.33-38	2017.1.31
田 藤之	The local kernel method for the tempered distribution on the	国語工業高等専門学校紀要	第50号, pp.39-43	2017.1.31
Nobuyuki Ishizuka*, Koichi Muraizumi*	Multi-loop amplitudes of light cone gauge N=4 string theory in noncritical dimensions	Journal of High Energy Physics	01(2017)034 pp.1-30	2017.1.9
小久保 誠一	エネルギー教育で用いられる、異種形モデルの埋設梁-応答特性を解析する手法	国語工業高等専門学校紀要	第50号, pp.107-110	2017.1.31
貫口 大	非線形力学系における軌道保存関数について	国語工業高等専門学校紀要	第50号, pp.111-114	2017.1.31
佐藤 裕	An L1 theory for scalar conservation laws with multiplicative source in a periodic domain	国語工業高等専門学校紀要	第50号, pp.145-151	2017.1.31
木村 実利, 中島 徹子	Parallel Algorithm for Constructing a Spanning Tree on a Certain Class of Circle Truncated Graphs	国語工業高等専門学校紀要	第50号, pp.153-160	2017.1.31
Hiroshi Hasegawa, Yoko Nakajima, Sigeru Masuyama*	An Algorithm for Hinge Vertex Problem on Circular Truncated Graphs	Journal of Information Processing	Vol.25, pp.945-948	2017.12
古川 昭雄, 伊藤 孝博, 山田 昌博, 小野 一人, 林 祐樹	3D-Draw2Dによる屋内目録発行システムの構築	国語工業高等専門学校紀要	第50号, pp.161-166	2017.1.31
Yoko Nakajima, Michal Prazdnyk*, Hiroshi Hasegawa, Fumio Masuy*	Automatic extraction of feature subspaces from non-linear morphological systems with application to language prediction	Volume 2, Issue 4, Summer Newsletter of ACM	2316, Pages 13-15	2016.12
Michal Prazdnyk*, Fumio Masuy*, Yoko Nakajima, Yasuhiro Kimura*, Ralf Riepeke*, Kenji Arita*	A Method for Detection of Hamiltionian (Internal) School Webpages with Morphological Features	Journal of Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informatics (JACII)	Vol.21, No.6, in press	2017.11
高橋 剛, 大谷 利水, 岩井 謙*	国語工業高等専門学校を対象としたMOOCの構築	国語工業高等専門学校紀要	第50号, pp.167-170	2017.1.31
川村 浩志, 林 祐樹, 森 太郎, 藤原 孝一, 千田 裕隆, 野口 孝文, 岩井 謙*, 内藤 洋*	北方型住宅向けエネルギー管理システムの構築	国語工業高等専門学校紀要	第50号, pp.171-170	2017.1.28
岸 徳光	国語工業高等専門学校に関する研究	国語工業高等専門学校紀要	第50号, pp.101-100	2017.1.31
Masaru Sano*	2016 IJEC International Conference on Electrical Machines and Systems	2016 IJEC International Conference on Electrical Machines and Systems		2016.11
佐田 正史	定常系に於ける局所的な安定性の研究	理学部紀要		2017.7
和田 匠(氏名)	クワッドロボットの制御のためのフットコンシステム	情報処理技術者大会2016 講演論文集	pp.68-73	2016.10.2
和田 匠(氏名)	クワッドロボットの制御のためのフットコンシステム	平成28年度 電気情報関係学会北海道支部連合会 講演論文集	pp.116-117	2016.11.3
後水 仁, 加藤 明史*, 森 太郎*	国語工業高等専門学校に関する研究-国語工業高等専門学校紀要	国語工業高等専門学校紀要	第50号, pp.171-175	2017.1.31

(次頁へ続く)

資料 9 - 1 - ⑤ - 1 (続き)

浅水 仁(共著)	Human-centered Video Feature Selection via mRMR-SCMCCA for Feature Extraction	IEICE Transactions on Information and Systems	Vol. E99-D, No.2, pp.409-413	2017.2
N. Saito*, T. Otsuka*, S. Aizawa and M. Hasegawa*	A Feature Category Classification Method Based on Estimation of Relative Distance	2016 IEEE 9th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE)	pp. 52-53	2016.10.11
泉野佑輔*, 森 太郎*, 浅水 仁	魚目混珠を判別した日時時間推定システムの開発に関する報告	第9回東北産学連携シンポジウム2016	No.18, pp.84-89	2016.10.02
泉野佑輔*, 森 太郎*, 浅水 仁	魚目混珠を用いた局所的な日時時間推定に関する報告	第50号 工学部専門学雑誌	第50号, pp.75-78	2017.1.31
戸宮 寿之, 田原和哉*, 関根 尚希*	高橋基幹館における情報提供サービスのための予約システム構築について	第50号 工学部専門学雑誌	第50号, pp.79-82	2017.1.31
堤川 以夫*, 前田 進*, 戸宮 寿之	ネットワークワークを用いた土曜日の混雑度による利用禁止向け予約管理アプリケーションの開発	第50号 工学部専門学雑誌	第50号, pp.85-86	2017.1.31
戸宮 寿之(共著)	車行中の足さじの加速度に及ぼす影響	理学療法科学	32巻4号, pp. 519-522	2017.8
Masano Yamada, Orié Doeda, Akihito Matsuo, Yusuke Hara*, Kyoko Mine*	A Rhythm Practice Support System with Annotation-free Real-time Onset Detection	International Conference on Advanced Informatics (ICAAI2017)		2017.8.17
高 義利	非定常電流下における交流抵抗率の推定 - 交流電圧測定システムの開発 -	第50号 工学部専門学雑誌	第50号, pp.87-90	2017.1.31
高 義利(共著)	人体の静電気流に対する電場と安全性評価	電気学会論文誌A(情報・材料・系統部門)	Vol. 137 / No. 1, pp.229-235	2017.1
大前 浩平	マンアールコンピュータ演習 への無化移形機に関する報告	第50号 工学部専門学雑誌	第50号, pp.91-91	2017.1.31
森 太郎*, 堤川 以夫*, 栗原 浩平, 原田 敏夫, 南 慎一*, 竹内 真一*	非定常における電圧変動を抑制する制御システムの開発	日本電機学会技術報告	Vol.25, No.52, pp.1924-1929	2016.10.20
K.Suzuki	Elastic Bending Analysis of Single-Supported RC Beam by Salween Meca	Proceedings of 11th International Symposium Between Japan, China and Korea on Performance Improvement of Concrete for Long-Span Structure	pp.177-180	2017.6
二百 聡志	特許技術コミュニケーションの手法と方法論	第50号 工学部専門学雑誌	第50号, pp.95-96	2017.1.31
石塚 和典	平成27年度国土高等専門学校職員業務研修参加報告	第50号 工学部専門学雑誌	第50号, pp.97-100	2017.1.31
石塚 和典	連日連続降雪による道路構造物における孔食地盤の調査と対策	総合技術研究会2017東京大会	CD-ROM	2017.7.10
石塚 和典	非定常電流下における交流抵抗率の推定に関する報告	北海道支部第55回講演会	No.172, pp.49-50	2017.8.23
楠野 栄, 千田 和範, 野口 幸文	拡張現実を用いた学習者間の知識習得を支援するアプリケーションシステムの開発	信学技報教育工学No.418, No.418, pp.3-6		2017.1.28
楠野 栄, 千田 和範, 野口 幸文	学生の学業的意欲を支援する実践型学習アプリケーションシステムの開発	第12回ISSE全国大会	第42回全国大会講演論文集, pp.83-84	2017.8.23~8.28

3. 講演

氏名	講演題目	発表誌名	発行年月	大会名・講演題目・講演場所
Furukashi, Y., Mikami, H., Komuro, M.* and Kishi, N.*	Effect of shear volume on impact resistant capacity of RC beam strengthened with FRP sheet	Proceedings of the 7th CCCE2016	CD-ROM	7th CCCE2016, Dec. 14-16, 2016, HongKong, China
Kishi, N., Komuro, M.*, Kiritahsi, Y.* and Mikami, H.*	A upgrading effects of near-surface treatment of Aramid fiber reinforced polymer rods on impact resistant capacity of reinforced concrete beams	Proceedings of ROCEX2017	pp. 419-432 (CD-ROM)	ROCEX2017, May 22-24, 2017, Barcelona, Spain
Yamawata, F.*, Kuro-No, H.*, Kishi, H.*, Kishi, N., Komuro, M.* and Kiritahsi, Y.*	An examination on the influence of certain parameters on three-dimensional dynamic frame analysis for a residual protective gallery	Proceedings of ROCEX2017	pp. 457-460 (CD-ROM)	ROCEX2017, May 22-24, 2017, Barcelona, Spain
Furukashi, Y., Komuro, M., Kishi, N., Saitohierary, K.* and Kawata, T.*	Prediction and conclusions of FE-simulation for tubular impact test on protection gallery	Proceedings of ROCEX2017	pp. 473-476 (CD-ROM)	ROCEX2017, May 22-24, 2017, Barcelona, Spain
千田 和範	作業中の学業者の「思い」を前半に込める一歩本業の「思い」を後半に込める	北海道中小企業家同友会幹部大会		2017.2.10 釧路市
千田 和範	この中に「はなさない」とは「はなさない」が「はなさない」の「はなさない」	「国語を学ぶ会」		2017.3.25 北海道教育大学釧路校
千田 和範	再編委員会報告書(第1編)の報告	2017年度日本近代文学会北海道・東北地区合同研究集会		2017.7.29 函館市海防校

(次頁へ続く)

資料 9 - 1 - ⑤ - 1 (続き)

大石 玄	男女共同参画は女子抜き学生抜きで	全国高専フォーラム	ポスター発表	2017.8.02	長岡技術大
大石 玄	翻訳・香川高専連携による技術者倫理教育の一歩	日本高専学会	日誌発表	2017.9.03	米子高専
小久保 優一	工業高校の特色を生かした理科教育の取り組み	平成28年度日本理科学教育北海道支部大会	研究発表要旨集	2016.1	北海道教育大学札幌駅前キャンパス
本間実利, 中島陽子, 増山 繁*	区間グラフにおける最大影響度変位点問題とその解法	日本オペレーションズ・リサーチ学会	2017年夏季研究発表会	2017.3	那覇市
Michal Praszynski*, Yuka Ito*, Hirotochi Honma, Yoko Nakajima, Fumio Masui*	Combining Multiple Dictionaries to Improve Tokenization of Asian Language	The 31st Annual Conference of the Japanese Society for Artificial Intelligence		2017.5	名古屋大
上江田 誠枝, 林新樹, 山田昌尚, 横世賢宏, 宮尾秀俊*	授業補助のために板書の一部を提示し続ける支援表示システムHedgeの概要	第16回情報科学技術フォーラム	講演論文集第4分冊pp.277-278	2017.9	東京大学
関口 育菜*, 中島陽子, 本間実利, 柳井 文人*	類似度と連想度を用いた発音表現判定に関する研究	言語処理学会第23回年次大会		2017.3	筑波大学
若瀬 翔太*, 中島陽子, 本間実利, 増山 繁*	ユーザー評価を用いた使用商品情報抽出システムの開発	言語処理学会第23回年次大会		2017.3	筑波大学
Hisobuchi*, Yoko Nakajima, Hirotochi Honma, Tomoyoshi Akiba*, Shigeru Masuyama*	Proposal of Recommender System Based on User Evaluation and Cosmetic Ingredients	International Conference on Advanced Informatics: Concept Theory and Applications (ICACTA 2017)		2017.8	Bali
Yoko Nakajima, Michal Praszynski*, Hirotochi Honma, Fumio Masui*	A Prototype Method for Future Event Prediction Based on Future Reference Sentence Extraction	Linguistic and Cognitive Approaches To Dialogue Agents (LANGATODIA 2017)		2017.8	McBoone
鈴木 未央	Application of Musical Expression Generation System to Learning Support of Musical Representation	the 9th Eurosim Congress of Modeling and Simulation	pp.1004-1009, Oulu,	2016.10.4	
高橋 剛(共著)	Joining characteristics and residual stress characteristics of friction welding between dissimilar shapes and dissimilar materials	ICMMP 2017, USC, (ASME/JSME joint conference)		2017.6.5	Los Angeles, CA, USA
高橋 剛(共著)	SUS304異種鋼板の孔食に及ぼす凍結融解食環境の影響と表面処理による耐食性向上	日本機械学会北海道支部第54回講演会		2016.10.29	苫小牧高専
高橋 剛(共著)	管状圧縮による異種接合材の残留応力に及ぼす荷重の影響	日本材料学会 第66期連帯総会・学術講演会		2017.5.27	名城大学
高橋 剛(共著)	正寒北木材の腐朽に対する曲げ強度, 曲げタネープ, 曲げ後劣化特性の有効性	日本機械学会2017年度年次大会		2017.9.5	埼玉大学
高橋 剛(共著)	リン二相系ステンレス鋼の過熱環境下における耐食性および加工性評価	日本機械学会2017年度年次大会		2017.9.6	埼玉大学
高橋 剛(共著)	全駆アームを有する小型船舶の船殻設計に対するデジタルエンジニアリングの有効性検討	日本機械学会北海道支部第54回講演会 No.172-2pp.23-24		2017.9.23	釧路高専
種口 泉(共著)	曲げモーメントを受ける異種積層材材の応力と強度	日本機械学会北海道支部第54回講演会		2016.10.29	
種口 泉(共著)	並珠のセルロイドボールとプラスチックボールの反発比較	日本機械学会北海道支部 北海道学生会第48回学生員卒業研究発表講演会		2017.3.4	
Atsuhiko Kawamura and Tamio Iida*	Study on Clinker Formation Mechanism of High Ash Content Biomass Solid Fuel	Proceedings Venice2016, Sixth International Symposium on Energy from Biomass and Waste,		2016.11.15	
川村 淳浩, 遠藤 隆*	カセットガス式可搬型エンジン発電機の排気ガス特性に関する調査研究	自動車技術会2016年秋大会学術講演会講演予集集	pp.876-881	2016.10.20	札幌
村田博敏*, 川村淳浩, 井田民男*	石炭コークス焼却時代に向けた数値的解析の行方に関する考察	第33回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス		2017.2.2	東京都
川村淳浩, 三森 敏司	バイオマス固形燃料燃焼灰の循環と利用に関する研究	JSME 27th 環境工学総合シンポジウム2017講演論文集	pp.183-184	2017.7.12	浜松
川村淳浩	小径バイオコークスの製造とベルト・ストープへの適用	スマートプロセス学会環境・エネルギープロセス部会第7回環境とエネルギープロセスのワークショップ		2017.8.19	豊橋市
Yutaro Nagamori*, Tomonori Yasua*, Takaaki Maeda, Hidoki Funamizu* and Yoshitaka Aizu*	Development of skin tissue phantom having a shape of nikau cuts and crista cuts	Proc. SPIE 10251(2017.4), Biomedical Imaging and Sensing Conference	Volume 10251, 102511N		SPIE Technologies and Applications of Structured Light, 2017, Yokohama, Japan
Shoki Takahashi*, Takaaki Maeda, Hidoki Funamizu*, Tomonori Yasua* and Yoshitaka Aizu*	Quantitative evaluation on the depth and spread of light propagation in skin tissue using Monte Carlo simulation	Proc. SPIE 10251(2017.4), Biomedical Imaging and Sensing Conference	Volume 10251, 102511O		SPIE Technologies and Applications of Structured Light, 2017, Yokohama, Japan
Kota Mizumura*, Yuto Hamabusa*, Takaaki Maeda, Hidoki Funamizu*, Tomonori Yasua* and Yoshitaka Aizu*	Monte Carlo simulation of skin image using a skin model with surface texture	Proc. SPIE 10251(2017.4), Biomedical Imaging and Sensing Conference	Volume 10251, 102511P		SPIE Technologies and Applications of Structured Light, 2017, Yokohama, Japan
Tomonori Yasua*, Yutaro Nagamori*, Takaaki Maeda, Hidoki Funamizu* and Yoshitaka Aizu*	Development of skin tissue phantom having a shape of nikau cuts and crista cuts with lower temporal deterioration	Proc. SPIE 10412(2017.7), Diffuse Optical Spectroscopy and Imaging VI	Volume 10412, 104120U		European Conferences on Biomedical Optics, 2017, Munich, Germany

(次頁へ続く)

資料 9 - 1 - ⑤ - 1 (続き)

英 勇斗*, 高橋成幸*, 水沼孝太*, 船水英希*, 前田貴章, 湯浅友典*, 相津佳永*	皮膚光伝播シミュレーションにおける光伝達深さと広がりに関する解析	日本機械学会北海道支部第54回講演会	pp.111	2016.10	北海道大学
橋本登平*, 永森祐太郎*, 前田貴章, 湯浅友典*, 船水英希*, 相津佳永*	皮膚ファントムの表面形状再現とその光学特性に関する検討	日本機械学会北海道支部第54回講演会	pp.114	2016.10	北海道大学
森 雅貴*, 湯浅友典*, 船水英希*, 前田貴章, 相津佳永*	3Dスキャナと3Dプリンタによる生体曲面部位の試作に関する検討	日本機械学会北海道支部第54回講演会	pp.124	2016.10	北海道大学
水沼孝太*, 高橋成幸*, 英 勇斗*, 前田貴章, 船水英希*, 湯浅友典*, 相津佳永*	凹凸表面を付加した皮膚モデルによる光伝播モンテカルロシミュレーション	Optics & Photonics Japan 2016	講演予稿集CD, 1pP33	2016.11	筑波大学東京キャンパス文京校舎
永森祐太郎*, 湯浅友典*, 前田貴章, 船水英希*, 西原 泉*, 相津佳永*	皮膚と皮下の形状を有する皮膚ファントムの開発	Optics & Photonics Japan 2016	講演予稿集CD, 1pP94	2016.11	筑波大学東京キャンパス文京校舎
高橋成幸*, 前田貴章, 船水英希*, 湯浅友典*, 相津佳永*	モンテカルロシミュレーションによる皮膚光伝播の深さと広がりに関する定量的考察	Optics & Photonics Japan 2016	講演予稿集CD, 1pP35	2016.11	筑波大学東京キャンパス文京校舎
橋本登平*, 永森祐太郎*, 前田貴章, 湯浅友典*, 船水英希*, 相津佳永*	皮膚ファントムの改良と皮膚表面形状付与に関する検討	第6回応用物理学関係連合講演会	予稿集DVD, 16p-P11-8	2017.3	バンフィヨ横浜
英 勇斗*, 船水英希*, 前田貴章, 湯浅友典*, 相津佳永*	モンテカルロ法を用いた9層構造皮膚モデルにおける光子ランダムウォークの時間的解析	第6回応用物理学関係連合講演会	予稿集DVD, 16p-P11-9	2017.3	バンフィヨ横浜
森 雅貴*, 前田貴章, 湯浅友典*, 船水英希*, 相津佳永*	3次元造形技術を用いた曲面型皮膚ファントムの試作に関する検討	第6回応用物理学関係連合講演会	予稿集DVD, 16p-P11-10	2017.3	バンフィヨ横浜
森 雅貴*, 湯浅友典*, 船水英希*, 前田貴章, 相津佳永*	3Dスキャナと3Dプリンタによる曲面型皮膚ファントムの試作に関する検討	第52回応用物理学学会北海道支部/第13回日本光学会北海道地区 合同学術講演会	C-16	2017.1	北見工業大学
橋本登平*, 永森祐太郎*, 前田貴章, 船水英希*, 湯浅友典*, 相津佳永*	3層皮膚ファントムにおける技術考査の抑制	第52回応用物理学学会北海道支部/第13回日本光学会北海道地区 合同学術講演会	C-17	2017.1	北見工業大学
英 勇斗*, 高橋成幸*, 水沼孝太*, 船水英希*, 前田貴章, 湯浅友典*, 相津佳永*	モンテカルロ法に基づく凹凸表面を付加した皮膚モデルにおける光伝播シミュレーション	第52回応用物理学学会北海道支部/第13回日本光学会北海道地区 合同学術講演会	C-19	2017.1	北見工業大学
関根孝次	機械系工学教育・研究に関する一考察	日本設計工学会 北海道支部2016年度支部総会特別講演会		2017.3.20	北海道科学大学
関根孝次, 樋上 碧	振動を利用した発電に関する一考察	日本機械学会 北海道支部55回講演会 講演集変集	No.172-2 pp.15-16	2017.9.23	釧路商専
石塚和樹	凍結融解前後環境下の溶接構造物における孔食進展因子の解析	総合技術研究会2017東京大会	CD-ROM	2017.3.10	東京大学
石塚和樹	凍結融解環境下にあるステンレス鋼の孔食に及ぼす溶接方法の違いによる影響	北海道支部第53回講演会		2017.9.23	釧路商専
野口孝文	A Cyber-Physical Learning Environment Combined with IoT	ISIP'2016 (International Workshop on Information Search, Integration, and Personalization), the university of Lyon.		2016.11.02	France
野口孝文, 千田和範, 稲守 栄	IoTを基盤としたサイバーフィジカルな学習支援環境の開発	人工知能学会第78回先進的学習科学と工学研究会	pp.12-15	2016.11	東京
野口孝文, 千田和範, 稲守 栄	協働作業を支援するIoTを用いた学習環境	教育システム情報学会研究報告	Vol.31, No.5, pp.57-58	2017.1	愛媛大学
野口孝文, 千田和範, 稲守 栄	LEGOを用いた協調学習支援システムのための動作環境の開発	情報処理学会第79回全国大会	4分冊, pp. 4-435-436	2017.3	名古屋大学
野口孝文, 千田和範, 稲守 栄	ロボットを用いた協調学習環境の開発	ロボティクス/メカトロニクス講演会報告	20' K11,	2017.5	郡山
野口孝文	サイバーフィジカルな学習支援システムの開発	人工知能学会全国大会	pp.4, 201-3,	2017.5	ウインクあいち
野口孝文	学生が制作したプログラムのオブジェクト数を用いたクラス別学習手法の開発	電子情報通信学会, 教育工学研究会	vol.117, No. 119, pp.23-28	2017.7	山形
野口孝文, 梶原秀一*	プログラミング教育のためのロボット教材	情報処理学会 情報教育シンポジウム	研究会資料, pp.145-151	2017.8	千葉
野口孝文, 梶原秀一*, 千田和範, 稲守 栄	ロボットの動作を短ながら実行体系的にプログラムできる教材ロボットの開発	教育システム情報学会全国大会	pp.423-434	2017.8	北九州
野口孝文, 千田和範, 稲守 栄	IoT機能を持つロボットを用いた協調学習環境	35回日本ロボット学会学術講演会	pp. 2, 査読無	2017.9	東洋大学
千田和範, 稲守 栄, 野口孝文	実行錯誤実装の克服向上のための組込みマイコンを活用したネットワーク型実験支援環境の開発	情報処理北海道シンポジウム2016 講演論文集	pp.10-11	2016.10.1	
千田和範, 野口孝文, 稲守 栄	理科教育プログラムのための学習過程記録システムの開発とその効果	2016年度 教育システム情報学会第60回研究会	pp.71-74	2017.3.18	

(次頁へ続く)

資料 9 - 1 - ⑤ - 1 (続き)

千田 伸昭, 野山 幸文, 宿 守 宏	汎用基盤型理科教育プログラムのための思考支援システムの開発	第42回 教育システム情報学会 全国大会		2017.8
千田 伸昭, 土庄 由樹, 長 崇徳, 宿 守 宏, 津 貴 礼	高校教育者向けのための学習支援用授業プログラムの開発	第42回 教育システム情報学会 全国大会		2017.8
藤尾 明日香*, 千田 伸昭	鉄道車両動向におけるロボットを用いた車両位置検出システムの開発	第42回 教育システム情報学会 全国大会		2017.8
本田 匠 (執筆)	アクサス性駆動の駆動力解析のためのソフトウェアシステム	情報処理北海道シンポジウム2016		2016.10.2
本田 匠 (執筆)	アクサス性駆動の運動特性評価システムの開発	平成28年度電気・情報制御学協会北海道支部大会		2016.11.5
佐々木 七 (執筆)	履帯輸送による駆動機構駆動システムの開発 - ベースポートを用いた駆動機構駆動の一覧の提供	道庁道徳教育学会2017年大会	21pp.198	2017.3
戸谷 伸之 (執筆)	スマートフォンを用いた土壌の加速感に応じた歩行制御の試み	工学技術	WIT2016-39, Vol. 116, No. 248, pp. 35-38, 2016.	2016.10.17
戸谷 伸之 (執筆)	Proposal and Evaluation of the Gait Classification Method Using Arm Acceleration Data and Decision Tree	Proceedings of the International Conference on Artificial Life and Robotics		2017.1
戸谷 伸之 (執筆)	スマートフォンを用いた土壌の加速感に応じた歩行制御の試み	工学技術	WIT2016-39,	Vol. 116, No. 248, pp. 35-38, 2016.
戸谷 伸之 (執筆)	スマートフォンを用いた歩行制御用アプリケーションの開発	平成28年度電気・情報制御学協会北海道支部大会		講演論文集 117
戸谷 伸之 (執筆)	つまずき防止のための歩行制御用アプリケーションの開発	平成28年度電気・情報制御学協会北海道支部大会		講演論文集 118
戸谷 伸之 (執筆)	LED照明による植物育成のための 多様な発光パターンを用いた制御システムについて	平成28年度電気・情報制御学協会北海道支部大会		講演論文集 124
大前 雄斗 (執筆)	ゾルゲル法による電圧すず清浄の作製	応用物理学会(多元系化合物・薄膜電界研究会)年次講演会		2016.12.9
大前 雄斗 (執筆)	電圧制御によるZnO:Sn:Ga膜の作製	応用物理学会(多元系化合物・薄膜電界研究会)年次講演会		2016.12.9
渡邊 隼	A 3D brain activity analysis system with head local coordinates (in model)	2017 RSP International Workshop on Nonlinear Circuit, Communication and Signal Processing	Hyatt Regency Guam	2017.2 Guam, USA
三田 幸*, 三森 剛, 川 大 樹*	懸垂装置コントローラの開発要件に及ぼす開発姿勢の重要性	2017年度日本建築学会大会(40回)		2017.9.3 広島工業大学
藤原 彰輔*, 加藤 雅也	鉄道非止まる地域を対象とした簡易作車装置システム	平成28年度中核技術研究会		2017.2 北見工業大学
西澤 昌夫 (執筆)	改良したアノード炭素担体における放射線照射誘起反応の改修に関する報告	日本建築学会北海道支部研究報告集(90)		2017.6
大村 清史*, 杉 林 進 雄, 渡 辺 俊*	大学図書館におけるアーキテクチャ空間の環境実態と学生の利用動向	日本建築学会日本建築学会大会学術講演集(建築140回)材料建築工No.521-522		2017.9.1 広島工業大学
田邊 大*, 杉 林 進 雄, 渡 辺 俊*	人口減少時代を踏まえた大学の都市圏の環境実態に関する研究 多様性に関する指標を用いた都市圏中心域の形態分析	日本建築学会日本建築学会大会学術講演集(建築140回)pp.1063-1064		2017.9.1 広島工業大学
森 雅博*, 佐藤 新平	寒冷地における中絶した汚染の放射線照射誘起反応に関する調査	日本建築学会北海道支部研究報告集(90)	pp.147-150	2017.6 岩手工業大学
高橋 隼*, 佐藤 新平, 内藤 浩太, 阿部 昌之*, 森 太郎*	改良したアノード炭素担体における放射線照射誘起反応の改修に関する報告	日本建築学会北海道支部研究報告集(90)	pp.151-156	2017.6 岩手工業大学

4.科学研究費

研究代表者	研究課題	研究費名	研究期間
渡邊 隼	大気圧下プラズマ(CVD)法によるアルファルファ素新素材の制御技術の開発	若手研究(B)	平成26～29年度
松本 和雄	SQLDB 駆動によるインジケーションシステムの構築と操作性評価に関する研究	基盤研究(C)	平成27～30年度
村上 金一	細胞の膜の電位の定式化と制御的効果の研究	基盤研究(C)	平成27～30年度
高橋 隼	道徳空間環境で引かれる質的状態制御回路の高度化と高度化の研究	基盤研究(C)	平成27～29年度
高 貴礼	非電圧駆動における大電力システム(電圧・電流・電位)の制御特性評価	基盤研究(C)	平成27～29年度
加 徳光	FPGA 制御回路を用いたIC 素子の制御特性向上に関する研究	基盤研究(C)	平成27～29年度
中 正明	道徳空間環境の制御回路の研究	基礎的調査研究	平成27～29年度
山田 潤	PC 制御システムを構築可能な新しい産業制御支援システム	基盤研究(B)	平成28～30年度

(次頁へ続く)

資料 9 - 1 - ⑤ - 1 (続き)

野村孝文	IoT 基盤によるサイバーフィジカル学習環境の研究	基盤研究 (C)	平成28～30年度
千田和裕	複数校連携型教育プログラムの異なる観点からの学習者の気づきと進捗モニタリングの開発	基盤研究 (C)	平成28～30年度
高木敏幸	記憶直前記憶行支援システムの開発	基盤研究 (C)	平成28～30年度
梅津敏志	多象の境界のメタメタに基づくブロックチェーン勢力の研究	基盤研究 (C)	平成28～30年度
小林 洋	大気監視風向を用いた航行ブルーム内部の汚染削減計画による濃度変動特性のモデル化	基盤研究 (C)	平成28～30年度
森脇あず	物中視覚評価を目的とした皮膚感・心拍数の計測法に関する研究	基盤研究 (C)	平成28～30年度
甲島陽子	テキストの形態パターン情報を活用した汎用型未来志向的支援システムの開発	基盤研究 (C)	平成29～31年度
田村啓彦	バイオマス固形燃料の生産性向上とクランクシャフト機構に関する研究	基盤研究 (C)	平成29～31年度
佐々木敬	車載給電者の QOL 向上のための意識調査に関する研究	基盤研究 (C)	平成29～31年度

5. 卒業研究指導発表・専攻科特別研究指導発表

指導教員氏名	発表大会名	講演題目	学生氏名	発表場所
甲島陽子	自治体理学会	指針度と理想を用いた総論表規制定に関する研究	関口直希	筑波大学
甲島陽子	ICACTA	Protocol of the Recommendation System Based on User Evaluation and Geometric Information	森田智史	Bari, Indonesia
高 義礼	平成28年度釧路工業高等専門学校専攻科学生特別研究発表会	水中航行に適用する水圧抵抗用の最適化	喜多見 航	調剤フジシボカール
千田和裕	2016年度 JSSE学生研究発表会 (北海道地区)	国際移動圏における2次元ノードネットワークを用いた施設案内システムの開発, JSSE学生研究発表会, pp5-9, 2017	藤原 勇	千歳科学技術大学
千田和裕	2016年度 JSSE学生研究発表会 (北海道地区)	国際移動圏における2次元ノードを用いた施設案内システムの研究, JSSE学生研究発表会, pp11-12, 2017	藤原 勇	千歳科学技術大学
加藤智也	平成28年度釧路工業高等専門学校専攻科学生特別研究発表会	航空用部品における品質改善に関する研究	佐藤智希	調剤フジシボカール
森脇あず	日本建築学会北海道支部環境工学系学術論文発表会EGG'16	従来の建造物の既存構造と屋根コネクタに関する調査	宇野 新	札幌市立大学サテライトキャンパス
森脇あず	日本建築学会北海道支部環境工学系学術論文発表会EGG'16	熱中症リスク評価を目的とした皮膚感・心拍数の利用法に関する研究	矢野 元	札幌市立大学サテライトキャンパス
森脇あず	日本建築学会北海道支部環境工学系学術論文発表会EGG'16	IoTセンサーを利用した熱中症リスクセンサー開発に関する研究	長瀬 真司	札幌市立大学サテライトキャンパス
大槻香子	日本建築学会北海道支部環境工学系学術論文発表会EGG'16	高齢における若年層の住居・生活環境調査研究～Fuel Poverty問題に向けての基礎的調査～	田村 健哉	札幌市立大学サテライトキャンパス
大槻香子	日本建築学会北海道支部環境工学系学術論文発表会EGG'16	暑熱期における学校建築の空調システムの性能評価-02-	中村 健輔	札幌市立大学サテライトキャンパス
佐藤新治	日本建築学会北海道支部環境工学系学術論文発表会EGG'16	再生アース技術の普及促進とその変遷について	阿部 尊之	札幌市立大学サテライトキャンパス
佐藤新治	日本建築学会北海道支部環境工学系学術論文発表会EGG'16	再生資源による建築物の断熱性能の検証に関する研究	宇谷 秀文	札幌市立大学サテライトキャンパス

6. 表彰

受賞者名	授賞機関名	賞名	受賞年月日・受賞研究題目
上江田 隼太・山田 昌樹・林 裕樹・滝 聖太郎・宮尾 悠希*	情報科学技術フォーラム運営委員会	第14回情報科学技術フォーラムIT奨励賞	2017年14 種学科別のために報告の一部を掲載している支援者のシステム化の促進
野村孝文, 千田和裕, 福守 安	教育システム情報学会	2017年教育システム情報学会論文賞	2017年論文賞から上級者セミナー・レビューにプロダクシングを学べることから持続可能な教育環境の構築

(出典 本校「紀要」第 51 号, 平成 30 年 1 月)

(分析結果とその根拠理由)

研究活動の一部については、教育活動と相互関連のものとして実施しており、外部機関からの好評価も得ている。

以上により、研究活動が教育の質の改善に多少は寄与している。

観点 9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントが、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

(観点に係る状況)

教務委員会では、毎学期に全教員を対象として、相互の授業公開(資料 9-2-①-1～3)を実施し、授業方法・技術の継続的改善・向上を図っている。総務課では、毎年度に教員の全体または一部を対象として、社会情勢に対応した一般的なテーマの研修会(資料 9-2-①-4)を実施し、社会から期待される教員の意識・能力の拡大・適応を図っている。また本校では適宜に、本校の教育・研究活動に関連した専門的なテーマの講演会等(資料 9-2-①-5～7)も実施している。

なお現状としては、これらの施策の効果の検証までは実施できていない。

資料 9 - 2 - ① - 1

5 月定例教務委員会
H29.5.2
資料 9

平成 29 年度 前期授業公開実施要領

1. 目的

教員の相互参観を行い相互に参考とすることで授業技術の改善・向上を図る。

2. 参観者

座学を対象とするため、本校教員（非常勤講師含む）を対象とする。

3. 実施期間

平成 29 年 5 月 10 日（水）～平成 29 年 5 月 23 日（火）

（レポート提出期限は 5 月 30 日（火））

4. 実施方法

- 1) 本校着任 3 年以下の教員（教員経験のない教員）は必ず 3 科目以上の授業を参観する。
- 2) その他の教員は必ず 1 科目以上の授業を参観する。
- 3) 授業公開については座学の授業を参観することとする。
- 4) 各教員は、「授業参観レポート」を各学科教務委員に提出する。
- 5) 教務委員は提出されたレポートを集約し、修学支援係に提出する。
- 6) 修学支援係は提出されたレポート数を教務委員会に報告する。
- 7) 教務委員会は授業公開実施状況について運営委員会に報告する。
- 8) 集約作業は参観期間終了後、速やかに行う。

5. その他

参観について、事前承諾は不要です。いつでも、教室に入って参観できるものとします。

他教員の技術を参考として、自分の授業技術を向上させることを目指します。したがって、参観した授業で「参考となった点」を自由に記述する様式になっています。

（出典 平成 29 年 5 月定例教務委員会資料）

資料 9 - 2 - ① - 2

授業参観レポート

記入者 _____

☆参観した授業の参考となった点について、自由にお書きください。項目に当てはまらない事項は自由記述欄に記入してください。

参観した授業に関するデータ	日時	月	日	時限	時限
学年学科・科目名				担当教員	
参考点 1 : 授業方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・板書や図示は最後列からも見やすくなっている。 ・声は最後列でも十分に聞き取れる。 ・学生の参加を促している。 ・副教材を使っている場合、有効に利用されている。 等 					
自由記述欄					
参考点 2 : その他					
<ul style="list-style-type: none"> ・学生を見ながら進行している。 ・質問には適切に答えている。 ・円滑な授業進行を心掛けている。 ・学生の参加を促す工夫がある。 ・学生の興味を引くような工夫がある。 等 					
自由記述欄					

(出典 学生課作成資料)

資料9-2-①-3

「授業公開の実施状況の例」

平成29年度6月定例教務委員会（6月7日実施）

日 時 平成29年6月7日（水）16時4
場 所 小会議室

1. 報告事項

- (1) 学生の修学状況について (資)
- (2) 病欠欠席について (資)
- (3) 道内4高専教務主事会議について (資)
- (4) 平成29年度第1回教育プログラム開発委員会（COC+）について (資)
- (5) 平成29年度前期授業公開について (資)
 一般理→3名（5件），一般文→6名（8件），M→4名（8件）
 E→6名（6件），D→1名（1件），J→6名（7件），A→4名（7件）
- (6) 学び直し支援金について
- (7) その他 (資)
 - ・3Mの長期入院学生について
 - ・教室配置の移動について
 - ・第1回道内4高専AL推進委員会について
 平成29年6月20日（火）16:30～ GI-net
 - ・学生情報統合システム・時間割システムデモンストレーションについて
 平成29年5月15日（月）15:30～17:00 GI-net

2. 審議事項

- (1) 7月月間行事予定（案）について (資)
- (2) 見学旅行の実施について (資)
- (3) 原級留置・退学学生の削減について (資)
- (4) 修了退学制度の見直し（案）について (資)
- (5) JABEEで要求する成績関係資料について (資)
- (6) ウェブシラバス導入に係るスケジュール（案）について (資)
- (7) 平成29年度非常勤講師の採用について (資)
- (8) モデルコアカリキュラムについて
- (9) その他

（以下省略）

（出典 平成29年6月定例教務委員会議事録）

資料 9 - 2 - ① - 4

「教育関連研修の実施状況」

03 教員の研修

9 教員対象のFD・研修等の実施・参加状況

釧路工業高等専門学校

(年度計画抜粋)

教員の能力向上を目的とした各種研修について、研修講師への高等学校教員経験者や優れた取組を実践している者の活用や、ネットワークの活用などを図りつつ、企画・開催する。
また、地元教育委員会等が実施する高等学校の教員を対象とする研修や道庁大学等が実施するFDセミナー等への各高専の参加状況を把握し、派遣を推進する。

No.	FD・研修等名称	研修等区分	主催者等区分	主催者	実施日時		参加者数				備考	
					開始日	終了日	教員	事務職員	技術職員	学生		
1	平成29年度釧路工業高等専門学校職員研修	18.その他	1.国立高専(自高専)	釧路高専	H30.3.19	~ H30.3.19	3					アンガーマネジメント対応研修(教職員対象研修)
2	「特別な支援を必要とする学生への指導について」	5.学生支援・留学生支援	1.国立高専(自高専)	釧路高専	H30.1.18	~	54					
3												
4												
5												
6												
7												
8												
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
16												
17												
18												
19												
20												
21												
22												
23												
24												
25												
26												
27												
28												
29												
30												
31												
32												
33												
34												
35												
36												
37												
38												
39												
40												
41												
42												
43												
44												
45												
46												
47												
48												
49												
50												

(出典 総務課作成資料)

資料 9 - 2 - ① - 5

「研究費関連研修の実施例」

平成 29 年 8 月 31 日

各国立高等専門学校長 殿
各国立高等専門学校研究担当責任者（副校長等） 殿

独立行政法人国立高等専門学校機構
理事（研究推進・産学連携本部長）
紀 聖 治

「平成 29 年度国立高等専門学校機構 科学研究費助成事業講習会」
開催について（通知）

平素より国立高専の研究・産学官連携活動にご尽力いただき誠にありがとうございます。
平成 30 年度科学研究費助成事業（以下、科研費という。）については、各学校で応募に向けて準備を進めておられることと存じます。

研究推進・産学連携本部では、一昨年度から各学校における科研費の採択率の向上のための講習会を企画・実施しているところであり、今年度は下記のとおり開催いたします。各学校におかれましては教職員に周知いただき、積極的に受講いただくようお願いいたします。

については GI-net の準備の都合上、9 月 6 日（水）までに受講希望について回答いただきますようお願いいたします。

記

1. 日 時：第 1 回 平成 29 年 9 月 11 日（月） 16：00～17：00
コース名：新審査システムに対応した
採択される科研費申請ノウハウ
配信会場：高専機構本部竹橋オフィス
講 師：岡田益男氏（前八戸高専校長）
- 第 2 回 平成 29 年 9 月 12 日（火） 15：30～17：00
コース名：「科研費採択事例集」の活用
会 場 校：長岡高専
講 師：斉藤秀俊氏（長岡技術科学大学教授）
- 第 3 回 平成 29 年 9 月 14 日（木） 15：30～17：00
コース名：ワンランクアップの科研費申請
会 場 校：石川高専
講 師：斉藤秀俊氏（長岡技術科学大学教授）

※いずれの講習会も、後日録画配信いたします。

（出典 高専機構本部作成資料）

資料9-2-①-6

「プロジェクト関連研修の実施例」

Subject: [Jimu-ml:14580] 「共同教育IoT実践講座ー FaBoロボットカー+デバイス WebAPI ー」について
 From: 釧路高専学生課専門職員 (IoT教育担当) <kyoumug@office.kushiro-ct.ac.jp>
 Date: 2018年01月15日 11:11
 To: 教員全体 <tstaff@gcc.kushiro-ct.ac.jp>, 事務全体 <jimu-ml@gcc.kushiro-ct.ac.jp>

教職員各位

学生課専門職員 [] です。

「共同教育IoT実践講座ー FaBoロボットカー+デバイス WebAPI ー」について、鳥羽商船高専から下記のとおり開催の案内がありましたのでお知らせします。
 参加を希望する場合は、平成30年1月18日(木)までに学生課専門職員柴田 (kyoumug@office.kushiro-ct.ac.jp) に連絡願います。
 なお、ロボットカーのキットの貸出を希望する場合は、その旨もお知らせください。
 詳細は、ガルーンに掲載しております。

○ガルーン：
 掲示板>連絡>共同教育IoT実践講座(ビデオ会議システム)
<https://group2.sys.kushiro-ct.ac.jp/cgi-bin/garoon/grn.cgi/bulletin/view?cid=3&aid=11>

記

- 1 日時 平成30年1月29日(月) 16:00から17:30まで
- 2 場所 本校小会議室(ビデオ会議システム)
- 3 内容
 - ・デバイスWebAPIについての説明
 - ・FaBoロボットカーを制御するデモ

--

 釧路工業高等専門学校
 学生課専門職員(課外活動, 学生相談, IoT教育担当)

〒084-0916 北海道釧路市大楽毛西2-32-1
 TEL 0154-57-7224
 FAX 0154-57-6256
 E-mail:
 課外活動・学生相談: gakuseiq@office.kushiro-ct.ac.jp
 IoT教育: kyoumug@office.kushiro-ct.ac.jp

(出典 学生課作成メール)

資料 9 - 2 - ① - 7

「プロジェクト関連研修の実施例」

Subject: [Jimu-ml:14607] IoT関連講演会（1月26日（金））の開催について
 From: 釧路高専学生課専門職員（IoT教育担当） <kyoumug@office.kushiro-ct.ac.jp>
 Date: 2018年01月22日 11:08
 To: 教員全体 <tstaff@gcc.kushiro-ct.ac.jp>, 事務全体 <jimu-ml@gcc.kushiro-ct.ac.jp>

教職員各位

校長

IoT関連講演会の開催について

このことについて、下記のとおり実施しますので、お知らせ
 します。
 ご多忙中とは思いますが、極力ご参加ください。
 また、IoTに興味がある学生にも参加を呼びかけてください。

記

- 1 日 時：平成30年1月26日（金） 15：00から（1時間程度）
- 2 会 場：大講義室
- 3 講 師：近森 満氏
 （株式会社サートプロ 代表取締役）
- 4 内 容：「いま求められるIoT人材」
 IoT技術が急速に伸び、産業に必要な不可欠な技術要素になって
 きている中、IoTという新たな分野で求められる知識は、今まで関
 わってきたIT分野の知識とは違ってきており、IoT化を実現・遂行化
 するための人材が不足していると言われている。その様な状況
 において、必要とされる人材について講演いただく。
- 5 対 象：本校教職員 及び IoTに興味がある学生

※本講演会は、釧路市の支援により実施するものです。

※本校は「第4次産業革命を推進するIoT 活用技術者の育成教育
 プログラム」を進めていきます。
 （平成29年度「“KOSEN（高専）4.0”イニシアティブ」採択事業）
 参考）本校HP：

https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/d3blog_02/details.php?bid=790

 釧路工業高等専門学校
 学生課専門職員（課外活動、学生相談、IoT教育担当）

〒084-0916 北海道釧路市大葉毛西2-32-1
 TEL 0154-57-7224
 FAX 0154-57-6256
 E-mail:
 課外活動・学生相談：gakuseiq@office.kushiro-ct.ac.jp
 IoT教育：kyoumug@office.kushiro-ct.ac.jp

（出典 学生課作成メール）

(分析結果とその根拠理由)

教育の継続的改善を図るため、教員相互の授業公開および多様な研修会等を実施している。

以上により、ファカルティ・ディベロップメントが、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に多少は結び付いている。

観点 9-2-②： 教育支援者等に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

(観点に係る状況)

事務職員や技術職員を対象とした教育支援者に対する研修は、主として本校の総務課が所掌する(資料 9-2-②-1)。事務職員や技術職員の資質の向上を図るために行った2017年度の研修を資料 9-2-②-2に示す。TAは、授業補助員として専攻科学生が本科学生の授業で補助業務を行う。TAの資質の向上を図るための取組は専攻科委員会の所掌事項であり、TAの業務を開始する前に全TAに対するガイダンスを行っている(資料 9-2-②-3)。

資料 9 - 2 - ② - 1

○釧路工業高等専門学校事務組織及び事務分掌規則

(平成 27 年 5 月 28 日 釧高専達第 2 号)

改正 平成 28 年 3 月 23 日 釧高専達第 14 号

第 1 章 総則

(目的)

第 1 条 この規則は、釧路工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第 11 条に基づき、釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）における事務組織及びその分掌に関し必要な事項を定める

— 中略 —

第 3 章 事務分掌

第 1 節 課の事務分掌

(総務課)

第 12 条 総務課においては、次の各号に掲げる事務をつかさどる。

- 一 学校の事務に関し、総括し及び連絡調整すること。
- 二 機密に関すること。
- 三 儀式、諸行事及び会議に関すること。
- 四 規則の制定及び改廃に関すること。
- 五 渉外に関すること。
- 六 文書管理に関すること。
- 七 広報に関すること。
- 八 情報公開に関すること。
- 九 個人情報の保護に関すること。
- 十 公印の管守に関すること。
- 十一 構内警備に関すること。
- 十二 中期計画及び年度計画に関すること。
- 十三 評価に関すること。
- 十四 事務の改善、合理化及び情報化の推進に関すること。
- 十五 任免、給与、懲戒及び服務等の人事に関すること。
- 十六 出張に関すること。
- 十七 研修及び人事考課に関すること。
- 十八 教職員の健康管理、安全管理、福祉及び災害補償に関すること。
- 十九 共済組合に関すること。
- 二十 栄典及び表彰に関すること。
- 二十一 組織及び機構の整備に係る企画、調査統計及び連絡調整に関すること。

(出典 釧路高専規則集 第 2 章 組織 2-2 事務組織及び事務分掌規則)

資料 9 - 2 - ② - 2

H29 年度 事務職員・技術職員対象の SD・研修等の実施・参加状況

10. 事務職員・技術職員対象のSD・研修等の実施・参加状況 (年度計画抜粋)									
事務職員や技術職員の能力向上を図るための研修会を計画的に実施するとともに、国、地方自治体、国立大学法人、一般社団法人国立大学協会などが主催する研修会に参加させる。									
No.	SD・研修等名称	研修等区分	主催者等区分	会場	実施日時	参加者数	備考	職別	備考
	平成29年度独立行政法人国立高等専門学校機構担任職員研修会			国立オリンピック記念青少年総合センター	H29.4.17～H29.4.19	1		事務職員	
	平成29年度独立行政法人国立高等専門学校機構担任職員研修会			学術総合センター	H29.6.12～H29.6.13	1		事務職員	
	平成29年度独立行政法人国立高等専門学校機構担任職員研修会		6国立大学法人	北海道大学	H29.6.12～H29.6.14	1		事務職員	
	平成29年度北海道地区メンター養成研修会		3国	札幌第3合同庁舎	H29.6.16～H29.6.16	1		事務職員	
	平成29年度IT人材育成研修会			島川インテーンシティ10階	H29.8.10～H29.8.10	1		事務職員	
	平成29年度北海道地区国立大学法人等技術職員研修会		6国立大学法人	北海道大学	H29.8.23～H29.8.25	2		事務職員	
	平成29年度北海道地区学生指導研修会		6国立大学法人	北海道大学	H29.8.24～H29.8.25	1		事務職員	
	平成29年度独立行政法人国立高等専門学校機構担任職員研修会(建設・環境系)			長岡技術科学大学	H29.8.30～H29.9.1	1		事務職員	
	平成29年度全国国公立高等専門学校学生支援委員会		3国	東京大学本郷キャンパス	H29.9.12～H29.9.13	1		事務職員	
	国公立高等専門学校学生支援委員会			国立オリンピック記念青少年総合センター	H29.10.10～H29.10.11	1		事務職員	
	平成29年度北海道地区国立大学法人等社会事業研修会		6国立大学法人	北海道大学	H29.10.11～H29.10.13	1		事務職員	
	情報システム統一研修(平成29年度第3回)		3国	CD-ROM受講	H29.10.12～H29.12.22	1		事務職員	第3回XML技術
	平成29年度国立高等専門学校機構情報推進委員会			学術総合センター	H29.10.25～H29.10.27	1		事務職員	他教員1名参加
	平成29年度全国障害学生支援セミナー		8独立行政法人	タイム24ビル	H29.11.2～H29.11.2	1		事務職員	
	平成29年度北海道地区国立高等専門学校機構担任職員研修会		1国立高等(自高等)	新館高等	H29.11.16～H29.11.17	21		事務職員	道内高等合同SD研修
	平成29年度北海道地区国立大学法人等学生支援担当職員SD研修		6国立大学法人	北海道大学	H29.12.14～H29.12.15	1		事務職員	
	情報システム統一研修(平成29年度第4回)		3国	CD-ROM受講	H30.1.12～H30.3.22	1		事務職員	第4回データ分析技法
	平成29年度釧路工業高等専門学校職員研修会		1国立高等(自高等)	新館高等	H30.3.19～H30.3.19	13		事務職員	アソシエイト対応研修(教職員対象研修)

資料 9 - 2 - ② - 3

資料 7	
専攻科委員会	
H29.4.4	
平成 29 年度専攻科(第 1 学年)ガイダンス日程	
実施日：平成 29 年 4 月 6 日 (木) 場所：S203 教室・専攻科計算機演習室	
時 間	事 項
9:00～	<ul style="list-style-type: none"> ○ネットワークガイダンス (林、小清水) ○ガイダンス終了後 S203 教室へ

— 中略 —

	<ul style="list-style-type: none"> ○その他 <ul style="list-style-type: none"> (1) 学内の施設利用 ・専攻科棟 (2) 学生生活関係 ・掲示(専攻科 HP)、学生相談室、喫煙 (3) JABEE ガイダンス (4) TA ガイダンス (5) その他 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書購入 ・広報に関わる個人情報の扱いについて ・TOEIC、英語検定の資格取得
11:00	終了予定

(出典 H29年度 専攻科委員会4月定例議事録)

(分析結果とその根拠理由)

事務職員や技術職員を対象とした教育支援者に対する資質の向上のための研修は、総務課により所掌され、適切に実施されている。TAの資質の向上を図るための取組は専攻科委員会の所掌事項であり、全TAに対するガイダンスを行っている。

以上により、教育支援者等に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

教育活動と連動した研究活動を展開し、外部機関からの好評価を得ている。

(改善を要する点)

研究活動およびFDを適切に実施してはいるが、それらによる教育改善の効果を検証していない。

(3) 基準9の自己評価の概要

教育の状況に関する資料は、教員及び各担当事務組織により適切に収集・蓄積されている。運営会議、自己点検・評価委員会、教務委員会を主体とするPDCAサイクルがあり、教育活動に関する各種の評価結果を教育の質の向上・教育改善に結びつけられるようなシステムが整備され、教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられている。

運営諮問委員会、企業アンケート、保護者の意見、意見箱等、学内外の意見を基にして、組織として及び教員個人の教育改善が適切に行われている。学生による授業評価を実施し、個々の教員は継続的に教育改善に取り組んでおり、本校はその状況を把握するとともに、学生に対しても開示している。

教員・技術職員は、教育活動とも連動した多様な研究活動を展開し、外部機関からの好評価も得ている。教員を対象として、相互の授業公開および多様な研修会等の教育改善活動を継続的に実施している。

事務職員や技術職員を対象とした教育支援者に対する資質の向上のための研修は、主として本校の総務課により所掌され実施されている。TAは専攻科学生が担当するため、専攻科委員会の所掌として、全TAを対象としたガイダンスを実施している。

したがって本校では、教育の質の向上及び改善のためのシステムが整備され、適切に機能している。